神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	明治初期における在留清国人籍牌関係史料（一） ―外務省記録『在留清国人民籍牌規則竝ニ実施一件』―
著者	岩壁義光
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学―　第 16 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	1990 年（平成 2 年）3 月
判型	JIS-B5（182mm × 257mm）

〈史料紹介〉

明治初期における在留清国人籍牌関係史料（一）

―外務省記録『在留清国人民籍牌規則竝ニ実施一件』―

岩壁　義光

【解題】

一、籍牌規則制定をめぐって

明治初期における開港場の条約未済国人問題で、とりわけその中心をなすのは在留清国人の処遇問題であった。清国人の問題を複雑にしていたのは、本来条約未済国人である以上は開港場への在留が基本的には不可能であるはずであるにもかかわらず、『続通信全覧』の「各港滞留条約未済外国人処分一件」[1]や外務省記録『条約未済国人及清国人取締方参考書』[2]にみられるように、外国商人が事務員や買弁、さらには自家手伝いとして雇用した清国人を日本へ容易に入国をさせるため自国民として入国させたケースが少なくなく、またこうした外国商人のうち事業に失敗するなど何らかの原因により日本から撤退せざるを得なくなった時点で同行した清国人を居留地内に放置するような事態が生じ、結果的に密入国同然の清国人が発生したことによって、明治政府と各開港場関係当局が在留清国人の実態を掌握できないでいたことに大きな原因があったと考えられる。しかも居留地内の外国商人は、その営業上、もしくは日常生活上で清国人と深い関わりを持っていたため、日本政府の清国人対応には神経をはらい、従って各国外交団もその処遇については深い関心を寄せていた。このことが条約未済国人の処遇は日本国民同様に取り行おうとする幕府および明治政府の行動を著しく鈍らせていたのであった。

先述したように清国人はその渡来経過と生活環境から函館では「従来外国人に附傭いたし生業相営内外取引者勿論争論等之節時ニ不都合之事而已多」（第三号文書）いいとの状況でもあり、また清国人と関係の深い長崎における清国人の動きは唐館廃止後「新地之内ニ居住シ又者外国人居住地内ニ入込ミ開店営業致居且又極貧之者ニ至リ而者往々不良之行をなし害を他人ニ及シ候者も不少」（第十号文書・別紙2－1）という状態も出現し、民事刑事両事件に関与した者も少なくなかった。特に刑事事件についてみれば、その劣悪な生活状態の中から発生する犯罪数は阿片吸引のほか、賭博行為、殴闘など比較的軽い犯罪を中心に横浜では「日々両三度」[3]という状態であったという。こうした犯罪に対して死罪以下については日本国法にて処罰され追放となるのが通常であったが、死罪のものについては各国領事立ち合いの下で日本側が取り調べることが定められており、清国人による太政官札贋札事件である「竹渓贋札事件」[4]にその典型的な経過がみられる。

こうした中で中央集権国家の建設に邁進する明治国家は、分散的管理とも思える各居留地ごとの対清国人管理を全国統一的法体系の中に位置づけることの重要性を認識し、その法体制の整備に着手した。これは明治元年以降各開港場関係当局からの統一的取締方法確立の要請を受けたものでもあったが、直接的に促す契機となったのは明治四年の「大日本国大清国修好条規」、いわゆる「日清修好条規」の締結であった。この修好条規は同時に締結された「大日本国大清国通商章程」と共に日清間の懸案であった友好通商条約であり、修好条規第八条により相互に外交官の常時駐劄が可能となって居留民を保護する法的根拠付けが成った。しかし開港場管理関係者にとっ

ては清国人居留の法的論拠と共に、実質的には居留清国人の監督・保護を行う外交官派遣こそが緊要課題であったが、ここに一つの問題が生れた。清国領事派遣が早急に、しかも各開港場に対し同時期になされる可能性が低いという事であった。この点を考慮して盛り込まれたのが修好条規第九条である。

「第九条[5]

両国ノ開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置ザル時ハ其人民貿易何レモ地方官ヨリ取締リ世話スベシ若シ犯罪ヲ犯サバ本人ヲ捕テ吟味ヲ遂ケ其事情ヲ最寄開港場ノ理事官ヘ掛合ヒ律ニ照シテ裁断スベシ」

この九条によれば清国が理事官、すなわち領事を派遣していない間に事件が起こった場合には日本の開港場当局が取締をなす事になっており、犯罪者が出た場合には逮捕して取調後にその事情を最も近い開港場の清国領事に報告し、日本国法によって裁判すべしと規定していた。この領事への報告と日本国法による裁判は先述したように一部は日本側がすでに清国人犯罪に対して措置してきた方法であったが、この措置に清国側が正式に同意した事を意味している。しかしこの措置は同時に新しい問題を惹起した。それは清国領事の駐箚しない開港場では日本官憲が在留清国人を監督・保護しなければならず、その経費を含め統一的な管理方法を構築する必要が生じたことであった。ここにクローズアップされたのが横浜、長崎で実施されていた籍牌による在留清国人管理方法であり、具体的には「在留清国人民籍牌規則」の制定である。

この「在留清国人民籍牌規則」は基本的には在留する清国人に籍牌を給付すること、つまり開港場官庁に出身地、在留状況などを内容とする自己の居住登録を行わせ居留証明である籍牌を給付することで正式な居留民と認め、日本の法的保護を加えることを意味していた。その籍牌給付を受けるに際し、管理運営費として被給付者は自己の日本における生計状態により上等下等の籍牌料を納めるよう義務付けられたのであった。しかしこの規則は籍牌料納入や清国人の権利についての問題点も多く完全な管理法としては十分機能したとは言い難かったが、欧米各国から攻守同盟の疑義を受けながらも条文的には対等条約として出発した「日清修好条規」を基礎に、明治国家が制定した最初の清国人取扱法規としての意味は決して軽視すべきではなく、また籍牌による管理方法が明治二七年日清戦争の勃発によって居留清国人の保護を目的に発せられた勅令第一三七号に継承されたことからみても、その持つ意味は大きいと言わざるを得ない。[6]

籍牌規則関係史料は、先述したように近代日本にとって最初の対等条約下における居留清国民関係法規であったため、現在でも旧開港場に関連した文書中には比較的残存率が高い。今回はそのうち最も基本となる外務省記録を収録したが、来年度以降はすでに調査済みの旧開港開市場に現存する籍牌関係史料を紹介していく。

二、史料概要

ここに紹介する外務省記録『在留清国人民籍牌規則竝ニ実施一件』（3／9／5／1）は各開港開市場と外務省、及び関係各官庁との往復文書とからなる正本ファイルと、何等かの必要があってか同史料より抜粋して清書した別冊『清國人取締竝籍牌規則』との一巻二冊から成っている。別冊は若干正本とは語句上の相違はあるものの、全史料を通じて筆跡は同一であり、内容的にも正本の抜粋であるため控的要素の強い副本と理解して今回紹介することは避けた。

次に『在留清国人民籍牌規則竝ニ実施一件』（以下正本を指す

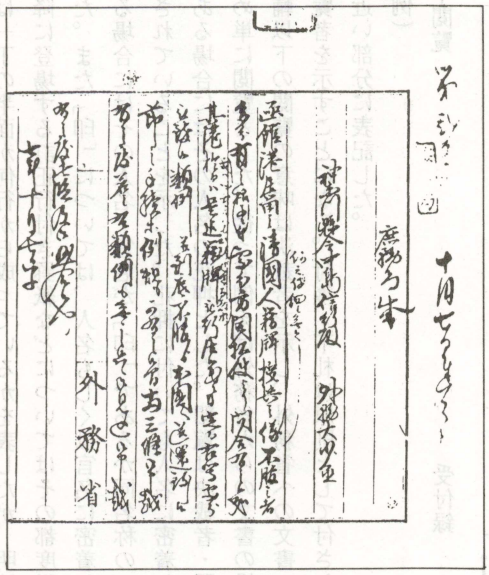
……編者注）の概要を簡単に述べる。

該史料は第壹号から第七拾壱号文書までの文書により構成されており、全体は内容から概ね三部に分けることが出来る。

第一部は各開港開市場の在留清国人取締情況の報告。

第二部は在留清国人管理法の制定過程。ここでは当初「清国人民統轄規則」として制定作業が行われていたこと。その作業が終了して布告されるに際して正院の反対意見を受け実際上は「在留清国人民籍牌規則」として布告されるに至るまでの経緯。

第三部は籍牌規則布告後、各開港開市場では籍牌規則の条文からは解決し得ない実施上の諸問題が生じるが、その解釈をめぐって取り交わされた往復文書等が中心を成している。



第十三号文書

このうち第一部はすでに紹介済みの外務省記録『条約未済国人及清国人取締方参考書』と密接に関係しており、同書を併用して頂ければ明治初期の開港開市場における清国人問題およびその対応策の概要はご理解頂けると思う。また、第二部では『公文録』[7]にも「反覆熟考参酌イタシ」た結果とのみの説明にとどまっている統轄規則から籍牌規則への転換について、西岡逾明二等議官と鄭永寧外務少丞との各修正の史料からその理由を読みとる意味で史料価値は高いと考えられる。第三部の籍牌規則実施上における諸問題に関係した史料は同規則の矛盾点を見る上で価値は高く、旧各開港開市場に於ても関係史料が比較的残存しており次号以降でも関連史料を紹介していきたい。

三、凡例と表記上の注意

次に凡例をかねて史料紹介上の表記の注意を挙げておく。

本史料紹介では基本的に原文書の状態を可能な限り理解頂けるように注意した。しかしその反面表記が煩雑になったことも否めず、今後の課題となった。

表記上の方法を簡単につぎに述べる。

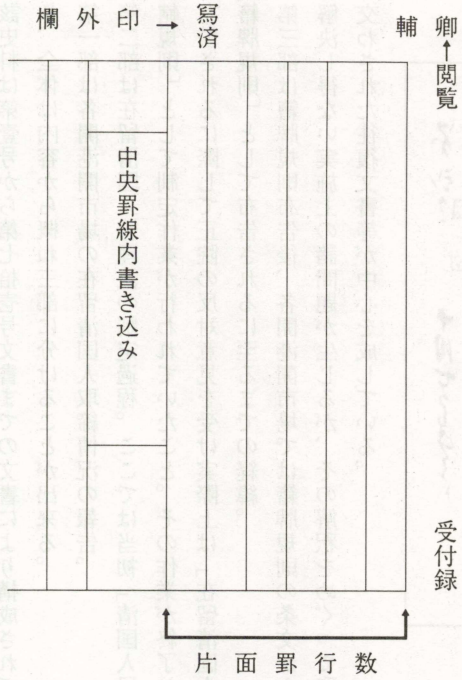
①各表題は、原文書ファイルの巻頭に一括掲載されている目録の表記に従った。ただし史料収録順序は原文書ファイルの掲載順序には忠実には従わず、利用の便宜を考慮して順番を替えても関係史料ごとに再編集した部分もある。この際、各文書番号内に収録されている文書を分散することは基本的に避け、止むを得ざる時にはその旨を明記した。また同様に収録順序を変更した場合にもその旨を明記し、本来の掲載位置が分かるよう心がけた。

②各文書には〈罫紙〉〈欄外書き込み〉〈欄外印〉〈中央罫線内書き込み〉〈閲覧〉【付箋】【下札】【本文】等を付し、各文書の現状が

理解できるように心がけた。また、必要に応じて（　）にて注を書き加えた。

罫紙は一丁の半面が何行から成っているかを表したが、明治十一年以降に登場する訂正行付き罫紙などについてはその都度説明を加えた。また「印」については、人名もしくは官名に密着して㊞がある場合にはその人名・官名が「印」であるか同名称の「印」が付されていることを示した。花押に付いても人名に密着して付してある場合にはその人名の花押とした。閲覧は決裁者・閲覧者を含め単に閲覧とした。従って例えば外務省からの文書の場合の卿・輔以下の閲覧の意味は決裁者を示し、外務省への文書の場合は閲覧者を示すことになる。付箋・下札は原則として付された位置に近い部分に表記した。

（罫紙例）



③語句は基本的に正字を用いるように心がけた。また「キ」「ヒ」「丁」「イ」は原則として「トキ」「トモ」「コト」「シテ」に替えた。しかし「ゟ」はそのまま用いた。また「者」は変体仮名の「は」の場合と「者」の場合と区別していないので注意して頂きたい。

（註）

(1)外務省外交史料館蔵。このほか雄松堂出版から同名史料として写真版本刊行。また『神奈川県史』史料編⑮（近代・現代5）にも収録。

(2)拙稿「幕末・明治初期の在留清国人取締関係史料について」収録（神奈川県立博物館研究報告―人文科学―第一五号）。

(3)前掲『条約未済国人及清国人取締方参考書』第三一号文書。（前掲「幕末・明治初期の在留清国人取締関係史料について」六八頁）

(4)臼井勝美「横浜居留地の中国人」（『横浜市史』第三巻下）及び田中時彦「清国人竹渓ら贋札事件」（『日本政治裁判史録』上）参照。また史料については「竹渓贋札一件」（『横浜市史』史料編十九）参照。

(5)「清国トノ修好条規通商章程締結ニ関スル件」（『日本外交文書』第四巻　二〇六頁）

(6)この勅令第一三七号問題については拙稿「日清戦争と居留清国人問題―明治二七年『勅令第百三十七号』と横浜居留地―」（『法政史学』三六号）参照。なおこの問題についての米国側史料は拙稿「在日米国領事報告　―日清戦時下の居留清国人―」（『神奈川県立博物館研究報告』第一四号）参照。

(7)「第十号　清国人民取扱規則伺」（国立公文書館蔵『公文録』明治七年四月、外務省之部一〈2A・9・公1037〉）

……

【史料】

第壹號、神奈川縣ヨリ同港在留清國人問合書面同斷指令催促書竝答書　明治五年三月十六日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「第百三十四号」

〈欄外印〉「取決物」「寫済」

〈中央罫線内書き込み〉「第百三十八號」

〈閲覧〉

卿：副島種臣㊞　議判：花房㊞（義質）

輔（大輔）：寺島宗則㊞　宮㊞（宮本小一）

辨理：　重實㊞（大原重實）

【付箋】「副島種臣㊞」「寺島宗則㊞」「柳原（前光）㊞」

「一切理事官之出張無之間ハ從前之通此方ニて處置し重罪之ものハその事情を本國へ報知し置候ことニて可然候事」

【本文】　太字は加筆部分

昨未七月中於天津調印相成候清國條約書竝海關稅則共合セ五冊御差廻シ相成向後當港在留支那人共取扱方之儀者都而右ニ順據候樣御達之趣承知いたし候然ルニ右約定書修好**條規**第九條中ニ兩國之開港場ニ若シ未タ理事官を置サル時者其人民貿易何レモ地方官ゟ取締世話スベシ若罪科ヲ犯サハ本人ヲ捕テ吟味ヲ遂ケ其事情ヲ最寄開港場之理事官江掛合律ヲ照シテ裁判スヘシとの明文ニ基キ支那人取扱ひ候得ハ未た支那清國理事官當港江者勿論最寄開港場ニ出張無之候處支那人犯罪之者ニ至リ是ハ如何處置致し候哉神速御指示相成候樣致し度此段相伺候

壬申三月十六日　神奈川縣㊞

外務省

……

［別紙　1］　明治五年三月二十日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「第百八十八號」「三月二十日」

〈欄外印〉「寫済」

【本文】

當港在住支那人取扱方之儀ニ付當月十五日附ヲ以て既ニ相伺置候處今以御指示無之ニ付支那人關係聽訴斷獄之事件共所置不致其儘差置キ日々差支候ゆへ神速御下知有之候樣致し度此段申進候以上

申三月二十日　大江神奈川縣參事㊞

副島外務卿殿　御中

……

［別添　2］　明治五年三月二十二日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「三月二十二日」「一時限ヲ以壬申三月二十二日達し濟」

〈欄外印〉「寫済」

〈決裁〉卿：　議判：花房㊞　辨理：

大輔：寺島宗則㊞

【本文】　太字は加筆部分

昨年中清國ゟ御條約相成候ニ付支那人取扱振之云々被伺越承知致し候右者條約第九條之趣ヲ擴充し**何れの開港場にも**一切理事官出張無之中者凡て從前之通振合を以て所置致し重罪のもの者通而その事情を本國江申遣候儀ニ有之候此段回報申入候也

壬申三月廿二日

第二號、同縣權令ヨリ同斷地所貸渡方之伺書竝答書　明治五年十月十五日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「第弐千弐百貳拾八號」

〈欄外印〉「校合濟」「寫済」

〈閲覧〉卿　議判

上野（少輔：上野景範）　貿易掛

【本文】

當港居留支那人者條約未濟國人ニ付是迄地所貸渡候儀無之候處今度横濱第百三拾五番米國人持地支那人韋勳魁讓受之示談いたし候間許容相成度旨同人申立候右者清國ト條約御取結相濟未タ事理官居留者不致候得共地所讓受候儀承届候様可仕哉且此後羅賣を以各國人江地所貸渡候節も同様貸渡候様可仕哉至急御差圖被下度此段相伺申候

壬申十月十五日　大江神奈川縣權令㊞

副島外務卿殿

……

［別添　1］　明治五年十月十八日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「十月十八日」「達濟」

〈欄外印〉「寫濟」「校合濟」

〈決裁〉卿：花押（副島）　丞：前光㊞（柳原前光）

上野㊞（少輔）

【本文】

其港居留清國人韋勳魁ゟ第百三拾五番米國人持地を讓受度き願許容之可否被伺儀閲悉いたし候兩國今已ニ假條約濟候付理事官ハ未た在留せずとも我地方官ゟ本人身性相糺し可然者ニ候ハヽ居留取締清國人之請合書を取置其請ふ所を檢査して被差許可然存候此段及回答候也

壬申十月十八日　副島外務卿

大江神奈川縣權令殿

第三號、開拓判官ヨリ箱館在留清國人取締方横濱同様入籍望之者編籍之儀問合竝答書別紙共　明治六年一月十四日

〈罫紙〉片面八行「開拓使」罫紙

〈欄外書き込み〉「第一ノ五十二號」「一月十四日」「貿易課」

〈欄外印〉「寫濟」

〈中央罫線内書き込み〉「第七拾號」

〈閲覧〉辨事局：前光㊞

左局：

右局：櫻田㊞（櫻田親義）

考法局：

【本文】

皇清兩國之際既ニ假條約も御取結ひ相成候ニ付而者彼國よりも我各港へ官吏差置人民取締可致筈左も無之内者我地方ニ而同國人民保護取締等可致儀哉當港在留之清國人ハ從來外國人ニ附傭いたし生業相営内外取引者勿論争論等之節時ニ不都合之事而已多く有之何分此儘難差置横濱表ニ而者縣廳ニ而入籍望之者江ハ未濟國民同様戸籍券相渡半ケ年毎ニ籍券書替相渡尤籍牌料も取立候趣ニ候付而者當港ニ而も清國人民江布告いたし我ニ入籍いたし度望之者者限月相定め勝手ニ差許度尤是迄他之外國人江附從いたし居候ものを強而我ニ入籍爲致候譯ニ者無之候得共勢ひ多分我ニ入籍相届け可申見込ニ有之付而者外國人之爲ニ者聊利潤を失ひ候事故少し者苦情可申出も難斗候得共義理ニ於而障碍ハ無之筈と存候然ル上者同國人之訴訟も御國人同様裁決いたし處刑等之儀も杖罪迄ハ御國律を照し處置可致候兩國御結約ニ於て如何可有之哉爲念御問合及ひ候巨細ハ御回答有之度候也

明治六年一月十四日　在函館　松浦開拓中判官

外務省　御中

……

［別紙　1］　明治六年二月三日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「二月三日」

〈欄外印〉「寫濟」

〈閲覧〉卿：　辨事局：前光㊞、重實㊞

輔：　右　局：花房、櫻田　日議：

【本文】

一月十四日付ニ而其港在留清國人取締方之儀ニ付云々御問合之趣承知いたし候清國より領事不差置間ハ其港地方官ニ而清民を照料管轄する事当然之儀ニ而既ニ條約面ニ掲載有之候へ者訴訟等我國人同様裁決するハ勿論外國人ハ附從せし清人たり共我港内ニ於てハ地方之裁決ニ歸すへき事ニ付兼て地方官へ御委任之通り犯法之者杖刑迄ハ其港ニ而處置ニ相成可然尤横濱表ニ而清民入籍取扱振ハ同國と未タ議約せさる以前ニ定まり居候得共假條約取結後も當分參酌隨宜之管轄を施有之候儀ニ付昨春御廻し申候兩國條約ニ基き且横濱取扱振をも參酌御所分有之可然存候ニ付其手續巨細之儀ハ神奈川縣へ御問合可被成此段回答ニおよひ候也

明治六年二月三日　　柳原外務大丞

松浦開拓中判官殿

猶以爲念修好條規第九則寫一紙竝午年中横濱ニ而布告文寫相添差送候也

……

［別紙　2］

〈罫紙〉片面十行「使清日誌」罫紙

〈欄外印〉「寫済」

【本文】

修好條規第九條

兩國ノ開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置サル時ハ其人民貿易何レモ地方官ヨリ取締世話スヘシ若シ罪科ヲ犯サバ本人ヲ捕テ吟味ヲ遂ケ其事情ヲ最寄開港場ノ理事官へ掛合ヒ律ヲ照シテ裁斷スヘシ

……

［別紙　3］

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「寫済」

【本文】

凡清國籍民來住于本港者無論何等身分本月初九日爲首限三十五天内必當親來投名于本公署圖籍以得名牌而遵我法令受我保護無此籍者發覺之日嚴行處治概不寛容各須體會此意

明治三年年閏十月

名牌費開列于左

毎名鷹洋　　八員　買辨、商人

毎名仝　　四員　家僕、工人

毎名仝　　貳員　夫子、無傭主者

今定一年分兩次領牌故以上之牌費乃是半年之銀也

第四號、東京府知事ヨリ東京移住漏籍之清國人開港場本籍へ編籍無籍之者ハ移住不許積布告可及旨告諭案添問合之書面

明治六年二月七日

附別紙：東京開市場移住支那人へ告諭案和文漢文

〈罫紙〉片面八行「東京府」罫紙

〈欄外印〉「取決物」「辨事局」「受付録」

〈中央罫線内書き込み〉「第百六十九號」

〈閲覧〉辨事局：石橋㊞（石橋政方）、林㊞（有造）、重實㊞

右　局：櫻田

【本文】

支那人之儀神奈川縣ニ而往來切手廃止後者必其開港場之本籍ニ入候上東京移住可致之處中ニ者右籍ニ相漏候ものも有之取締向ニも拘り候ニ付今般神奈川縣江打合別紙之通告諭およひ漏籍之ものハ何れも同縣江編籍爲致以來居留地規則第八條ニ基キ無籍之者者移住不許積布告可及と存候間御承知迄ニ此段申進置候也

明治六年二月七日　　東京府知參事

外務大少丞御中

……

［別紙　1］東京開市場移住支那人へ告諭案和文漢文

〈罫紙〉片面八行「東京府」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」
【本文】
東京開市場移住支那人江告諭案
東京開市場ニ移住する支那人之儀者神奈川縣竝外開港場ニ於而入籍せし者之外者移住素より不許掟ニ付此度更ニ右籍牌檢査致し候間明　日より來ル　月　日迄　日之内籍牌運上所江持參改テ受へし若所持無之者ハ右日數中ニ神奈川縣廳江申立請取來ルへし自然此日限相立候而も等閑置ものハ吟味之上神奈川縣廳江可引渡間其段可被相心得もの也
明治六年二月　日　東京運上所
……
［別紙　2］（漢文）〉
〈罫紙〉片面八行「東京府」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」
【本文】
告諭本京租界羈住清國人等知悉
凡有清國人羈住本京租界者除經領執神奈川縣廳及外各港縣廳准牌自行羈住之外概不准羈住是爲定規今將所有准牌當行驗比故自明　日至　日爲限其有牌者持牌到本關赴驗其未領牌者即在該限内稟到神奈川縣憲補領到驗可也倘其逾限弗顧者即行究辨送交神奈川縣憲不貸須會此意特示
明治六年二月　日　東京海關
//
第五號、神奈川縣權令ヨリ同港居留清國人自今男女ニ不拘小兒ニ至ル迄入籍牌費料取立方之伺書竝別紙牌費料調書　明治六年二月二十二日
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
〈欄外書き込み〉「二月廿二日」
〈欄外印〉「寫済」「辨事局」「受付録：岸㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「第三百十八號」
〈閲覧〉卿：
小　輔：上野㊞
辨事局：大原㊞
考法局：
右　局：
【本文】
當港居留之清國人民ハ御國ノ戸籍ニ入壹ケ年兩度ニ牌費料取立來候處是迄男子而已ニテ女子ハ入籍不致右者男子同樣之取扱ニ不相成候而ハ不都合ニ付自今男女ニ不拘小兒ニ到迄入籍日數十五才以上ヨリ牌費料別紙調書之通り女子ハ男子之半減取立候儀可仕奉存候右之趣至急御差圖被下度此段相伺申候以上
明治六年二月廿二日　神奈川縣權令大江卓㊞
外務卿副島種臣殿
……
［別紙］
清國婦人
名牌料
半ケ年
男子入籍料
半ケ年
洋銀四弗　買辨商人ノ妻子妾
洋銀八員　買辨・商人
洋銀二弗　家婢竝工人ノ妻子
洋銀四員　家僕・工人
洋銀壹弗　無傭主女子
洋銀二員　夫人・無傭主者
//
第六號、同縣へ同港居住之支那人戸籍免狀料三等ニ區分取立候趣改

正年月問合之書面竝返書　　明治六年五月二日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「五月二日」「第三百七十八號　達濟　辨事局來」

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】

其港居住之支那人上中下三等ニ區分し最初拾五弗竝七弗三弗取立候處方今拾六弗八弗四弗取立候趣旨者何年何月ゟ改正相成候哉早々取調御申越し可有之候

明治六年五月二日　　外務大少丞

神奈川縣　御中

……

［別紙］（返書）　　明治六年五月六日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「五月六日　六年　神奈川來」

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】

當港居住之支那人上中下三等ニ區分し最初拾五弗七弗三弗宛取立候所方今拾六弗八弗四弗宛取立候儀者何年何月ゟ改正相成候哉之旨御問合之趣承知いたし右者明治三年庚午閏十月中取極壹ケ年兩度ニ取立候儀ニ有之候此段御報申進候也

明治六年五月六日　　神奈川縣山東權參事　㊞

外務大少丞　御中

////////////////////////////////

第七號、大阪府權知事ヨリ清國人民取締規則之義ニ付伺書付別紙見込書　　明治六年八月三十日

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外書き込み〉「八月三十日渡し　川上㊞」

〈欄外印〉「辨事局」「寫濟」「類輯濟」「辨事録　太田㊞」

「要領記濟」

〈中央罫線内書き込み〉「八月　四百十八號」

〈閲覧〉卿：　辨事局：大原㊞、林㊞

輔：　考法局：中山㊞（中山信彬）

右　局：櫻田㊞

【本文】

清國人民取締規則之儀ニ付伺

清國人民取締規則之儀者各港趣ヲ事ニし籍牌料等ニ至而者多少之高下有之第一不體裁而已ナラス取扱方差支候間當港之儀者別紙之通規則相設度候得共當港而已之規則ニ而者到底難被行何レ一般之御規則者猶御省御設立可有之儀ト者存候得共見込書相副此段相伺候也

明治六年八月三十日　　大阪府權知事渡辺昇㊞

外務卿副嶋種臣殿

【付箋】

清國人籍牌料取立之員數竝其手數ヲ犯し候もの罰し方規則及一體之取扱振早々申立候樣各港へ達スべし　　中山㊞　吉原㊞

……

［別紙］明治六年八月三十日大阪府權知事清國人民取締規則見込書

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】訂正意見は原本では付箋に記され該当箇所に下げられているが、ここでは素案と意見とを併記し、特に注意点には・を付け、「訂正」「削除」と明記した

素　案	訂　正　意　見【付箋】
一、大日本國在留ノ清國人民ハ我カ内國人民ト同ヤウナル保護ヲ加へ其生計ヲ營マシムルニ於テ別ニ清國人民ノ戸籍ヲ分明ニセザルベカラ	内國人民同樣之字ヲ省き我カ政府の保護ヲ加へとして者如何 …… 訂正部分　「男女ヲ問ス我國民」 ……

ズ故ニ開港場管轄廳ニ於テハ更ニ清國人民ノ籍牌ヲ與ヘ以テ之ヲ分明ニスベシ

但シ清國人各港遊歴ノ爲メ一時渡來滯留一ケ月ニ越ヘサル分ハ此限ニ非ラス

第一條

一、其ノ身分ニ應シ等級ヲ分ツニ上中下ノ三等ヲ以テシ籍牌中ニ之ヲ記載スルコト左ノ如シ

上等　獨立開店之者

中等　番頭手代等

下等　下働馬飼等

第二條

一、籍牌ヲ受ル者手數料トシテ上等金十圓中等ハ金五圓下等ハ金二圓ヲ納ムベシ

但七月後受ル者其半高ヲ納ムベシ

從前當港籍牌料上等十五圓中等七圓下等三圓神戸港同斷長崎港ハ上等三圓中等二圓下等ハ一圓ノ由右樣異同有之候間本文之通一定相成度候事

第三條

一、毎年一月四日ヨリ十日之間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌引換受取ベシ尤身分興隆スル者或ハ衰微スル者アル節ハ是迄ノ等級ヲ改ムルコト有ベシ

削除「以下削ル方哉」

第四條

一、籍牌ハ亡命脱籍ノ者ニアラザルヲ證スル物ナレバ須臾モ肌ヲ放ツベカラズ就テハ籍牌ノ有無ヲ知ランガ爲メ其筋ノ官員ハ時々支那人ノ宿所ヲ巡回シ人毎ニ檢問スルコトアルベシ若籍牌所持セザル者ヲ見ル時ハ違犯ヲ以テ論シ等級ニ應シ籍牌手數料ノ一培ヲ出サシムベシ

訂正「罰金トシテ」

（追加）

但シ籍牌料ハ別ニ立ツベシ

第五條

一、籍牌ヲ所持セズ他ノ港ニ赴ク者ハ其港ニ於テ是ヲ元ノ港ニ放逐スベシ放逐セラレ歸ル者ハ等級ニ應シ籍牌手數料ノ二培ヲ出サシムベシ

第六條

一、籍牌ヲ所持セザル清國人民ヲ留置者ハ日本人及ビ清國人ニ不拘双方ヨリ籍牌料ノ一培ヲ出サシムベシ

（追加条項）

籍牌ヲ所持セサル清國人若シ盗失鬪毆引屁等ノコト出訴及ブ時ハ一切之ヲ不取上シテ入籍セザル罪ヲ糺シ我國無籍人同樣處分スベ

籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス

第七條

一、籍牌ヲ紛失スル者ハ直ニ届出更ニ可受取尤モ新ニ受ル者ト同様手數料ヲ拂フベシ

第八條

一、本國ヨリ來ル者ハ直ニ其來着ノ港管轄廳江届出籍牌ヲ申受ベシ若後日他港ニ移リ住セント欲スル者ハ其旨届置キ他ノ港ニ到リ是迄居住ノ港ノ籍牌ヲ以テ引換受取ルベシ尤更ニ手數料ヲ出スニ及ハズ

第九條

一、本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シ又其年中ニ重テ來ル時ハ前同様ノ籍牌ヲ申受クベシ尤手數料ニ及ハズ

第十條

一、死去ノ節ハ其隨從人或ハ親故ノ者ヨリ當人ノ籍牌ヲ以テ届出返納ス可シ

（追加条項）

籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ

處ノ諸願書等ハ兼而命シ置ク處ノ總代人ニテ證印ノ上差出スベシ其證印ナキ分ハ取上ザルヘシ

訂正「其年中ナレバ」

家屋ヲ借受ル時ハ約定書を以テスベシ右ヲ縣廳ニ届出ル時ハ約定書檢査ノ上檢印ヲ押シ遣シ右手數料トシテ雙方ヨリ金壹圓取立ツベシ

……

清國人と我國人との間ニ金錢荷物借貸證書ニハ必ず證券印紙貼用スヘシ

右之條件ヲ堅ク相守可申萬一不心得違犯之者ハ大日本政府ノ法律ニ隨テ可處置者也

明治六年第八月

第八號、各開港場へ清國人民籍牌料取立之員數竝犯罪之者所分規則見込可申立旨之達書

明治六年九月廿七日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「九月廿七日」「第千零廿一號」

「九月廿八日達濟　竹内㊞」

〈欄外印〉「寫済」「類輯濟」「辨事局」「辨事録　常㊞」

「要領記濟　常㊞　合」

〈決裁〉卿：　辨事局：大原㊞、林㊞

輔：　考法局：

右　局：

【本文】

開拓使

神奈川　兵庫　　外務大少丞

長崎　新潟縣

清國人民籍牌料取立之員數竝ニ右手數を犯し候者罰し方規則及ヒ一體之取扱振諸開港縣不一様候而者不都合ニ候間右見込早々ニ被申立候様致度候也

明治六年九月廿七日寫

//

第九號、神奈川縣權令ヨリ同斷籍牌料之員數犯罪之者別紙申越候返書

明治六年十月八日

付別紙

一、清國人籍牌取扱手續書

一、第壹號横濱港同斷布告書貳通

一、第貳號同斷貳通

一、第三號戸籍券案

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「十月八日」「老法局　第六十九號」

〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」

〈中央罫線内書き込み〉「十月　百五十三號」

【本文】

清國人民籍牌料取立之儀員數竝ニ右手數を犯候もの罰し方規則及ひ一體之取扱諸開港場一様不相成候而ハ不都合ニ付見込早々可申立様御申越之趣承知致し右者手數を犯候もの罰し方之儀ハ當縣ゟ清國人民江何月何日迄書替或ハ新籍牌可受旨布告致右日積り内ニ書替不受取ものハ上下之無差別罰金として洋銀壹弗宛取立或ハ新渡ニ而不受もの後日相知候節律例ニ做ヒ相當之罰申付候儀ニ有之候且外取扱振別紙之通ニ御座候間右ニ而御承知有之度候此段御報申進候以上

神奈川縣權令大江卓㊞

明治六年十月八日

外務大少丞御中

……

［別紙　1］清國人籍牌取扱手續書

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

清國人籍牌取扱手續書

清國人籍牌取扱之儀者半ケ年期限ニ相定候節別紙第壹號之通波戸場其外所々江張出し其後者右籍牌書替期限四五日前ニいたり第貳號之通り張出第三號之籍牌相渡候儀ニ御座候

……

［別紙　2］第壹號横濱港同斷布告書貳通

〈罫紙〉無地紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

第壹號

凡清國籍民來住于本港者無論何等身分本月初一日爲首限三十五天内必當親來投名于本公署圖籍以得名牌而遵我法令受我保護無此牌者發覺之日嚴行處治概不寛容各須體會此意

明治　年　月

名牌費開列于左

毎名鷹洋　八員　買辨商人

毎名　仝　四員　家僕工人

毎名　仝　貳員　夫人無傭主者

今定一年分兩次領牌故以上之牌費乃是半年之銀也

［別紙2訳文］

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

當横濱港ニ來リ居住せんことを欲する清國人ともハ總而其身分を不論當月一日より始め三十五日間の中ニ自身當縣廳江來り各必す其姓名を報知し入籍を乞願ふて且入籍免許狀を申受へきなり是我日本

國の法令ニして其控ニ遵ふ者なり若此免許狀所持無之もの後日相知れ候節ハ嚴敷科設申付宥免ニ難及候間各此御主意を奉戴すへきもの也

明治　年　月

入籍免許狀を願ふ者ハ左の通手數料を納むへし

一名ニ付洋銀八弗ヅヽ　　但　是ハ洋銀又ハ商人の分也

同斷　四弗ヅヽ　　是ハ家僕又ハ職人の分也

同斷　貳弗ヅヽ　　是ハ日雇取人又ハ傭主無之人の類なり

右之通ニ相定壹ケ年ニ兩度入籍免許狀相改メ候間其度毎左之通手數料を納へし　右ニ記する金高ハ壹度分ニして半年の金高なり

……

［別紙　3］第貳號同斷貳通

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

第貳號

爲曉諭事爾清國民等知悉今由何月何日起至何月何日止即西洋　月一號起至三十一號止各清國民等居住於横濱貿易者必須赴本署報名轉換舊歲所領之牌紙及新到埠未領牌者各宜早日報領倘逾期査出無牌者必依例重辨斷不寛恕各宜凜遵毋違　特示

明治　年　月　　神奈川縣廳示　印

［別紙3本文訳文］

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

清國衆庶人の爲ニ左の御主意を諭示なす者也據之皆能く了知すへし

清何月何日より同何日迄ハ則西洋何月一日より三十日或ハ三十一日迄ニ當ル商業の爲め當横濱港ニ居留ナセル清國人ハ右ノ日限中ニ各急度其姓名を當縣廳江報知すへし且是迄入籍免許狀所持なす者と雖も其舊入籍免許狀を返納なし新入籍免許狀と引替ル事を願ふへし且新たニ當港江來着ナシ未た入籍免許を得さる輩ハ速ニ入籍を願ひ更ニ免許證書を申受へし若右の日限を過去候後入籍免狀所持無之ものハ逐一取糺之上罪律ニ做ひ重科申付決而宥免の御法ニ不及候間各此旨を心得皆々相守りて違背なすへからす依之示す

明治　年　月　　神奈川縣廳示　印

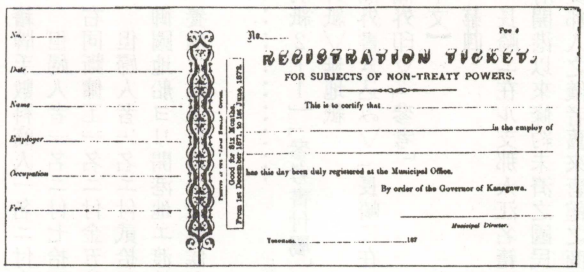
……

［別紙　4］第三號戸籍券案

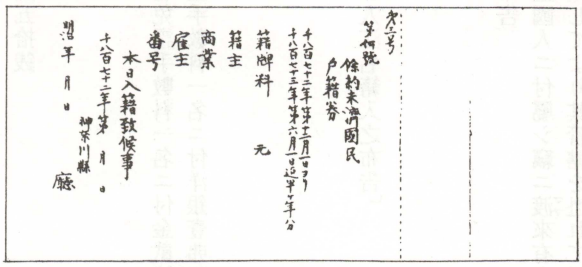
〈罫紙〉戸籍券

〈欄外印〉「類輯濟」

［表］



［裏］



第拾號、長崎縣令ヨリ前同斷之返書　明治六年十月十一日

附別紙：免證料調書又參考書附屬

〈罫紙〉片面十行「長崎縣」罫紙

〈欄外書き込み〉「辨事局」

〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局」「要領記濟」「受付録」

〈中央罫線内書き込み〉「十月　四百五十七號」

【本文】

清國人民籍牌料員數竝右手數料ヲ犯シ候者罰シ方其他云々御申越之趣致承知候右者御維新之際臨機之規則相設ケ手數料取立來犯則之者者歸國爲致候迄ニテ罰シ方之規則無之其他養病之爲温泉場エ罷越候者竝内國船ヨリ各開港地エ通航之者免證料別記之通ニ有之一體之取扱振者嶺南八閩兩地方之人民共者自費會所建設寄留民之内人望アル者ヲ以總代ト唱エ上陳下達之事件共關渉致シ前條之義モ同人共エ取調申付有之候處近來清國各地ヨリ來航之者許多ニテ右兩會所管轄外之者竝洋人エ附屬渡來之徒ニ至リ候而者一時取締付キ兼因茲總而渡來之清國民一般兩會所エ統轄爲致候ハ、可然見込ニ有之候得共諸入費惣代之給料等モ增加可致候ニ付其費用其人民エ係リ公平募金不致而者難被行其邊渠等相對之示談調整難致申出候ニ付猶取調中ニ有之右等之分各港ニ而如何取締相立候哉同一之取計致シ度此段回答候也

明治六年十月十一日　　長崎縣令宮川房之㊞

外務大少丞御中

……

［別紙　1］「免證料調書」

〈罫紙〉片面十行「長崎縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「別紙」

【本文】

一、籍牌手數料商人一名ニ付金壹圓五拾錢

但婦人者一名ニ付七拾五錢

一、右同斷傭工一名ニ付金五拾錢

但婦人者一名ニ付貳拾五錢

一、御國地船ヨリ開港地エ渡航之者免證手數料一名ニ付金貳拾五錢

一、養病之爲温泉場エ罷越候者免證手數料一名ニ付洋銀壹弗五拾錢

〆

……

［別紙2－1］「參考書付屬」

〈罫紙〉無地紙

〈欄外書き込み〉「長崎ニ在ル支那人江名籍入之布告」

〈欄外印〉「參考」

【本文】

~~第四~~

長崎ニ在ル支那人江名籍入之布告

當府開港以來條約未濟之國民共結盟國人ニ付屬シ竊ニ渡來有之趣就中支那人之儀者舊來唐館之商業廢絶してより其管轄を逃れて猶唐館新地之内ニ居住シ又者外國人居留地ニ入込ミ開店營業致居且又極貧之者ニ至り而者往々不良之行をなし害を他人ニ及シ候者も又不少是等者都て其支那配する所無之故事ある時ニ臨むて不都合甚しく去り迚是を逐て其本國江差歸すも聊か不仁ニ類すへく且萬國之民互ニ客土ニ來住營生する者當今之常時且當十一月中支那之道臺應寶時ゟ我政府江贈りし書翰ニも兩國之商民各其本地を離れて兩國之内ニ居住する者都而地方官之仕置を以て罪を科すへき事各自國之民ニ異なる事なしと有之因て我政府も此意ニ同し以來支那人之此地ニ在るもの其本分を守り生計を營む者は扶助して其商業を遂けしめ若又行ひ實に奸惡なる者是を罰して將來を戒しむる等之事一々我子民と均しかるへし是ニ因て支那人之長崎府ニ滞留する者者假令外國人ニ附屬するもせさるも總て來る巳年正月十五日を限り悉く外國局ニ來りて無洩其姓名生國及年齢を報明し本局之籍票を申請其正當なる事を證

すへし萬一其期限を越えて籍票所持不致者者我國典を犯せる者と相成して罰譴遁るへからさるもの也

明治元年辰十二月　外國管事役所　印

［別紙2－2］

（出入申書置候　大

廣源興行　定吉祥號　潤記號　泰亨號　協昌號
有記號　利興號　永陞號　泗合盛號　華豊號
順興號　長源號　安宏順號　廣順祥號　廣裕陞號
次永和號　廣昌號　雲記行　廣泰源號　廣興記號
公安號　同陞號　裕源號　廣陞號　裕豊號
次泰昌號　次徳泰號　裕興號　振豊號　大成記號休
普記號　協興號　仁記號　乾記號　榮記號
建興號　振鍋號　寶珠號　大祥記號　全香谷

［別紙2－3］

一、支那商人鑑札於壹人洋銀壹枚半
一、日傭工竝婦人小兒又者困窮之者同斷壹人金貳分

第何十號　住所
判　印　何某
何省人民
商人　年何十歳
庚午年正月十五日　報明

長崎
外務局

右圖面之通鑑札厚紙ニ而拵商人之分者惣而姓名印鑑共朱
傭工之類者左之通姓名印鑑共黒ニ而仕立相渡申候

第何十號　住所
判　印　何某
何省人民
傭工　年何十歳
庚午年正月十五日　報明

長崎
外務局

［別紙3］

注：本来は「第拾五號」文書の後に収録されているが、内容的には「第拾號」文書に属することから錯簡の疑いが強く、ここに収録する。

〈罫紙〉片面十行「長崎縣」罫紙
〈欄外印〉「辨事局」「受付録　竹内㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「十一月　三百三十號」
〈閲覧〉辨事局
考法局：石橋㊞

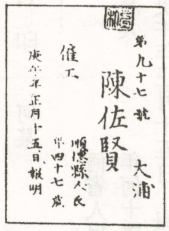
【本文】

九月廿八日乙第千弐拾壱號付ヲ以清國民籍牌料取立方其他云々見込申立候様御申越之處于今何等之回報も不致旨猶御掛合之趣致承知候右件者十月十一日附ヲ以及先答置候處御接手無之哉御省中今一應御調査相成度此段不閣及相答候也

明治六年十一月十二日　長崎縣令宮川房之㊞

外務大少丞御中

［別添］
［表］



［裏］

（例1）

（例2）

第拾壹號、司法大少丞ヨリ寄留支那人犯罪處分之儀ニ付問合書竝催促書貳通及ヒ答書　　明治六年十月十二日

但參考考法局評

〈罫紙〉片面十行「司法省」罫紙
〈欄外書き込み〉「辨事局」「考法局」
〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「辨事録」
〈中央罫線内書き込み〉「十月　二百十號」

【本文】

辨事局
考法局

從來在留支那人之儀ハ罪犯處分等一般内國人同樣ニ取扱致居外國人御國内ニ於而雇入候者ト雖モ其罪犯ニ涉リ候ハ罪狀相糺シ同斷内國法ヲ以及處斷候附而ハ外國人各外國ニ於而寄留支那人雇入之上召連來候類も是又同樣可及取扱被存候萬一其際ニ於而別段御談判等之筋も有之儀ニ候ヘハ爲心得承知致旨即今取扱之事件も有之候條至急御回答有之度候也

六年十月十二日　　司法大少丞

外務省御中

追而各國定約面等ニ於而增減之廉も有之御談判中ニ而自然裁判上ニ關係可致筋も候ヘハ其都度御懸合ニ相成候樣致度是又添而申入置候也

……

［別添　1］司法大少丞より外務省へ回答催促　　明治六年十月十三日

〈罫紙〉片面十行「司法省」罫紙
〈欄外印・書き込み〉「考法局　第七十七號」
〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」
〈中央罫線内書き込み〉「十月　二百四十九號」
〈閲覧〉考法局

【本文】

在留支那人處分之儀ニ付云々昨十二日及御懸合置候所右者差向キ取扱之事件有之候儀ニ付至急御廻答有之候樣いたし度此段御催促およひ候也

六年十月十三日　　司法大少丞

外務省御中

……

［別添　2］司法大少丞より外務省へ回答催促　　明治六年十月十四日

〈罫紙〉片面十行「司法省」罫紙
〈欄外印・書き込み〉「考法局　第八十號」
〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」
〈中央罫線内書き込み〉「十月　二百七十九號」

【本文】

在留支那人罪犯處分之儀ニ付過日御問合および置候末猶又早川六等出仕より林六等出仕へ及御談判置候次第モ有之何分差懸り候儀ニ付至急御廻答相成度此段尚及御催促候也

六年十月十四日　　司法大少丞

外務省御中

……

［別添　3］外務大少丞より司法大少丞へ回答

明治六年十月十五日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「乙第一千二百八十八号　十月十五日達了」

〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」「要領記濟　合」

〈中央罫線内書き込み〉「十月　二百七十九號」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞、林㊞

【本文】太字は追加部分

辨事局　　外務大少丞

司法大少丞殿

今十三日御問合ニ相成候支那人罪犯處分之儀致承知候御國内寄留之内獨立開店之者と歐米人等江被召使候者之別なく本籍清國ニ在る者ハ御國律を以處分致し至當と存し候併**到底**外國人之儀ニ付**宜ク斟酌**して情を**加へ取扱有之**~~其~~**候樣**~~被成~~度尤水夫とし而**外國船ニ**被雇候清國人ハ其船舶に~~其~~屬スル**者タルヲ以テ其**~~頭~~~~其~~國法を以處斷候儀~~ハ萬國ノ公法ニ有之候~~此段御回答申候也

六年十月十五日

……

［別添　4］考法局より辨事局へ考法局評　　日付欠

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「參考」

〈閲覧〉辨事局：　考法局：中山㊞、吉原㊞、

【本文】

參考

御國内寄留清國人ノ内獨立開店ノモノト歐米人江被召使候者トノ別ナク本籍清國ニ在ルモノハ御國律ヲ以處分シ又タ歐米各國ノ本籍ニ屬スルモノハ其産清國ト雖モ其屬スル所ノ國法ニ從ヒ取扱フベキ儀至當ト存候

但シ水夫トシテ被雇候清國人ハ其船舶ノ屬スル所ノ國法ヲ以テ處斷スベキ公法ナリ

//

第拾貳号、開拓判官ヨリ箱館港清國人民籍牌料取立方見込申越候返書

明治六年十月二八日

附別紙　一、箱館港在留清國人人名

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙

〈欄外書き込み〉「十月廿八日」

〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局」「要領記濟」「辨事録」

「受付録　川上㊞」

〈中央罫線内書き込み〉「十月　五百四十六號」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞

右　局：鄭㊞（鄭永寧）、靖㊞

考法局：

【本文】

十ノ百五拾六號

當九月廿七日付乙第千零廿一號ヲ以御申越有之候清國人民籍牌料取立等之儀ニ付見込早々申立候樣函館在勤杉浦中判官江申送候處同港居留之清國人民ハ從來在留之外國人江附屬し一人も我籍江加入之者無之候處右清國人民亦毎度外國人名義ヲ以中外關渉之訴訟等申出取扱方不都合ニ付我籍へ加入爲致他港同一之處分致し度見込ニ而已ニ本年一月十四日附ヲ以柳原外務大丞へ及御問合候處清國ト假條約御取結相成候得共同國ゟ領事不差置間ハ其港地方官ニ而清民ヲ照料管轄スル事當然之儀ニ有之候旨其他委詳御報知有之候ニ付其通り可

取扱之處從前在留外國人共清國人ヲ自己ニ引受勞セスシテ許多之利益ヲ得候事故一朝我籍ニ入ル時ハ其利潤ヲ失候譯ニ付必ス彼ゟ葛藤ヲ可生哉ニテ輕卒ニ着手不相成候間其順序緩急ヲ研究シ根本ヲ固クシ然ル後着手可致見込ニ而彼是苦慮致居候趣ヲ以テ函館居留清國人々名書付相添別紙之通申越候右者今般清國ト假條約御取結相成同國ゟ領事差置候迄之間居留之清民ハ我籍牌ヲ受可然條理ヲ以各國公使江御協議有之清民共外國人之手ヲ離レ候樣處分可致哉又者清民共外國人ノ手ヲ離レ度情實も相聞候間我籍ニ加入致し度者者申出候樣適宜布達致し其請願ニ隨ひ取扱候へ者外國人共において障碍可致樣無之候ニ付右樣取計可然哉別紙函來狀相添此段及御掛合候也

明治六年十月廿八日　　開拓判官

外務大少丞御中

【下札】

和清兩國本條約取換相濟候上彼政府ゟ當分可派出領事之人材無之由ニ而凡我各港ニ在る商民ハ其地方官之所轄ニ依頼致候旨面談ニ及ひ大使承諾有之候付各港ニ而從來取扱振或ハ嗣後之見込書とも査談いたし於本省右居留清人各港一般遵照すへき規定ヲ定め之ヲ各港縣廳へ公布遵行せしむなれハ考法局ニ而擔當し急ニ規程出來候ハヽ右局ゟ横濱へ出張して今度和清本條約濟清國人民ハ我地方之所轄ニ屬し候譯を以て從前外國人居留規則ニ因而取立有之候外國人へ干係せし事件等悉く革除いたし全く清民を我管轄ニ歸せしめたる後此規則を以後ニ行ひ而して他之各港ニ頒布遵行せしめハ速ニ一途之所置定るへし

鄭㊞

……

［別紙　1］當港在留清國人々名

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

當港在留清國人々名

楊厚誠　施守堂　貢恵生　黄先生　刁先生

右英人ハウル引受

張炳照　張安瀾　袁楙利　李長唐　邵順寶　余　生　馬周邦

明　家　金　記　童發蒙

右英商ブレツキストン引請

關月洲　譚怒堂　關雲葵　阮大德　張蛮山（ママ）　江玉田　趙子康

張茂嘉　張文祥　黄鑑祥　畢朝貞　趙五橋　胡良濱　魏学勤

魏珊蘭　楊正祥　林宗葦　郭開明　林成美　鄭祐芝　鄭樹蘭

殿　英　阮慎芝　關津香　阮　德　温　華　黄槐三　陳名亭

張尚德

右嗹人デユース引請

……

［別紙　2］杉浦開拓中判官より外務省　明治六年一月十四日

〈罫紙〉片面十行「開拓使函館支廳」罫紙

〈欄外印〉「別紙」「類輯濟」

【本文】

外務省御中　　杉浦開拓中判事

皇清兩國之際既ニ假條約モ御取結ヒ相成候ニ付而者彼國ゟモ我各港江官吏差置人民取締可致筈左モ無之候ハ我地方ニ而同國人民保護取締可致候哉當港在留之清國人ハ從來外國人ニ附傭致シ生業相營ミ内外取引者勿論争論等之節時々不都合之事ノミ多ク有之何分此儘難差置横濱表ニ而ハ縣廳ニ而入籍望之者へハ未濟國民同樣戸籍劵相渡半ケ年毎ニ籍劵書換へ相渡尤籍牌料モ取立候趣ニ候ニ付而者當港ニテモ清國人民江布告いたし我ニ入籍致し度届之者ハ限月相定メ勝手ニ差許度尤是迄他之外國人江付從致し居候者ヲ強而我ニ入籍爲致候譯ニ者無之候得共勢ヒ多分我ニ入籍相望ミ可申見込ニ御座候就而者

外國人之爲ニ者聊利潤ヲ失ヒ候事故少シ者苦情可申出モ難計候得共我理ニ於テ障碍者無之筈ト存候然ル上者同國人之訴訟モ御國人同樣裁決致シ處分等之儀モ杖罪迄ハ御國律ヲ照シ處置可致候兩國御條約ニ於テ如何可有之哉爲念御問合及ヒ候巨細者御回答ニ而承知いたし度此段得御意候也

明治六年一月十四日

……

［別紙　3］柳原外務大丞より杉浦開拓中判官　　明治六年二月十四日

〈罫紙〉片面十行「開拓使函館支廳」罫紙

〈欄外印〉「別紙」「類輯濟」

【本文】

一月十四日付ニ而其港在留清國人取締方之儀ニ付云々御問合之趣承知いたし候清國ゟ領事不差置間ハ其港地方官ニテ清民ヲ照料管轄スル事當然之儀ニ而既ニ條約面ニ掲載有之候得共訴訟等我國人同樣地方之裁決ニ歸スヘキ事ニ付兼而地方官江御委任之通犯法之者杖刑迄ハ其港ニ而處置ニ相成可然尤横濱表ニ而清民入籍取締振者同國ト未タ豫約セサル以前ニ定リ居候得共假條約取結後モ當分參酌隨宜之管轄ヲ施有之候儀ニ付昨春御廻申候兩國條約ニ基キ且横濱取扱振ヲモ參酌仕處分有之可然存候ニ付其手続巨細之儀者神奈川縣へ御問合可被成候此段回答ニ及ヒ候也

明治六年二月十四日　　柳原外務大丞

松浦開拓中判官殿

猶以爲念修好條規第九則寫一紙竝爾年中横濱ニ而布告文寫相添差進申候也

//

第拾三号、新潟縣參事ヨリ前同斷見込申越候書面　　明治六年十月廿九日

〈罫紙〉片面十行「新潟縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局」「考法局　第九十五號」「要領記濟」「受付録」

〈中央罫線内書き込み〉「十一月　三十八號」

〈閲覧〉「辨事局」「考法局」

【本文】

清國人民籍牌料取立之員數竝ニ右手數ヲ犯シ候者罰シ方規則等見込可申立旨御達之趣承知仕候當港ニ而ハ慶應三卯年舊幕府閣老と各國公使ト協議之上取極候規則之趣意ニ相心得籍牌料ハ買辨商人拾五弗家僕工人七弗夫子無傭主者三弗ツヽ取立候事ニ相成居候間彼國領事渡來迄ハ右規則之儘被据置彌領事渡來之上ニテ修好條規之如ク御處置相成候ハヽ御順便之儀と被存候此段見込申進候也

明治六年十月廿九日

新潟縣令楠本正隆代理新潟縣參事松平正直㊞

外務少輔上野景範殿

//

第拾四號、兵庫縣令ヨリ前同斷取扱振別紙ヲ以テ申越候書面　　明治六年十月三十日

附別紙：清國人入籍手數料竝取扱書

〈罫紙〉片面十行「兵庫縣」罫紙

〈欄外印〉「考法局第九十四號」「類輯濟」「要領記濟」「受付録」

〈中央罫線内書き込み〉「十一月　四十一號」

〈閲覧〉「辨事局」「考法局　石橋㊞」

【本文】

清國人民籍牌料取立之員數竝ニ右手數を犯し候者罰方規則及一體之取扱振等見込可申立旨御申越之趣致承知候則從來取扱振別紙を以而申進候右ニ而御承知有之度候也

明治六年十月廿日　　兵庫縣令神田孝平㊞

外務大少丞殿

……

［別紙］清國人入籍手數料竝取扱書

〈罫紙〉片面十行「兵庫縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

清國人入籍手數料竝ニ取扱書

一、上等　總商主人等　一ケ年毎名洋銀拾五弗

一、中等　番頭或ハ一家ヲ立奴僕不使者　同　同　七弗

一、下等　日雇奴僕たる者　同　同　三弗

一、名牌之儀ハ入籍之月より六ケ月十二ケ月ト期限を定メ相渡朔月ニ至リ換牌致候事

但毎年七月十二月兩度ニ名前取調牌籍相改候事

○一、清國人當地江罷越一時滯留或ハ各港遊歷等ニ而上陸致候者滯在一ケ月間者授牌不致一ケ月以上滯留之者者授牌致來候事

一、隱名不領牌之者を留置候者ハ其家主江罰銀貳拾五弗申付來候事

一、隱名之者相顯候節上等七弗半中等三弗半下等壹弗半罰銀申付授牌致候事

但入籍領牌料別段取立候事

一、隱名之者若盜失鬪歐引負等之儀及訴訟候節ハ一切不取用其上隱名等之儀相糺處分いたし犯罪之節ハ我國無籍人同樣取計候事

一、在留寧波廣東福建三口より壹人ツヽ居留清國人共ニ而人選之上總代之者昨壬申十一月以來取極總取締致させ候事

【下札】「各開港場おいて此法ヲ設クヘシ」

一、領牌之者上等ハ自印を以諸願書投詞不苦中等以下之者ハ諸願書等に總代證印無之分ハ採用不致事

一、西洋人附屬之清國人領牌致居らす候付諸願告訴等も其雇主之手を經すし而自身ニ申出候節ハ採用不致且總代之者も引受不申尤當人入籍授牌願出候ハヽ領牌人同樣取計候事

【下札】「西洋人附屬之清國人と雖トモ清國人タルノ分限ヲ存スル間ハ必ラス籍牌ヲ與フベシ

諸願告訴等ハ決テ其雇主ノ手ヲ經るニ及ハス

唯總代ノ者其ニ證印スルヲ要ス若シ總代ノモノヽ證印ナキ書面ハ取上ザル方哉」

一、領牌之者共日本人江對し金銀荷物借貸證書江者證劵印紙貼用爲致候事

一、清國商船入港之節ハ縣廳ニ於而船牌相改預り船主艦長器械方之姓名乘組人數荷物有無等書取其趣稅關江掛合手數料洋銀拾五弗出航之節ハ洋銀七弗稅關へ相納稅關之受取證書縣廳江持參爲致候上船牌差戻出港差免候事

【下札】「通商商程第五條末文ニ若シ其港ニ『理事官居合セザル時船主ヨリ船切手積荷目録ヲ直ニ海關ニ差出サハ規則ノ通取計ふベシトノ』明文アレバ別ニ此規則中ニ載スルニ及ふ間敷哉」

一、領牌之者地所竝ニ建家日本人より借受ル節ハ西洋人同樣約定取計候事

但町方諸入費ハ地主家主ト對談ニ任せ候事

一、地處竝ニ建家借請届出候節約定書檢査之上調印致し遣シ右手數料とし而清國人ゟ洋銀五弗日本人ゟ金壹圓取立候事

一、阿片烟を吸ひ及賣買致者其外犯罪之者ハ總而裁判所江相廻し處分致候事

一、阿片烟を吸者を留置候家主ハ裁判所に於而同斷

【下札】「阿片之事者兼而御布告も有之諸開港場於テ夫々掲示等もあれ者此規則中ニ載スルニ及間敷哉」

右者此迄取扱大略如斯然ルニ追々規則相立兼候分左ニ申入候間宜御參考有之度候

一、當縣是迄居留致來候清國人之分清國領事來港迄之處入籍爲致雜居差免日本人同樣取扱來候内西洋人附屬之清國人共ハ入籍

相拒領牌不致洋人共も領牌不爲致より雜工諸職之洋館ニ服事
する清國人夫ニ付又領牌不致又ハ商船ニ雇工致し洋船御國船
ニ渡リ働き又神戸大坂之間ニ往覆不定又洋人ト雜居致候清國
人一切西洋人附屬之名義を借り遁辞を設け領牌不致良奸混淆
實以約束行届兼往々不都合相生候事

一、凡西洋人召使候清國人當縣江入籍不致者犯罪之節ハ各國領事
官ニ而處分可致筈之處其節ニ至日本人同樣ニ見成裁判所江届
出吟味ニ相成處置濟之上諸口總代不引受なと申立西洋人ハ不
存なと申立日本人無籍ニ準し處置濟上其者貧窮之時ハ所歸無
之不得止事以官費本國江送返し又ハ同郷總代之者ニ説諭致し
本國江送らせ候等種々手數相掛往々不都合ヲ生候事

一、清國領事來港之上ハ是迄入籍之者竝ニ西洋人附屬之者一切管
轄致候筋ニ候ハ、清國人分ハ一切入籍爲致候方可然若清國ニ
而も洋人江附屬之者ハ彼國法ニ隨候儀ニ候ハ、入籍領牌人ト
洋人附屬人との間判然區別相立候樣有之度區別相立候樣御治
定之上ハ洋人附屬之分ハ各國領事ニ而擔當責任相成候
樣各國　公使江御打合置有之度候事

一、清國人婦人小兒之分領牌之儀御議定有之度候

【下札】石橋㊞

「清國領事來港スル迄ハ我國民同樣取扱ふ上ハ假令歐
米人ニ附屬シ又ハ召使わる、清國人と雖トモ清國人民
タルノ分限ヲ存スル間ハ籍牌ヲ與ふるハ當然ナレバ之
ヲ雇主ニテ妨クルノ理ナシ」

「御國船ニ乘リ稼キ又ハ神戸大坂ノ間ニ往來シ住居ヲ
定メサル者タリトモ無遺漏籍牌ヲ與フベシ尤歐米船の
水夫トナリテ乘組タル清國人ハ其船所屬ノ國民ト見做
ス公法ナレバ船中ニテ使役サル、清國人ハ此限ニ非ラ
ス」

「籍牌ヲ所持セザル清國人罪ヲ犯セシ時ハ我地方裁判
所ニ呼出糺問シ處斷濟ノ上其犯人貧窮ニシテ引受クル
モノナキ時ハ以官費清國ニ送歸シ在上海我國領事ノ手
ヲ經テ其後清國政府ニ通達シ其旅費ヲ返辨セシムル外
ナカルベシ」

「清國婦人と雖トモ籍牌ヲ與へ定ノ籍牌料ヲ取立ツベ
シ小兒十五才未滿之ものハ定ノ籍牌料三分ノ一ヲ取立
て可然哉」

//

第拾五號、杉浦權大内史へ清國白露國兩國人民取扱振之答書竝別紙

明治六年十月三十日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「第十五號」

〈欄外印〉「寫濟」

〈中央罫線内書き込み〉「十一月　四十一號」

〈閲覧〉「花房大丞・鄭少丞　縱覧」「辨事局」

【本文】

明治六年十月三十日

杉浦權大内史殿　　花房外務大丞

清國白露兩國船艦人民取扱振ニ付御問合之處白露假條約取結之儀
者本年八月廿五日附にて上申清國假條約ハ辛未七月廿九日交換ニ而
副島大使本年七月廿六日歸朝復命之節本條約書差出候ニ付右條約ニ
照準取扱候樣御指令相成可然儀と存候尤白露船竝人民之儀者各國同
樣之振合ニ處分する事勿論ニ候へ共支那船民ハ從來條約未濟國を取
扱候振合屬し居候故今度本條約等御取換相成候以上ハ彼より領事官
派出可致處未た其儀不行届當分日本地方官ニ而萬事條約を照し管轄
いたし呉候樣彼政府より我大使江面談依頼相成居候ニ付其含を以て
取扱可然事ニ候兩國條約書上木之分ハ追々出來次第御官へ差出し各
府縣江も分布候積ニ存し候依而及回答候也

明治六年十月三十日

【下札】「該書ニ對スル照會書ナシ　無之」
【下札】「原文不見尚可取調　無之」

……

［別紙　1］支那竝秘魯國取扱振之儀ニ付伺　明治六年十月廿八日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「校濟」「別紙」
【本文】

支那竝秘魯國取扱之儀ニ付伺

今般支那竝秘魯之兩國御條約御取結相成候趣ニ付而者収税其他海關於て處分之方法未た何等之御達無之右者孰れニも御沙汰可相成筈ニ者可有之候得共而後追々兩國之船艦進航又ハ人民來航いたし候節目下處分之際差支候儀ニ付追而何分之御達有之候迄ハ先御條約濟外各國同樣之振合ニ照準諸般爲取扱置候樣可仕哉差向實地差支候間至急御沙汰御座候樣仕度此段奉伺候也

明治六年十月廿八日　大藏卿大隈重信

右大臣岩倉具視殿

……

［別紙　2］長崎縣令宮川房之より外務大少丞　明治六年十一月十二日

注：この文書は内容的に「第拾號」文書に屬することから錯簡の疑いが強く、原本ではこの箇所に収録されているが本稿では敢えて「第拾號」文書の「別紙3」に変更した。

//

第拾六號、神奈川縣權令ヨリ同港居留清國人御國籍編入ノ者共へ御布告等觸示方之伺書　明治六年十二月二十二日

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「辨事録　太田㊞」
「受付録　川上㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「十二月　第四百六十七號」
〈閲覧〉卿：　辨事局：大原㊞
輔：　考法局：
右　局：鄭㊞
【下札】上野㊞
「已ニ過日取調正院江差出置有之候間右を催促いたし御聞濟に成候ハヽ直ニ神奈川縣江達ス可シ」
【本文】

外第千六百十三號

居留清國人御國籍編入之者共御布告竝御布達等觸示方相伺候書付

當港居留清國人民御國籍編入之儀是迄歐米人ニ被雇候者竝傭夫等之男子而已致編籍婦人竝男女小兒等編籍不致仕來ニ有之候處右者女子も男子同樣ニ不相成候而者不都合ニ付以來男女之無差別十五歳以上致編籍可然哉之旨當二月中相伺候處前外務卿清國江發向相成候上右等之規則自然可相立儀も可有之夫迄之處從前之通取計可置旨外務大少丞ゟ達有之其後別段御指令無之然ルニ御國籍編入之者共御國人同樣之儀ニ付都而之御規則違犯之者有之候節者於裁判所依律處斷致し候儀ニ而女子といへ共御規則違犯之儀無之とも難申候處御國籍編入不相成候而者甚不都合ニ有之且鳥獣猟銃砲印税竝證券印紙貼用之儀等御規則有之分者勿論其他御布告之類竝縣下施行之違式註違條例等兼而觸示置不申候而者犯規公斷之節不都合ニ有之既ニ依律處斷之節兼而御布告之類觸示無之てハ不都合之旨裁判所ゟ掛合越候儀ニ有之就而者向來之處清國人民男女之無別十五歳以上ゟ御國籍致編入右編入之者者御國人民同樣之儀ニ付御布告類無漏觸示可申哉尤右御布告類和文之儘相達候而者解兼可申候得共逸々清國語ニ反譯候而者不容易手數而已ならす當縣ニ清國語譯し候者至而人少ニ而差支候間和文之儘相達彼方ニ而反譯了解可致旨相達候樣仕度右之趣相伺申候至急御指令可被下候以上

明治六年十二月廿二日　神奈川縣權令大江卓㊞

外務卿寺島宗則殿

【付箋】鄭㊞

神奈川縣伺之趣地方管轄之權に於て當然なり即今從本省版行之條約ヲ發し各港一般遵行すへき編籍規則取調中ニ付先ツ此書類を發布して清民男女へ告諭之上改而御國籍へ編入し而後地方ニ施行する丈ケ之規則條例を御國人同樣家諭戸誦せしめ候儀順序ト存候

……

［別添］上野外務少輔より大江神奈川縣權令宛　　明治六年十二月

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈閲覧〉卿：　　辨事局：大原㊞

輔：上野（花押）、前光㊞　右　局：

右局録：宮㊞

【本文】

大江神奈川縣權令殿　　上野外務少輔

清國政府より我各開港場江領事派出致候迄ハ其國民我地方官にて取締り管轄仕儀者條約面ニも掲載候通にて當年副島大使入清之節尚又彼國大臣より保愛致呉候樣厚ク依賴有之旁以從前來清民統轄入籍爲致候ニ付取立來候手數料ハ頗ル高價にて條約未濟前ニ施すハ可なりといへとも今日同盟國と相成候上ハ不都合ニして且各港より同國民取扱ニ付追々伺出候趣ニ據り追て新たに規則被設け伺定候内存ニ付其港ニ於而新たに變革可致御見込も御座候得ハ御申越有之度候也

明治六年十二月

／／／

三條太政大臣殿　　寺島外務卿

清國政府より各開港場ニ領事ヲ差置候迄之處各港在留之清國人民我地方官ニ而管轄之儀既ニ修好條規第九條ニ明載有之候上者渡來之清國人取締之方法各港區々に相成候而ハ不都合不尠候ニ付別紙規則之通普く御布達相成在留清國人ヲして一般ニ右規則遵守爲致候樣致し度此段申進候也

七年二月寫

……

［別紙　1］清國人民統轄規則

【本文】　太字は加筆または追加条項

清國人民統轄規則

卅清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ス**其管轄廳ヨリ**相當ノ保護ヲ加ヘ其生計ヲ營マシムベシ回テハ從來存在セル我國法度及地方規則或ハ將來設立スル法度及地方規則ヲ遵奉セシムルコト勿論ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ更ニ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ

第一條

卅清國人民ヲ我地方官ヨリ保護スルニ付テハ常ニ我人民ニ布告遵行セシムル所ノ諸規則等ヲ在港ノ清國人ヘモ布達スヘシ若シ我制禁ノ法ヲ犯ストキハ我國律ニ照準シテ處斷スヘシ

第二條

卅清國人民此港ニ居住スル者ハ着港ノ後三十日ノ内ニ兼テ命シ置所ノ總代人ノ證印ヲ以テ第三條ノ手數料ヲ納テ籍牌ヲ受ルヘシ

第三條

卅清民ヲ保護スルノ經費トシテ籍牌ヲ與ルトキ其手數料ヲ取ルヘシ但シ業ニ巨細有リ身ニ豐**徹微**有ルヲ以テ其身家分限ニ應シ總代人ヨリ請合ノ上男女ヲ論セス上等ハ金二圓下等ハ金五十錢ヲ納ムヘシ最モ卅十六歳未滿ノ男女及夫アル婦女ハ其等額籍牌手數料三分ノ一ヲ納ムヘシ七月ヨリ十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ

第四條

卅各港遊歴ノ爲メ一時渡來其滯留一ヶ月ニ越サル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ着港ノ翌日届書二通ヲ認メ總代人ノ證印ヲ以テ管轄廳へ届ケ出檢印ヲ受ケ一通ハ其廳へ納メ一通ハ其者滯在ノ證トシテ所持スヘシ」

第五條（注：第五條は朱書きにて追加）

一、毎年一月四日ヨリ二十日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌交換ヲ受ケ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ交換ヲ經ス滯忽ニ渉ル者ハ違犯ヲ以テ論シ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ其三分ノ一ヲ出サシムヘシ

第五條（注：以下、最終條まで異筆、書式変更）

始メ籍牌ヲ受ケ此港ニ居住シ一年ヲ越ヘス若シ他港ニ移リ住ント欲ル者ハ其旨ヲ届ケ他ノ港へ到ラハ手數料ニ及ハス此港ノ籍牌ヲ以テ他港ノ牌ト交換スヘシ

第六條

本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其収票ヲ受クヘシ又其年中ニ重テ來ルトキハ手數料ニ及ハス前ニ返納セシ籍牌ヲ収票ト引換テ受クヘシ若シ其年中直ニ他港へ赴キ居住セント欲スル者ハ手數料ニ及ハス此港ノ収票ヲ以テ彼港へ届出籍牌ヲ受クヘシ

第七條

籍牌ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出更ニ受取ヘシ其事情正キ者ハ定額手數料ノ半數ヲ納メシムヘシ

第八條

死去ノ節ハ其親故或ハ隨從ノ者ヨリ届書ヲ認メ總代人ノ證印ヲ得當人ノ籍牌ヲ返納スヘシ

第九條

毎年一月四日ヨリ**日數**二十日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌ヲ改換シ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ改換ヲ經ス滯忽ニ渉ル者ハ違犯ヲ以テ論シ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ本高ノ三分ノ一ヲ出サシムヘシ

第十條

籍牌ノ有無ヲ知シカ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ但其役員ハ右ニ付聊カ需索等ノ事有ルヲ得ス其清國人ニ若シ日限ヲ越ヘ籍牌ヲ所持セサル者ヲ見ルトキハ違犯ヲ以テ論シ籍牌手數料ノ外ニ罰金トシテ其定額ノ全數ヲ出サシムヘシ

第十一條

始メ此港ニ來テ第三條第四條所載ノ籍牌或ハ届證ヲ所持セス他港ニ赴クコト露顯スルトキハ其露顯セシ管轄廳ニ於テ定額手數料一倍ノ罰金ヲ出サシメテ相當ノ籍牌ヲ與ヘ其届證ヲ與フルニハ籍牌手數料ノ高ヲ罰スヘシ

第十二條

籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス所ノ諸願書類ハ總代人ノ證印ヲ得テ差出スヘシ無之者ハ取上サルヘシ

第十三條

籍牌ヲ所持セス居住シタル清國人若シ盜失鬪毆引負等ノ事アリテ出訴ニ及フトモ一切之ヲ取上ケスシテ入籍セサルノ罰ヲ糺シ第十條ノ例ニ倣ヒ罰金ヲ出サシムヘシ若シ籍牌ヲ受ケス惡事ヲ成ス者ハ我國無籍人同樣ノ處分ヲ爲スヘシ

第十四條

籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ家屋ヲ借受ルトキハ必ス約定書ヲ以テシ其管轄廳ヘ届出約定書ニ檢印ヲ申受ヘシ右手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納ムヘシ但シ町方ノ諸入用ハ地主及ヒ家主トノ對談ニ任ス

除却　**第十五條**（注：この条項は加筆後に削除）

~~籍牌ヲ所持セサル清國人民ヲ止宿スル者ハ其家並我國人及ヒ清國人ニ拘ヲス本人ト同樣ニ籍牌并數料十倍ノ罰金ヲ出サシムヘシ~~

第十五條

清國人ト我國人トノ間ニ金錢荷物借貸證書ニハ必ス我國證券印紙ヲ貼用スヘシ無之者ハ訴訟ヲ取上ケス

程村紙四ツ切

府県准給清國人民上下等籍牌

姓名　王芳軒
年齢　四十八歳
本貫　浙江省寧波府鄞縣
生業　上等何々號
　　下等開洋貨行
　　傭工
到港　明治六年三月十二日
住址　横濱百四十九番
明治七年　月　日　給

程村八ツ切

府縣准給清民家眷牌

横濱百四十九番何々號王芳軒妻子姪女孫
姓名　〃〃
年齢　〃〃
住址　〃〃
明治七年　月　日　給

……

明治六年十一月

［參考］
〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「外事右局」「右局録」
〈閲覧〉卿：　辨事局：大原㊞

輔：　　考法局：中山㊞、石橋㊞
　　右　局：鄭㊞、林㊞、靖㊞

【本文】　太字は加筆部分

參考

岩倉右大臣殿　　寺島外務卿

清國政府より各開港場ニ領事を差置候迄之處各港在留之清國人民我地方官ニ而管轄之儀既ニ修好條規第九條ニ明載有之候上ハ渡來之清國人取締之方法各港區々ニ相成候而者不都合不尠候ニ付別紙略規則之通リ普く御布達相成在留清國人をして一般ニ右略規則遵守爲致候樣致し度此段申進候也

明治六年十一月

【付箋】

省評相決スル上ハ之ヲ漢譯ニ直シ正院へ差出スヘシ

……

［別紙　2］清國人民統轄規則［1］　明治六年十一月

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】太字は加筆または訂正部分

清國人民籍牌略規則

一、清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ス我國民ト同樣ナル相當ノ保護ヲ加ヘ其生計ヲ營マシムヘシ因テハ從來存在セル我國法度及地方規則或ハ將來設立スル國法度及地方規則ヲ遵奉セシムルコト勿論ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ更ニ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ

第一條

一、清國人我制禁ノ法ヲ犯ス時ハ我國律ニ照準シ所斷スヘシ

第二條

一、其身分ニ應シ等級ヲ分ツニ上中下ノ三等ヲ以テシ籍牌面ニ之ヲ記載スルコト左ノ如シ

上等　獨立開店ノ者
中等　番頭手代等ノ者
下等　下働馬飼等ノ者

第三條

一、籍牌ヲ受ル者手數料トシテ上等ハ金拾圓中等ハ金五圓下等ハ金二圓ヲ納ムヘシ最モ他ハ二十一歲未滿ノ男女及夫アル婦女ハ定額籍牌手數料三分ノ一ヲ納ムヘシ

總テ他シ十月ヨリ六月迄ニ籍牌ヲ受ケ者ハ其金額ノ半數料ヲ□□□七月ヨリ十二月迄ニ條受ル者ハ其半高ヲ納メルヘシ

第四條

一、各港遊歷ノ爲メ一時渡來其滯留一ヶ月ニ越サル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ屆書ニ通ヲ認メ兼テ命シ置ク所ノ總代人ノ證印ヲ以テ管轄廳ヘ屆ケ出ルニ於テハ籍牌ヲ受ケルニ及ハス檢印ヲ受ケ一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ其者滯在ノ證トシ所持スヘシ

第五條

一、毎年一月四日ヨリ十日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌交換ヲ受ケ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ交換ヲ其ヲ經ス滯忽ニ涉ル者ハ違犯ヲ以テ論シ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ其三分ノ一ヲ出サシムヘシ

第六條

一、籍牌ノ有無ヲ知ンガ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ若シ籍牌ヲ所持セサル者ヲ見ル時ハ違犯ヲ以テ論シ籍牌手數料ノ外ニ罰金トシテ其一倍ヲ出サシムヘシ

第七條

一、籍牌ヲ所持セス他港ニ赴クコト露顯スルトキハ其露顯セシ管轄廳ニ於テ定額手數料一倍ノ罰金ヲ出サシメ相當ノ籍牌ヲ授與スヘシ

第八條

一、籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス處ノ諸願書等ハ總代人ノ證印ヲ得テ差出スヘシ其證印ナキ分ハ取上サルヘシ

第九條

一、籍牌ヲ所持セサル清國人若シ盜失鬪毆引負等ノ事アリテ出訴ニ及フ時ハ一切之ヲ取上ズシテ入籍セサルノ罪ヲ糺シ第六條ノ例ニ倣ライ罰金ヲ出サシムヘシ若シ惡事ヲ成ス者ハ我國無籍人同樣ノ處分スヘシ

第十條

一、籍牌ヲ紛失スル者ハ直ニ届出更ニ受取ヘシ尤モ紛失ノ事情正シキ者ハ定額手數料ノ半數ヲ納ムヘシ

第十一條

一、本國ヨリ來港スル者ハ直ニ其着港ノ總代人ノ證印ヲ得テ管轄廳ヘ届出籍牌ヲ受ヘシ若シ後日他港ニ移リ住ント欲スル者ハ其旨届置キ他ノ港ニ到リ是迄居在ノ港ノ籍牌ヲ以テ交換ヲ受ヘシ尤其年中ナレハ手數料ハ出スニ及ハス

第十二條

一、本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其收票ヲ受クヘシ又其年中ニ重テ來ル時ハ前ニ返納スル所ノ籍牌ヲ收票ト引換テ受クヘシ尤手數料ニ及ハス但他港ニ再渡居住セハ其年中ハ前ニ給ヘタル一港ノ收票ヲ以テ届出ヘシ

第十三條

一、死去ノ節ハ其隨從人或ハ親故ノ者ヨリ總代人ノ證印ヲ得テ當人ノ籍牌ヲ以テ届出返納スヘシ

第十四條

一、籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ家屋ヲ借受ル時ハ必ス約定書ヲ以テシ其管轄廳ヘ届出約定書ニ檢印ヲ申受ヘシ右手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納メシムベシ

但シ町方ノ諸入用ハ地主及ヒ家主トノ對談ニ任ス

第十五條

一、籍牌ヲ所持セザル清國人民ヲ止留セシメスル者ハ我國人民及ヒ清國人ニ拘ハラズ雙方ヨリ籍牌手數料一倍ノ罪罰金ヲ出サシムヘシ

第十六條

一、清國人ト我國人トノ間ニ金錢荷物借貸證書ニハ必證券印紙ヲ貼用スヘシ

……

［別紙　3］外務少輔上野景範ヨリ神奈川縣權令大江卓宛

明治六年十二月

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「十二月廿八日」

〈欄外印〉「外事右局　乙第二千三百十号　十二月廿八日達了」

「要領記載」「右局録　遠藤㊞、川上㊞」

〈閲覧〉卿：　　辨事局：宮㊞

輔：上野㊞、　　右　局：

（柳原）前光㊞

【本文】太字は加筆または訂正部分

清國人民於我地方統轄之法當春及ひ過日御縣之見込御申越有之右ハ

各港在留清民を一般ニ統轄すへき爲メ別冊規則相調候ニ付先以下案御縣江及内打合候間實地當否御調査之上回答有之候樣致度此段申進候也

六年十二月　　外務少輔上野景範

神奈川縣權令大江卓殿

追而籍牌手數料過重相立候而ハ却而清民共籍牌受る事を逃れんとする弊を生出候譯ニ而素ゟ御國人同樣統轄候趣意なれハ可成遵守し易き樣僅ニ其入費を支ゆるに足る程之目度可立置儀ト存候間其邊精々御注意調査有之度候也

……

清國人民統轄規則　［2］

一、清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ス相當ノ保護ヲ加ヘ其生計ヲ營マシムヘシ因テハ從來存在セル我國法度及地方規則或ハ將來設立スル法度及地方規則ヲ遵奉セシムルコト勿論ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ更ニ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ

第一條

一、清國人我制禁ノ法ヲ犯ス時ハ我國律ニ照準シ所斷スヘシ

第二條

一、其身分ニ應シ等級ヲ分ツニ上中下ノ三等ヲ以テシ籍牌面ニ之ヲ記載スルコト左ノ如シ

上等　獨立開店ノ者

中等　番頭手代等ノ者

下等　下働馬飼等ノ者

第三條

一、右三等ノ人此港ニ來テ居住ヲ爲ス者着港ノ後十日ノ内ニ兼テ命シ置所ノ總代人ノ證印ヲ以テ籍牌ヲ受ルヘシ其手數料トシテ上等ハ金五圓中等ハ金三圓下等ハ金壹圓ヲ納ムヘシ最モ二十一歲未滿ノ男女及夫アル婦女ハ定額籍牌手數料三分ノ一ヲ納ムヘシ七月ヨリ十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ

第四條

一、各港遊歷ノ爲メ一時渡來其滯留一ヶ月ニ越サル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ着港ノ翌日届書二通ヲ認メ兼テ命シ置ク所ノ總代人ノ證印ヲ以テ管轄廳ヘ届ケ出檢印ヲ受ケ一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ其者滯在ノ證トシテ所持スヘシ

第五條

一、毎年一月四日ヨリ十日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌交換ヲ受ケ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ交換ヲ經ス滯忽ニ涉ル者ハ違犯ヲ以テ論シ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ其三分ノ一ヲ出サシムヘシ

第六條

一、籍牌ノ有無ヲ知ンガ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ若シ籍牌ヲ所持セサル者ヲ見ル時ハ違犯ヲ以テ論シ籍牌手數料ノ外ニ罰金トシテ其一倍ヲ出サシムヘシ

第七條

一、始メ此港ニ來テ第三條第四條所載ノ籍牌或ハ届書ヲ所持セス他港ニ赴クコト露顯スルトキハ其露顯セシ管轄廳ニ於テ定額手數料一倍ノ罰金ヲ出サシメ相當ノ籍牌ヲ授與スヘシ

第八條

一、籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス處ノ諸願書等ハ總代人ノ證印ヲ

得テ差出スヘシ其證印ナキ分ハ取上サルヘシ

第九條

一、籍牌ヲ所持セサル清國人若シ盗失鬪毆引負等ノ事アリテ出訴ニ及フ時ハ一切之ヲ取上ズシテ入籍セサルノ罪ヲ糺シ第六條ノ例ニ做ラヒ罰金ヲ出サシムベシ若シ惡事ヲ成ス者ハ我國無籍人同樣ノ處分スヘシ

第十條

一、籍牌ヲ紛失スル者ハ直ニ届出更ニ受取ヘシ尤モ紛失ノ事情正シキ者ハ定額手數料ノ半數ヲ納ムヘシ

第十一條

一、本國ヨリ來港スル者ハ直ニ其着港ノ總代人ノ證印ヲ得テ管轄廳ヘ届出籍牌ヲ受ヘシ若シ後日他港ニ移リ住ント欲スル者ハ其旨届置キ他ノ港ニ到リ是迄居在ノ港ノ籍牌ヲ以テ交換ヲ受ヘシ尤其年中ナレハ手數料ハ出スニ及ハス

第十二條

一、本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其収票ヲ受クヘシ又其年中ニ重テ來ル時ハ前ニ返納スル所ノ籍牌ヲ収票ト引換テ受クヘシ尤手數料ニ及ハス但他港ニ再渡居住セハ其年中ハ前ニ給ヘタル一港ノ収票ヲ以テ届出ヘシ

第十三條

一、死去ノ節ハ其隨從人或ハ親故ノ者ヨリ總代人ノ證印ヲ得當人ノ籍牌ヲ返納スヘシ

第十四條

一、籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ家屋ヲ借受ル時ハ必ス約定書ヲ以テシ其管轄廳ヘ届出約定書ニ檢印ヲ申受ヘシ右手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納メシムベシ

但シ町方ノ諸入用ハ地主及ヒ家主トノ對談ニ任ス

第十五條

一、籍牌ヲ所持セザル清國人民ヲ止留スル者ハ我國人及ヒ清國人ニ拘ハラズ雙方ヨリ籍牌手數料一倍ノ罰金ヲ出サシムヘシ

第十六條

一、清國人ト我國人トノ間ニ金錢荷物借貸證書ニハ必證券印紙ヲ貼用スヘシ

……

［別紙　4］外務省考法局　清國人民統轄略則

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈閲覧〉卿：　　辨事局：大原㊞　　考法局：石橋㊞

輔：上野㊞　　右　局：靖㊞　　中山㊞

鄭㊞　　櫻田㊞

【本文】

清國政府より各開港場ニ領事差置迄之處各港在留之清國人民我地方官ニ而管轄之儀先般清國江派出之大使江同國政府ゟ依賴有之右承諾相成候上者是迄各港在留之清國人取締之方法各港區々ニ相成不都合不尠依而今般別紙規則案取調候間御評決之上者正院ノ許准を得て各開港場ニ相達し在留清國人一般ニ之を遵守爲致候方と存候

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【下札】

考法整當　鄭㊞

一、略則ノ條款ノ内　十三條ノ目ハ第一條ニ掲ケ順序ヲ一直スヘキ方カ

一、大阪府見込中　籍牌ヲ所持セサル清人ヲ留オキ云々證券印紙ヲ貼用スヘキ云々ハ附加シテ可ナランカ

一、初目ノ但シ書ノケ條ハ二ケ條ノ次三條目ニ掲ケテ如何

一、第三條目籍牌引換ノ節手數料ヲ掲ケ入ルヘシ　○第二條目但書ヲ一固ニ上テ可カ　○第七條ノ手數料ハ其事情正シキモノナラハ半數ニテ然ヘシ

尚評議決セシ上ハ猶文面其外修飾スヘシ

【規則案】太字は修正または加筆部分

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

清國人民統轄略則　　考法局：中山㊞、櫻田、石橋㊞

一、清國政府ヨリ日本各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ス我國民ト同ヤウナル保護ヲ加ヘ其生計ヲ營マシムルニ於テハ從來存在スル國法及地方規則或ハ將來設立スル國法及地方規則ヲ遵奉ハ**セシム**ルハ勿論ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ**ハ**更ニ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其戸籍ヲ分明ニスベシ

但シ清國人各港遊歴ノ爲メ一時渡來滯留一ヶ月ニ越ヘザル**分**モノハ○此限ニ非ラス

【下札】○兼テ設ケ置キシ取締局エ届ケ出**ハ**ヒ**ル**ル**ル****ル**ル**ル

第八條

一、籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス處ノ諸願書等ハ兼テ命シ置ク處ノ總代人ニテ證印ノ上差出スベシ其證印ナキ分ハ取上ザルヘシ

第九條

一、本國ヨリ來ル者ハ直ニ其來着ノ港管轄廳ヘ届出籍牌ヲ申受ベシ若後日他港ニ移リ住セント欲スル者ハ其旨届置キ他ノ港ニ到リ是迄居住ノ港ノ籍牌ヲ以テ引換受取ルベシ尤其年中ナレバ手數料出スニ及ハス

第十條

一、本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シ又其年中ニ重テ來ル時ハ前同樣ノ籍牌ヲ申受クベシ尤手數料ニ及ハズ

第十一條

一、死去ノ節ハ其隨從人或ハ親故ノ者ヨリ當人ノ籍牌ヲ以テ返納スベシ

第十二條

一、籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ家屋ヲ借受ル時ハ約定書ヲ以テスベシ右ヲ縣廳ヘ届出ル時ハ約定書檢査ノ上檢印ヲ押シ遣シ右手數料トシテ雙方ヨリ金壹圓宛取立ツヘシ

但シ町方諸入用ハ地主及ヒ家主トノ對談ニ任ス

第十三條

一、清國人我制禁ヲ犯ス時ハ我國律ニ照準シ所斷スベシ

……

[參考]省評、　二月二十八日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「外事右局」「要領記載」「右局録」

〈決裁〉卿：「參考」　辨事局：大原㊞　右　局：古澤㊞

輔：上野㊞、　庶務局：古澤㊞　太一㊞

鄭㊞

【本文】

省評　右局

過日取調上申相成候清民取扱規則追而御指令相濟各港府縣ヘ布達之時清民ヘ示諭方區々ニ不成樣別紙漢譯案相調候條御評覧之上可然儀ニ候ハ、本規則活版植刷之序右漢譯も一同植刷いたし本規ニ添布達候樣致度及商量候也　二月二十八日

……

[添付]漢譯規則

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】

統轄清國人民規則

我國所開各口岸。俟清國政府派來領事之間。該各口岸所有在留清國人民。無論男女。應由地方官廳。量給保護。俾得營謀其生。則使遵奉我國從前所存法度及地方規則。乃至將來設立法度及地方規則。是不待言。須在該各口岸地方官廳。更將名牌給與清國人民。以昭編籍。

第一條

清國人民須由我地方官保護。則於常時曉諭我國人民所遵行之規則各例。亦應布告在口清國人民咸使知悉。倘有違禁犯法。即照我國律例處斷。

第二條

清國人民願住此口者。於到港後三十日內。須經我國所雇設之清人總保印證。照納第三條中規費。領其籍牌。

第三條

給籍牌時。聊收規銀。以充保護清民之經費。但因業有巨細。身有豐微。須經總保看其身家證定。不論男女。爲上等者。納金貳圓。下等者。納五十錢。至於未滿十六歲男女及有夫之婦氏。可照該等籍牌規

費。僅納三分之一。自七月至十二月領牌者。止納本額之半。

第四條

凡爲遊歷各口暫時過來。其逗留不出一箇月者。毋庸領牌。惟到港第二日。即具報單一樣兩張。須經總保印證。呈報地方官廳。蓋用關防。將其一張。呈存該廳。一張本人收存。作爲逗留之憑。

第五條

初領籍牌覇住此口。不出一年。又欲遷住別口者。將情具報。一到彼口。可將此口籍牌。抵換彼口之牌。毋須重納規費。

第六條

回本國時。將情具報。納還籍牌。則給收票。又本年内再來此口。可將收票。換領前此納還之牌。若本年内。欲逕往別口居住者。可將此口收票。呈報彼口地方官廳。領其籍牌。均免規費。

第七條

既領籍牌。倘致遺失。可即具情補領。其情果屬眞實。僅納本額規費之半。

第八條

遇有身故。須由尸親或隨厮。開具報單。經總保印證。納還本尸籍牌。

第九條

每年一月四日爲始。限以二十個日。須赴地方官廳改領籍牌。照納該額規費。如過此限。不來改換。跡涉怠忽者。以違犯論。除收本額規費外。罰追該額三分之一。

第十條

該管員役。有時巡查清國人民寓店。驗人有無籍牌。但該負役。不得籍此毫有需索。其清國人。如有過限未領籍牌者。一經查出。以違犯論。除收本額規費外。罰追該額全數。

第十一條

始到此口。未領第三及第四條所載之籍牌憑單。徑行轉赴別口。一經發覺。在該地方。罰令加倍規費。給與籍牌。其給憑單。罰如籍牌規費之數。

第十二條

領有籍牌之清國人。如開各件呈詞。須經總保印證提稟。否則決不准理。

第十三條

凡住此口之清國人。未領籍牌憑單。倘遇失盜鬪毆欠債等事。即提詞訟。概不准理。惟問不領籍牌憑單之罪。依擬第十條例追罰。若輩作奸犯科。即照我國無籍人民一體處治。

第十四條

領有籍牌之清國人。如租地基房屋。合同立約。經由總保印證。報明地方官廳。約面請蓋關防。兩家須納規費各金壹圓。至於街區課派費項。但憑租主。與地基及房屋之主。面訂那家承當。

第十五條

凡清國人。與我國人所有。來往金錢貨物借貸。各項憑據。必須貼用我國證券印紙。無此不准詞訟。

//

第拾八號、左院ヨリ清國人民取扱規則之義ニ付同院へ出頭之達書

明治七年二月二十八日

〈罫紙〉片面十行「左院」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「寫濟」「辨事局」「受付録　竹内㊞　遠藤㊞」

〈中央罫線内書き込み〉「二月廿八日　第弐百三十八號」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞

【本文】

甲第廿一號

清國人民取扱規則之儀ニ付御尋問いたし度儀有之候間右御心得之官員一名明後二日本院へ出頭相成候樣いたし度此段申入候也

七年二月廿八日　左院

外務省御中

//

第拾九號、史官へ同斷取扱規則速ニ御示令有之度旨之書面

明治七年三月十二日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「外事右局　第百九十四號　即ク達了　邦士㊞」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞
右　局：鄭㊞

【本文】

史官御中　外務大少丞

去二月廿五日第百三拾七號附ヲ以上申候清國人取扱規則之儀者速ニ御示令有之候致度此段申進候也

明治七年三月十二日

第貳拾號、西岡二等議官ヨリ同斷規則之義ニ付鄭外務少丞出頭之掛合書　明治七年三月十二日

〈罫紙〉片面十行「左院」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「受付録　川上㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「三月十二日　第二百八十八號」

【本文】

甲五十一號

清國人民統轄規則之儀ニ付御談し申度儀有之候條明十三日第十時御來朝有之度此段及御掛合候也

七年三月十二日　西岡（逾明）二等議官

鄭外務少丞殿

（注）史料原本では「第貳拾壹號」の文書は「第弐拾四號」の後に収録されている。「第貳拾壹號」文書を除く「第拾八號」から「第弐拾四號」文書には西岡二等議官と鄭・大原両氏との籍牌規則訂正関係を取りまとめているため、順番は原本目録番号に従わず原本の文書収録状態に従った。

第弐拾弐號、西岡二等議官ヨリ在留清國人民籍牌規則別冊訂正異見問合之書面　明治七年三月廿日

附別紙　一、在留清國人民籍牌規則

〈罫紙〉片面十行「左院」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「要領記濟」「受付録　川上㊞　遠藤㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「三月廿日　第三百二十三號」
〈閲覧〉卿：　辨事局：大原㊞
輔：　右　局：
考法局：

【本文】

昨日鄭大原兩君へ及御示談置候在留清國人民籍牌規則別冊寫之通承訂正候ニ付一應御廻し申候間御異見至急御廻答有之候様致し度候也

七年三月廿日　西岡二等議官

外務大少丞御中

……

［別紙］在留清國人民籍牌規則

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」

【本文】太字は加筆部分

在留清國人民籍牌規則

清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ハス其管轄廳ヨリ相當ノ保護ヲ加フヘ~~キ~~**キニ付**其戸數人員ヲ詳カニスルコト緊要ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ就テハ~~我人民ニ布告~~**各港在留ノ清民ヘ**遵行セシム~~ル所ヘキ~~**ル**諸規則等ヲ地方官ヨリ布達スヘシ

第一條

清國人民我國ニ在留セントスル者ハ着港ノ日ヨリ三日内ニ届出世日

内ニ籍牌ヲ受クヘシ何レモ兼テ命シ置ク所ノ總代人ノ證印アルヘシ

但右籍牌ハ年々之ヲ改換スヘシ

第二條

籍牌ヲ與フルニ付テハ其手數料ヲ納ムヘシ但シ其分限ニ應シ總代人ヨリ請合ノ上男女ヲ論セス上等ハ金二圓下等ハ金五十錢ヲ納ムヘシ尤モ十六歳未滿ノ男及ヒ婦女ハ其等額ノ半ヲ納ムヘシ七月ヨリ十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ

第三條

滯留廿日ヲ越ヘサル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ着港ノ日ヨリ三日内ニ届書二通ヲ認メ總代人ノ證印ヲ以テ管轄廳ヘ届ケ出一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ檢印ヲ受ケ其者滯在ノ證トシテ所持スヘシ若シ疾病竝ニ已ヲ得サルノ事故アルトキハ其旨願出猶豫ヲ受ルコトヲ得ヘシ但シ其猶豫ノ期限ハ廿日ヲ過クヘカラス

第四條

籍牌ヲ受ケ此港ニ在留スル者若シ他港ニ移ラント欲スルトキハ其旨ヲ届ケ他ノ港ニ到ラハ手數料ニ及ハス此港ノ籍牌ヲ以テ他港ノ牌ト交換スヘシ

第五條

本國ニ歸リ或ハ他國ニ行ク者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其収票ヲ受クヘシ又其年中ニ重テ來ルトキハ手數料ニ及ハス収票ヲ納メテ籍牌ヲ受クヘシ若シ其年中直ニ他港ヘ赴キ在留セント欲スル者ハ手數料ニ及ハス右ノ収票ヲ其港ニ納メテ籍牌ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第六條

籍牌ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出更ニ定額手數料ヲ納メテ之ヲ受クヘシ其水火盜難等ニ係ル者ハ半數ヲ納メシムヘシ

但届證ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出手數料ニ及ハス更ニ受ルコトヲ得ヘシ

第七條

婚姻出産死去ノ節ハ當人又ハ其親故或ハ隨從ノ者ヨリ届書ヲ認メ總代人ノ證印ヲ得テ當人ノ籍牌ヲ受ケ或ハ返納スヘシ

第八條

毎年一月四日ヨリ日數廿日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌ヲ改換シ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ改換ヲナサヽル者ハ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ本高ノ半ヲ出サシムヘシ

第九條

籍牌ノ有無ヲ知ランカ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ若シ日限ヲ越ヘ籍牌ヲ所持セサル者アルトキハ直ニ籍牌ヲ受ケシメ其手數料ノ外ニ罰金トシテ定額ノ全數ヲ出サシムヘシ若シ籍牌ヲ受ルヲ肯ンセス或ハ無力ニシテ受ル能ハサル者ハ我國無籍人同様ノ處分ヲナスヘシ

但届證ヲ所持セサル者モ亦同シ其罰金ハ下等籍牌手數料ノ全數タルヘシ

第十條

籍牌ヲ所持セル者ト雖モ其訴狀願書届書類ハ總代人ノ證印ヲ得テ差出スヘシ

但届證ヲ所持スル者モ亦同

第十一條

籍牌ヲ所持セス在留スル者若シ刑事民事ニ付出訴ニ及フトモ一切之ヲ取上ケス籍牌ヲ受ケサルノ罪ヲ糺シ第九條ノ罰金ヲ出サシムヘシ

但届證ヲ所持セサル者モ亦同シ

第十二條

籍牌ヲ所持セル者ト雖モ地所ヲ借受ケ及ヒ家屋ヲ借貸賣買スルトキハ必ス約定書ヲ以テ其管轄廳ヘ届出約定書ニ檢印ヲ受クヘシ右手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納ムヘシ

届書式

檢印

姓名
年齢
本實
生業
寄留地
妻　姓名
子　姓名
婢奴　姓名

右年號何年何月何日何國何港ヲ發シ年号何年何月何日日本國何港へ着

年　月　日　總代人　姓名印
姓名印

程村紙四ツ切

○○府縣准給清人民上下等籍牌

姓名　王芳軒
年齢　四十八歳
本實　浙江省寧波府縣
生業　上等　開何々號洋貨行
　　下等　傭工
到港　明治六年三月十二日
住址　横濱百四十九番
明治七年　月　日　日給

程村八ツ切

○○府縣准給清民家眷牌

横濱百四十九番何何號王芳軒妻　子　任　女　孫

姓名　――
年齢　――
住址　――
明治七年　月　日　日給

第弐拾三號、西岡二等議官へ右規則福葉（ママ）附箋ノ外異議ナキ旨之答書

明治七年三月廿四日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局　第二百四十三號　達了」
「要領記濟」
〈閲覧〉輔：上野㊞　辨事局：大原㊞
前光㊞　右　局：鄭㊞

【本文】

西岡二等議官殿　外務大少丞

兼而鄭大原へ御示談有之候在留清國人民籍牌規則別冊御訂正ニ付具見御問合之處福葉附箋之外異存無之候依而別紙返却及回答候也

七年三月廿四日寫

【付箋】「編者附言：附箋ハ七年三月廿日付西岡議官ゟ來書ニあり」

第弐拾四號、史官へ清國人民取締規則至急御指揮有之度旨催促之書面　明治七年四月十日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局　第二百八十九号　已達了　邦士㊞」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞

【本文】　太字は加筆部分

史官御中　外務大少丞

清國人民取締規則之儀ニ付去ル二月廿五日附**第百三十七號**を以而及上申置候處右至急御指揮有之様致度此段及御催促候也

七年四月十日

……

［別紙　1］外務卿寺島宗則ヨリ太政大臣三條實美宛伺案文、成文

明治七年二月二十五日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「辨事局」「要領記濟」
〈中央罫線内書き込み〉「四月十日　第四百二十三號」

〈閲覧〉卿：　辨事局：大原㊞
輔：　左　局：
右　局：
考法局：中山

【本文・案分】

第百三十七號

清國人民取扱規則之儀

清國政府より各開港場ニ領事を差置候迄之處各港在留之清國人民我地方官ニ而管轄之儀既ニ修好條規第九條ニ明載有之候上者渡來之清國人取締之方法各港區々に相成候而者不都合不尠候ニ付別紙規則之通普く御布達相成在留清國人をして一般ニ右規則遵守爲致候様致度此段申進候也

明治七年二月廿五日　外務卿寺島宗則

太政大臣三條實美殿

【朱書】

伺之趣別紙之通相達候條各國公使領事等へモ爲心得其省ヨリ達シ置ヘキ事

太政大臣三條實美　朱印

【下札】

各國公使領事へ爲心得可相達旨御指揮ニ候處外國人之御國人を雇使セる規則等も不達儀ニ付見合候方々可然候哉

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【本文・成文】

第百三十七號

清國人民取扱規則之儀

清國政府ゟ各開港場ニ領事を差置候迄之處各港在留之清國人民我地方官ニ而管轄之儀既ニ修好條規第九條ニ明載有之候上者渡來之清國人取締之方法各港區々に相成候而は不都合不尠候ニ付別紙規則之通普く御布達相成在留清國人をして一般ニ右規則遵守爲致候様致度此段申進候也

明治七年二月廿五日　外務卿寺島宗則

太政大臣三條實美殿

【朱書】

伺之趣別紙之通相達候條各國公使領事等ヘモ爲心得其省ヨリ達シ置ヘキ事

明治七年四月十日　太政大臣三條實美朱印

……

［添付］清國人民統轄規則

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

【本文】

清國人民統轄規則

清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ス其管轄廳ヨリ相當ノ保護ヲ加ヘ其生計ヲ營マシムベシ因テハ從來存在セル我國法度及地方規則或ハ將來設立スル法度及地方規則ヲ遵奉セシムルコト勿論ナレハ各開港場管轄廳ニ於テ更ニ清國人民ニ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ

第一條

清國人民ヲ我地方官ヨリ保護スルニ付テハ常ニ我人民ニ布告遵行セシムル所ノ諸規則等ヲ在港ノ清國人ヘモ布達スヘシ若シ我禁制ノ法ヲ犯ストキハ我國律ニ照準シテ處斷スヘシ

第二條

清國人民此港ニ居住スル者ハ着港ノ後三十日ノ内ニ兼テ命シ置所ノ總代人ノ證印ヲ以テ第三條ノ手數料ヲ納テ籍牌ヲ受ルヘシ

第三條

清民ヲ保護スルノ經費トシテ籍牌ヲ與ルトキ其手數料ヲ取ルヘシ但シ業ニ巨細有リ身ニ豐微有ルヲ以テ其身家分限ニ應シ總代人ヨリ請合ノ上男女ヲ論セス上等ハ金二圓下等ハ金五十錢ヲ納ムヘシ最モ十六歳未滿ノ男女及夫アル婦女ハ其等額籍牌手數料三分ノ一ヲ納ムヘシ七月ヨリ十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ

第四條

各港遊歴ノ爲メ一時渡來其滞留一ヶ月ニ越サル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ著港ノ翌日届書二通ヲ認メ總代人ノ證印ヲ以テ管轄廳ヘ届ケ出檢印ヲ受ケ一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ其者滞在ノ證トシテ所持スベシ

第五條

始メ籍牌ヲ受ケ此港ニ居住シ一年ヲ越ヘス若シ他港ニ移リ住ント欲ル者ハ其旨ヲ届ケ他ノ港ヘ到ラハ手數料ニ及ハス此港ノ籍牌ヲ以テ他港ノ牌ト交換スヘシ

第六條

本國ニ歸ル者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其收票ヲ受クヘシ又其年中ニ重テ來ルトキハ手數料ニ及ハス前ニ返納セシ籍牌ヲ收票ト引換テ受クヘシ若シ其年中直ニ他港ヘ赴キ居住セント欲スル者ハ手數料ニ及ハス此港ノ收票ヲ以テ彼港ヘ届出籍牌ヲ受クヘシ

第七條

籍牌ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出更ニ受取ヘシ其事情正キ者ハ定額手數料ノ半數ヲ納メシムヘシ

第八條

死去ノ節ハ其親故或ハ隨從ノ者ヨリ届書ヲ認メ總代人ノ證印ヲ得當人ノ籍牌ヲ返納スヘシ

第九條

毎年一月四日ヨリ日數二十日ノ間ニ其港管轄廳ニ到リ籍牌ヲ改換シ

定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ改換ヲ經ス滯忽ニ渉ル者ハ違犯ヲ以テ論シ定額手數料ノ外ニ罰金トシテ本高ノ三分一ヲ出サシムヘシ

第十條

籍牌ノ有無ヲ知シカ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡回シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ但其役員ハ右ニ付聊カ需索等ノ事有ルヲ得ス其清國人ニ若シ日限ヲ越ヘ籍牌ヲ所持セサル者ヲ見ルトキハ違犯ヲ以テ論シ籍牌手數料ノ外ニ罰金トシテ其定額ノ全數ヲ出サシムヘシ

第十一條

始メ此港ニ來テ第三條第四條所載ノ籍牌或ハ届證ヲ所持セス他港ニ赴クコト露顯スルトキハ其露顯セシ管轄廳ニ於テ定額手數料一倍ノ罰金ヲ出サシメテ相當ノ籍牌ヲ與ヘ其届證ヲ與フルニハ籍牌手數料ノ高ヲ罰スヘシ

第十二條

籍牌ヲ所持セル清國人ヨリ出ス所ノ諸願書類ハ總代人ノ證印ヲ得テ差出スヘシ無之者ハ取上サルヘシ

第十三條

籍牌ヲ所持セス居住シタル清國人若シ盜失鬪毆引負等ノ事アリテ出訴ニ及フトモ一切之ヲ取上ケスシテ入籍セサルノ罰ヲ糺シ第十條ノ例ニ倣ヒ罰金ヲ出サシムヘシ若シ籍牌ヲ受ケス惡事ヲ成ス者ハ我國無籍人同樣ノ處分ヲ爲スヘシ

第十四條

籍牌ヲ所持セル清國人地所及ヒ家屋ヲ借受ルトキハ必ス約定書ヲ以テシ其管轄廳ヘ届出約定書ニ檢印ヲ申受ヘシ右手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納ムヘシ但シ町方ノ諸入用ハ地主及ヒ家主トノ對談ニ任ス

第十五條

清國人ト我國人トノ間ニ金錢荷物借貸證書ニハ必ス我國證券印紙ヲ貼用スヘシ無之者ハ訴訟ヲ取上ケス

程村紙四ツ切

府
縣 准給清國人民 上 下 等籍牌

○○

姓名　王芳軒
年齢　四十八歳
本實　浙江省寧波府縣
生業　上等 下等 開何〃號洋貨行 傭工
到港　明治六年三月十二日
住址　横濱百四十九番

明治七年　月　日 給

程村紙八ツ切

府
縣准給清民家眷牌
横濱百四十九番何〻號王芳軒妻 子 任
女 孫

姓名 〃〃
年齢 〃〃
住址 〃〃
明治七年 月 日 給

……

［別紙 2］在留清國人民籍牌規則布告　明治七年四月十日

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

開拓使
東京府
大阪府
神奈川縣
兵庫縣
長崎縣
新潟縣

御國在留清國人民籍牌規則別紙之通相定候條其地在留清國人民へ布告シ自今右規則ニ據リ取締方不都合無之樣可致此旨相達候事

明治七年四月十日

太政大臣三條實美

［添付別紙 1］在留清國人民籍牌規則

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

在留清國人民籍牌規則

清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ハス其管轄廳ヨリ相當ノ保護ヲ加ヘ遵守セシムヘキ諸規則等ヲ布達スヘク就テハ其戸數人員ヲ詳カニスルコト緊要ナレハ管轄廳ニ於テ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ因テ規則ヲ定ムル左ノ如シ

第一條

清國人民我國ニ在留セントスル者ハ著港ノ日ヨリ三日内ニ届出三十日内ニ籍牌ヲ受クヘシ若シ此日限ニ籍牌ヲ受ケサル者ハ直ニ籍牌ヲ受ケシメ手數料ノ外ニ罰金トシテ其定額ノ全數ヲ出サシムヘシ

但右籍牌ハ年々之ヲ改換スヘシ

第二條

籍牌ヲ受クルニハ願書ヲ差出シ其分限ニ應シ手數料トシテ上等ハ金二圓下等ハ金五十錢ヲ納メ七月ヨリ十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ但シ十六歳未滿ノ男及ヒ婦女ハ其等額ノ半ヲ納ムヘシ

第三條

滯留三十日ヲ越ヘサル者ハ籍牌ヲ受ルニ及ハス尤モ著港ノ日ヨリ三日内ニ届書二通ヲ認メ管轄廳ヘ届ケ出一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ檢印ヲ受ケ滯在ノ證トシテ所持スヘシ若シ此日限ニ届書ヲ所持セサル者ハ直ニ届證ヲ受ケシメ罰金トシテ下等籍牌手數料ノ全數ヲ出サシムヘシ但シ疾病竝ニ已ヲ得サルノ事故アルトキハ其旨願出猶豫ヲ受ルコトヲ得ヘシ其猶豫ノ期限ハ廿日ヲ過クヘカラス

第四條

籍牌ヲ受ケ甲港ニ在留スル者若シ乙港ニ移住セント欲スルトキハ其旨ヲ届ケ移住ノ上ハ手數料ニ及ハス甲管廳籍牌ヲ以テ乙管廳牌ト交換スヘシ

第五條

本國ニ歸リ或ハ他國ニ行ク者ハ其旨届出籍牌ヲ返納シテ其収票ヲ受クヘシ若シ又其年内何レノ港ニ限ラス再ヒ來リテ在留セント欲スルトキハ手數料ニ及ハス収票ヲ其管轄廳ニ納メテ籍牌ヲ受クヘシ

第六條

籍牌ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出更ニ定額手數料ヲ納メテ之ヲ受クヘシ其水火盗難等ニ係ル者ハ半數ヲ納メシムヘシ

但届證ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出手數料ニ及ハス更ニ受ルコトヲ得ヘシ

第七條

婚姻出産死去ノ節ハ當人又ハ其親故或ハ隨從ノ者ニテ届書ヲ認メ當人ノ籍牌ヲ受ケ或ハ返納スヘシ

第八條

毎年一月四日ヨリ日數廿日ノ間ニ其管轄廳ニ到リ籍牌ヲ改換シ定額ノ手數料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ改換ヲナサヽル者ハ手數料ノ外ニ罰金トシテ其半額ヲ出サシムヘシ

第九條

籍牌檢査ノ爲メ其筋ノ役員ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ若シ日限ヲ越ヘ籍牌ヲ所持セス或ハ改換ヲナサヽル者アル時ハ直ニ籍牌ヲ受ケシメ或ハ改換ヲナサシメ其手數料ノ外ニ第一條第八條ノ罰金ヲ出サシムヘシ若シ籍牌ヲ受ルヲ肯ンセス或ハ無力ニシテ受ル能ハサル者ハ我國無籍人同様ノ處分ヲナスヘシ

但届書ヲ所持セサル者モ亦同シ其罰金ハ第三條ノ如クナルヘシ

第十條

籍牌ヲ所持セス在留スル者出訴スル時ハ先ツ其籍牌ヲ持セサルノ罪ヲ糺シテ第一條ノ罰金ヲ出サシメ然ル後裁判ス可シ

但届證ヲ持セサル者第三條ノ罰金ヲ出サシムヘシ

第十一條

凡ソ訴狀願書届書等管轄廳ニ差出スヘキ書類ハ必ス總代人ノ證印アルヘシ地所ヲ借リ受ケ及ヒ家屋ヲ借貸賣買スルトキハ必ス約定書ヲ以テ管轄廳ヘ届ケ出其書ニ檢印ヲ受クヘシ但シ右檢印手數料トシテ雙方ヨリ金壹圓宛ヲ納ムヘシ

程村紙四ツ切

府縣准給清國人民上下等籍牌

○○

姓名　王芳軒

年齢　四十八歳

本貫　浙江省寧波府鄞縣

生業　上等　開何々號洋貨行

下等　傭工

到港　明治六年三月十二日

住址　横濱百四十九番

明治七年月　日給

程村八ツ切

○○府
縣 准 給 清 民 家 眷 牌

横濱百四十九番何々號王芳軒妻 任 子
女 孫

姓名 ――――
年齢 ――――
住址 ――――

明治七年月 日 日給

届書式

姓名
年齢
本貫
生業
寄留地
姓名
妻
姓名
子
姓名
婢奴

右何年何月何日何國何港ヲ發シ年號何
年何月何日日本國何港へ著

年 月 日

姓名 印
總代人 姓名 印

檢印

[添付別紙2] 在口清國人民籍牌規則
〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」
【本文】 太字は加筆部分

在口清國人民籍牌規則　　鄭永寧譯　鄭㊞

我國所開口岸。俟清國政府派來領事之間。該各口岸所有清國人民。無論男女。應由地方官廳量給保護。其該遵守諸各規則。須當隨時布告。則將該民戸口。細加點撿。是爲緊要。即飭該各口岸地方官廳。發給名牌。以昭編籍。

第一條

清國人民願住我國者。於到港後。務須限三日内報名。三十日内給領籍牌。如有過此限未領籍牌者。即令領牌。除收本牌規費外。罰追本額全數。但此籍牌。每年改換一次。

第二條

領籍牌時。呈開稟單。看其身家。爲上等者。納金貳圓。下等者納五十錢。以充規費。其領自七月至十二月牌者。止納本額之半。至若未滿十六歳之男女及婦女氏可納該等本領之半。

第三條

其逗留不出三十日者。毋庸領牌。惟到港後。限三日内。即具報單。一樣兩張。呈報地方官廳。將其一張呈存該廳。一張由廳蓋印。本人收存。作爲逗留之憑。如過此限未呈報單者。即令呈報蓋印。罰追下等籍牌規費之全數。倘或遇有疾病。及不得已事故。則可懇情緩期。但期不許過二十日。

第四條

初領籍牌羈住甲口。旋欲還住乙口者。將情具報。一到其口。可將甲

口官廳籍牌。低換乙口官廳之牌。免其規費。

第五條

欲回本國。或轉行他國時。必須將情具報。納還籍牌領其收票。如欲本年内再來羈住者。無論何口。可將收票呈納該口地方官廳。換領籍牌。免其規費。

第六條

遺失籍牌者。可即具報。仍納本額規費補領。其失係水火盜難者。僅納半數。如遺失印憑者。可再具報更蓋官印。竝無規費。

第七條

遇有婚姻産育及身故時。須由本人或親故或隨厮。開具報單。添領本人籍牌。及退還本尸籍牌。

第八條

毎年一月四日爲始。限以二十個日。須赴地方官廳改換籍牌。照納該額規費。如過此限不來改換者。除收本額規費外。罰追該額之半。

第九條

該管員役。有時巡査清國人民寓店。驗人有無籍牌。如有過限未領及未改換者。即令領之換之。除收本額規費外。罰如第一條第八條之數。若不肯領。或無力領者。即照我國無籍人民一體處治。其不帶憑單者亦同。當照第三條例追罰。

第十條

凡住一口竝未領牌之人。提呈詞訟。當先究問不領籍牌之罪。照依第一條例追罰。然後審判其案。

第十一條

凡有詞訟稟報。欲投地方官廳者。必須經由總保印證。如租地基。及租賃買賣房屋時。彼此合同立約。呈報地方官廳。約面請蓋官印。於蓋印日。兩家須納規費。各金一圓。

附報單式

地方　姓名　某　〃　〃
蓋印　年齡　幾十幾歲
本貫　清國某省某府某縣
生業　某　事
寄留地　某港
妻妾姓名　某　〃
子女　仝
奴婢　仝

同治幾年幾月幾日由某國某港開行於
明治幾年幾月幾日到　貴國某港是實

同治　年　月　日報某姓某名　印
明治　年　月　日某港總保某姓某名　印

第貳拾壹号　長崎縣令ヨリ同港在留清國人御國籍編入之者犯罪之節處分之伺書竝答書　明治七年三月十六日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（注）史料原本では「第貳拾壹號」の文書は「第弐拾四號」の後に収録されている。「第貳拾壹號」文書を除く「第拾八號」から「第弐拾四號」文書には西岡二等議官と鄭・大原両氏との籍牌規則訂正関係を取りまとめているため、原本目録番号に従わず原本の文書収録状態に従った。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「長崎縣」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「受付録」
〈中央罫線内書き込み〉「四月十四日　百七十九號」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞
右　局：

【本文】

支那人取扱ノ儀ニ付伺書

在留支那人犯罪ノ節御國律ニ照準シ御處置ノ儀者兼而了得仕候得共萬般ノ事件内國人民同一ノ取扱可致旨御布令無之自ラ彼我人民ノ別有之且貿易上ニ係ル筋ハ條約書ニ憑據シ彼國理事官派出無之中ハ地方官ニ於テ取締從前ノ振合【下札一】ヲ以處置可致旨壬申三月御省ヨリ御達有之因而先規ノ通取計人民上ニ關スル御布告類外國人エモ布達可致旨御指令無之分者支那人エモ施行不致候處今般裁判所ヨリ是迄支那人訴訟入費償却御國人同様取立候哉【下札二】掛合來候得共前述ノ通相心得候ニ付其處置無之右者總而ノ取扱内國人ニ異ナル事無之哉然ル時者内國人所屬ノ田畑屋舗地質入或者書入等致シ渠レヨリ金穀及ヒ商品類借リ受亦者内地旅行其外件々均一ノ取扱ニ不臻義モ有之【下札三】其區別判然御規程無之而者實際當惑ノ義モ有之候ニ付其邊至急御差圖被下度此段相伺候也

明治七年三月十六日　長崎縣令宮川房之

外務卿寺島宗則殿

【下札一】

從來ノ振合ト云フ清國人ハ條約未濟國ナレトモ締盟國人附屬シ來リ終ニハ所屬ナキ人トナリ我開港場ニ居ル者多キ故不得止籍牌ヲ與ヘ其地方官ニテ取締スルコトニ定メシナラン已ニ取締スル上ハ清人ニ遵守サスベキ御布告ハ御國人同様布告スベシ是等ノコトハ此程伺中清人統轄規則（脇に「左院ニテ籍牌ト改」と有り）ニ詳ナレハ速ニ御施行ニナル様致シタシ　右局

【下札二】

籍牌ヲ與ヘ取締スル上ハ訴訟入費ハ取立テ當然ナリ

【下札三】

内國人民ト同一ト云フハ清國人我開港場ニアル者ノ取締向ヲ云フ田地等ヲ質入シ内地旅行等ノ件ハ漫ニ他國人ニ許スベキニ非ズ　右局

//

第貳拾五號、神奈川縣令ヨリ在留清國人民籍牌規則清國譯文差回方之掛合

明治七年四月十六日

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「受付録」「要領記濟　太田㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「四月十七日　第八十一號」
〈閲覧〉辨事局：
右　局：

【本文】

第三百五十號

在留清國人民籍牌規則被相定當地在留清國人民江布告可致様太政官より御達有之ニ付而ハ各開港場ニ於て布告之清國譯文區々相成候てハ不都合ニ付御省ニ右之譯文有之候ハ、至急御さし廻有之度此段及御掛合候也

明治七年四月十六日　神奈川縣令中島信行

外務大少丞御中

//

第貳拾六號、二府五港長官へ清國人民籍牌規則之清國譯文相達候書面

明治七年四月十七日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は内容的には第貳拾五號文書の附属文書

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局　第十九号　即日達了」「受付録」

「編者付言：別紙ハ前出ニ付略ス」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞

右　局：太一㊞

【本文】　太字は加筆部分

二府五港長官宛　　外務大少丞

清國人民籍牌規則本月十日附ヲ以正院ゟ各港へ御達相成候處右規則之清國譯文各港區々相成候而者不都合ニ付本省於而別紙之通取調候間追而活版刊刷之上可相廻候得共先謄寫之分爲御心得相廻置候也

四月十四日

【付箋】

神奈川縣江者刊刷之上可相廻候得共御申越之儀も有之候間先謄寫之分相廻云々と作る

……

［別紙］外務大少丞より長崎縣令宮川房之宛　　明治七年四月十七日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は内容的には第貳拾壱號文書の附属文書

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「受付録」「要領記濟」

「辨事局　第八十五号　即日達了」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞

右　局：太一㊞

【本文】

長崎縣令宮川房之殿　　外務大少丞

清國人取扱方之儀ニ付外務卿宛云々御申出之趣有之候處本日十日附ヲ以正院ゟ清國人民籍牌規則御達相成候儀ニ付都而之ニ照準御取扱有之可然就而者御申越裁判入費之如きハ籍牌を授與し取締致候上ハ取立候事至當ニ候且〇〈以下欄外書き込み：「〇總而之取扱内國人ニ異なる事無之哉之旨御申立之處右ハ到底同一ニハ不相成儀ニ付内國人所屬地質入等不相成儀ハ壬申四月十四日御布告之通内地旅行ハ條約書ニ掲載有之通ニ候」〉此段回答如斯候也

四月十七日

//

第貳拾七號、大阪府權知事ヨリ清國人民籍牌規則中總代人給料授與之儀ニ付伺書竝答書　　明治七年四月廿日

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「辨事録　太田㊞」

「受付録　藤田㊞」

〈中央罫線内書き込み〉「四月廿八日　第百四十七號」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞　庶務局：

【本文】

本年四月十日被

仰出候在留清國人民籍牌規則中總代人ノ儀於當府下者御國人江總代申付ケ取締爲致候積リ就テハ右總代江ハ籍牌手數料之内ヲ以テ拾圓以下ノ月給ヲ與エ右精算遣ヒ拂之上壹ケ年分残金上納致シ候而不苦候儀ニ候哉至急御指揮有之度此段相伺候也

明治七年第四月廿日　　大阪府權知事渡辺昇㊞

外務卿寺島宗則殿

……

［別紙　1］前記文書の清書　　明治七年四月廿日

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外書き込み〉「副　廿七年四月十四日調　重複不要」

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「受付録」「要領記濟」

【本文】

本年四月十日被
仰出候在留清國人民籍牌規則中總代人ノ儀於當府下ハ御國人へ總代
申付ケ取締爲致候積就而ハ右總代人へハ籍牌手數料之内ヲ以テ拾圓
以下ノ月給ヲ與エ右精算遣拂之上壹ケ年分残金上納致候而不苦儀ニ
候哉至急御指揮有之度此段相伺候也
明治七年四月廿日　大阪府權知事渡辺昇
外務卿寺島宗則殿

……

［別紙　2］外務省答書　明治七年四月廿二日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は本来「第三拾號」文書の別紙とも考えられる

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞
庶務局：

【本文】
清國人民籍牌規則之清國文各港於而區々不相成ため謄寫之分爲心得
壹部ツ、相廻置候得共尚活版ニ而別紙之部數刊刷致度候事
四月廿二日

……

［別紙　3］外務省答書　明治七年五月五日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は「第三拾貳號」文書の別紙として収録されているが、内容的には第弐拾七號文書の別紙と考えられるため、ここに収録する。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」変形罫紙、罫紙上段は書き込み用二十行罫紙となっている
〈欄外書き込み〉「第百十八号」「考法局　六月九日達濟　竹内㊞」
〈欄外印〉「寫濟」「要領記濟」「考法局録　關口㊞」
〈閲覧〉卿：　輔：山口尚芳（花押）
辨事局：大原（大原重實）㊞、宮（宮本小一）㊞
右　局：太一（田辺太一）㊞、
考法局：中山（中山信彬）㊞、石橋（石橋政方）㊞

【本文】　太字は加筆部分
大阪府權知事渡辺昇殿　外務卿
四月二十日附清國人共總代人之儀ニ付御申越之趣致承知候然ルニ總代人ハ清國人民ノ代人ニシテ凡ソ内國ノ戸長ニ類似スル者ヲ云又タ取締人ハ政府ノ附屬吏ニシテ同國人民ノ締ヲ爲スモノナレハ自其取扱ふ所の取扱ハ於事務自ら公私ノ區分有之一人ニテ之ヲ兼務致シ候テハ實際上不都合ノ事モ可有之哉且總代人ハ人民ノ公選ニ任セ相定候儀ニ付給料モ亦民費ノ例ニ寄ルベキモノ哉夫レ是ノ事情ヲ察スルニ清國人ニ無之テハ相成間敷又取締人ニ至テハ能ク彼レノ情實ヲ了解シ竝彼レノ國語ニ通曉致シ候モノニ（欄外書き込み：**「取締人ハ其語文ニ通スルモノヲ要ストイヘトモ是ハ御國人ナル方可然乎　祖太一㊞」**）無之候テハ結局取締モ不行届譯ニ付是亦清國人ニ無之テハ不都合ニ可有之存候右ハ神奈川縣兵庫縣ニおゐて各港於而是迄取扱候次第モ可有之ニ付**殊ニ長崎儀ハ年來清國人關係多キ地ニも有之夫々**御打合區々不相成候樣御注意可有之候此段及回答候也
七年五月五日

追而本文取締人給料之儀ハ固ト大藏省所管ニシテ當省ノ干預スル所ニ無之候也

／／／

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「受付録　藤田㊞」
〈中央罫線内書き込み〉「五月十五日　第七十五號」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞　考法局：
右　局：

【本文】

第九百三號

清國人民籍牌規則四月十日附ヲ以正院ヨリ各港ヘ御達相成候處右規則中別紙抜書ノ件々不分明ニ付及御問合候條御調査之上否至急御回報有之度此段及御掛合候也

明治七年五月十五日　　開拓判官

外務大少丞御中

……

［別紙］

一、御規則第二條ニ其分限ニ應シ手數料トシテ上等ハ金貳圓下等ハ金五拾錢ヲ納メシム云ハ右ハ上等トシ下等トスルハ大凡商業ヲ獨立シテ營ミ得ヘキ以上ノモノヲ以テ上等トシ他人ニ傭使セラル、モノ等ヲ以テ下等ト見認區別シ可然哉

一、同第三條ニ若シ此ノ日限ニ届證ヲ所持セサル者ハ直チニ届證ヲ受ケシメ罰金トシテ下等籍牌手數料ノ金數ヲ出サシムヘシト有之右ハ犯人ニ上下等ノ別ナク同一ニ取立候儀ニ候哉

一、同第九條ニ若シ籍牌ヲ受ルヲ肯ンセス或ハ无力ニシテ受ル能ハサル者ハ我國無籍人同様ノ處分ヲナスヘシト我國無籍人ノ例ヲ以テ送致シテ本籍ニ就カシムルノ主意ニ候哉（籍牌ヲ受ルヲ肯ンセサルモノト无力ニシテ受ル能ハサルモノトハ情狀同シカラサル似タリ）方法判然心得置申度候事

一、同第十一條ニ管轄廳ニ差出ヘキ書類ハ必ス總代人ノ證印アルベシト此ノ總代人ハ彼ノ人民中ニテ彼ノ人民ノ選定スルニ任セ候哉又ハ管轄廳ニテ下命候哉給料等ノ取究ハ如何處置候哉且同條中但書ニ右檢印手數料トシテ雙方ヨリ金壹圓宛ヲ納ムヘシト右ハ專ラ清人互ノ取引ニ關シ候儀ニテ一方御國人ノ節ハ清國人ノミ納メサセ可然哉

注：原本では「第貳拾八號」文書の「別紙」の後には、「第三拾壹號」・「第三拾號」・「第三拾貳號」の各文書の各本文・別紙、及び「第貳拾七號」文書の「別紙3」が順に収録され、その後に続いて「第貳拾九號」文書が収録されている。しかし、ここでは「第貳拾八號」文書との関係を重視して原本目録に従って編集しなおした。

第貳拾九號、同判官へ前件問合之回答書竝別紙

明治七年六月四日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：内容的には第貳拾八號文書の別紙。収録位置に付いては前注参照

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」変形罫紙、罫紙上段は書き込み用二十行罫紙となっている

〈欄外印〉「寫濟」「第六十七號　考法局　六月九日達濟　竹内㊞」
「要領記濟」「考法局録」

〈閲覧〉卿：　辨事局：大原（大原重實）㊞、
輔：山口尚芳（花押）　宮（宮本小一）㊞
右　局：太一（田辺太一）㊞、
考法局：中山（中山信彬）㊞、
考法局録：關口㊞

【本文】

四月十日附ヲ以正院ヨリ各港ヘ御達相成候清國人民籍牌規則中不分明ノ件ニ御問合之趣致承知候則別紙之通候條此段及御回答候也

七年六月四日

一、御規則第二條ニ其分限ニ應シ手數料トシテ上等ハ金貳圓下等ハ金五十錢ヲ納メシム云々

此條獨立開店ノ者ヲ上等トシ番頭手代下働馬飼等ヲ下等ト認ム可キ事

一、同第三條ニ若シ此日限ニ届證ヲ所持セサル者ハ直チニ届證ヲ受ケシメ罰金トシテ下等籍牌手數料ノ金數ヲ出サシム云々

此條上下等ノ別ナク同一ニ取立ヘキ事

一、同第九條ニ若シ籍牌ヲ受クルヲ肯ンセス或ハ無力ニシテ受クル能ハサル者ハ我國無籍人同様ノ處分ヲナスヘシ云々

此條無力ニシテ受ル能ハサルモノハ有力ニシテ受ルヲ肯ンセサルモノト情狀同シカラサルニ似ルト雖モ籍牌ヲ所持セサレハ取締不行届ルニ付均シク我國無籍人ノ例ニ做ヒ本國ヘ送致シ其本籍ニ就カシムヘキ事

一、同第十一條ニ管轄廳ニ差出ヘキ書類ハ必ス總代人ノ證印アルヘシ云々

此條總代人ハ彼ノ人民ノ選定ニ任セ其給料モ亦彼レノ適宜ニ任セ可キ事

同條中ニ右檢印手數料トシテ雙方ヨリ金一圓宛納ムヘシ云々

此條清人共ヨリ取立ルノミナラス一方御國人ナラハ御國人ヨリモ取立ヘキ事

//

第三拾號、大阪府權知事ヨリ清國人民籍牌規則清國訳文刊刷之分差回方之掛合竝答書　明治七年五月二十七日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は原本では「第貳拾八號」「第三拾壹號」両文書の後に続いて収録されている

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

〈中央罫線内書き込み〉「五月廿七日　第百九十二號」

【本文】

清國人民籍牌規則四月十日附ヲ以正院ヨリ各港江御達相成候清國譯文謄寫之分御差回相成居候得共右譯文清國人開店等いたし居願立候者江壹綴宛相渡申度候間兼而御申越相成居候刊刷之分百部程至急御差回有之度此段申進候也

明治七年五月廿七日　大阪府權知事渡辺昇㊞

外務卿寺嶋宗則殿

……

［別紙　1］漢約規則送致増刷の件　明治七年五月廿七日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局　第百號　五月廿七日達ス　藤田㊞」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞

【本文】　太字は加筆部分

大阪府知參事御中　外務大少丞

清國人民籍牌規則清國文刷行之分百部程可相廻旨御申越ニ候得共右ハ一港五部宛刊刷之儀ニ付御申越し有之部數難差進**就而ハ當省於而御申越候部數摺立候も更ニ活版組立之儀ニ而到底御府於而刷行候方好都合と存候依而**此段及回答候也

五月廿七日

……

［別紙　2］漢約規則送致増刷の件　明治七年六月四日

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「受付録　藤田㊞」

〈中央罫線内書き込み〉「六月九日　第二百八號」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞、宮㊞

右　局：

【本文】

別紙寫之通本年四月廿日附を以相伺候處今ニ御指令無之就而者今日ニ差支候間至急御指揮有之候様いたし度此段申進候也

明治七年六月四日　大阪府權知事渡辺昇代理

外務卿寺嶋宗則殿　大阪府權參事内海忠衛㊞

……

［別紙　3］「第弐拾七號文書」と同じ　　明治七年六月四日

〈罫紙〉片面十行「大阪府」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】

本年四月十日被

仰出候在留清國人民籍牌規則中總代人之儀於當府下者御國人江總代申付ケ取締爲致候積リ就テハ右總代江ハ籍牌手數料之内ヲ以拾圓以下之月給ヲ與江右精算遣ヒ拂之上一ケ年分残金上納致シ候而不苦候儀ニ候哉至急御指揮有之度此段相伺候也

明治七年第四月廿日　　大阪府權知事渡辺昇

外務卿寺嶋宗則殿

//

第三拾壹號、二府五港長官へ同斷規則清國文刊刷之分送致之達書

明治七年五月二十二日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：この文書は原本では「第貳拾八號」文書の後で、「第三拾號」文書の前に収録されている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「以下七年」

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局　第二十六號　五月廿二日達了　邦士㊞」

〈閲覧〉辨事局：大原㊞　　太田㊞

【本文】

二府五港長官宛　　外務大少丞

清國人民籍牌規則清國文當省於而刊刷候條即五部及送致候也

五月廿二日

……

［別紙　1］在口清國人民籍牌規則

〈体裁〉活字印刷物

【本文】

在口清國人民籍牌規則

我國所開口岸。俟清國政府派來領事之間。該各口岸所有清國人民。無論男女。應由地方官廳量給保護。其該遵守諸各規則。須當隨時布告。則將該民戸口。細加點撿。是爲緊要。即飭該各口岸地方官廳。發給名牌。以昭編籍。

第一條

清國人民願住我國者。於到港後。務須限三日内報名。三十日内給領籍牌。如有過此限未領籍牌者。即令領牌。除收本牌規費外。罰追本額全數。但此籍牌。每年改換一次。

第二條

領籍牌時。呈開稟單看其身家。爲上等者。納金貳圓。下等者納五十錢。以充規費。其領自七月至十二月牌者。止納本額之半。至若未滿十六歳之男及婦女。可納該等本領之半。

第三條

其逗留不出三十日者。毋庸領牌。惟到港後。限三日内。即具報單。一様兩張。呈報地方官廳。將其一張呈存該廳。一張由廳蓋印。本人收存。作爲逗留之憑。如過此限未呈報單者。即令呈報蓋印。罰追下等籍牌規費之全數。倘或遇有疾病。及不得已事故。則可懇情緩期。但期不許過二十日。

第四條

初領籍牌羈住甲口。旋欲還住乙口者。將情具報。一到其口。可將甲口官廳籍牌。抵換乙口官廳之牌。免其規費。

第五條

欲回本國。或轉行他國時。必須將情具報。納還籍牌領其收票。如本年內再來羈住者。無論何口。可將收票呈納該口地方官廳。換領籍牌。免其規費。

第六條

遺失籍牌者。可即具報。仍納本額規費補領。其失係水火盜難者。僅納半數。如遺失印憑者。可再具報更蓋官印。並無規費。

第七條

遇有婚姻產育及身故時。須由本人或親故或隨厮開具報單。添領本人籍牌。及退還本戶籍牌。

第八條

每年一月四日爲始。限以二十個日。須赴地方官廳改換籍牌。照納該額規費。如過此限不來改換者。除收本額規費外。罰追該額之半。

第九條

該管員役。有時巡查清國人民寓店。驗人有無籍牌。如有過限未領及未改換者。即令領之換之。除收本額規費外。罰如第一條第八條之數。若不肯領。或無力領者。即照我國無籍人民一體處治。其不帶憑單者亦同。當照第三條例追罰。

第十條

凡住一口並未領牌之人。提呈詞訟。當先究問不領籍牌之罪。照依第一條例追罰。然後審判其案。

第十一條

凡有詞訟稟報。欲投地方官廳者。必須經由總保印證。如租地基。及租賃買賣房屋時。彼此合同立約。呈報地方官廳。約面請蓋官印。於蓋印日。兩家須納規費。各金一圓。

附報單式

地方 蓋印

姓名　某々々
年齡　幾十幾歲
本貫　清國某省某府某縣
生業　某事
寄留地　某港
妻妾姓名　某々
子女　仝
奴婢　仝

同治幾年幾月幾日由某國某港開行於
明治幾年幾月幾日到　貴國某港是實
同治　年　月　日　報某姓某名　印
明治　年　月　日　某港總保某姓某名　印
……

［別紙　2］漢約規則送致增刷の件
〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「第九十六號　五月廿四日達ス　藤田㊞」
〈閲覧〉辨事局
【本文】
東京府御中　外務大少丞
一昨廿二日及御達候清國人民籍牌規則五部ニ而者不足ニ付尚十部御廻し可申候趣致承知候則御申出之通り差廻候間御落手可被下候也
七年五月廿四日
【下札】東京府照會無之

注：原本ではこの後は「第三拾號」文書で、その後に「第三拾貳號」文書が収録されている。

第三拾貳號、大久保内務卿ヨリ同斷清國人處分之儀司法省問合書添

掛合　　明治七年六月五日

〈罫紙〉片面十行「内務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記濟」「受付録　藤田㊞」

〈中央罫線内書き込み〉「六月五日　第百六十九號」

〈閲覧〉卿　辨事局：大原㊞　右　局：

輔　考法局

【付箋】

此書面を通觀候ヘハ清國政府未た理事官を置かさる間我民法刑律とも清人江及すへき旨正院より御指令ありたる樣見へたり此一件神速卿殿の指揮依るへし　塩田㊞

【本文】

別紙之通司法省より問合有之候ニ付而者當省心得迄ニ承知致度候間左之條件詳細御示有之度此段及御懸合候也

一、在留清國人御國法を以て御處分相成候儀者全ク條約第九條ノミニ依據候事ニ有之候哉

二、全ク第九條ニ依據候ハヽ最寄開港場へ理事官無之節者我政府一手ニ而裁斷勿論之儀ニ有之候哉

三、右ニ付而者我人民彼ノ地ニ在テ同シ場合ニ於而者前同斷之儀ニ有之候哉

四、右二三頁之次第者今更ニ別段彼政府へ御掛合無之共不苦儀ニ有之候哉

五、彼等取扱上ニ就而別段之費用相立候共手數料等取立否之儀如何之御定約ニ相成居候哉

六、我人民彼ニ在而同場合ニ於而前同斷

明治七年六月五日　　内務卿大久保利通

外務卿寺島宗則殿

……

［別紙　1］司法大少丞ヨリ内務省宛之書面　　明治七年五月十五日

〈罫紙〉片面十行「内務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】

清國人處分之儀ニ付長崎裁判所長中島權中判事別紙之通申出候右ハ元來條約未濟之國ハ一般御國法ヲ以取扱來候處先般清國ト御條約濟相成候ヨリ尚又處分之儀正院へ相伺候處理事官差置候迄ハ御國法ヲ以處分致候樣可相心得旨御指令ニ候左候ヘハ諸告示等取扱ハ各地方官ニ於而も一般御國人同樣ニ致居候儀ニて有之然ルヲ今般別紙申出之趣ニ而者是迄地方官ゟ告示等不致樣相聞へ候間從前右取扱振如何之御規則ニ候哉一應承知致度此段御問合ニ及候也

明治七年五月十五日　　司法大少丞

内務省御中

……

［別紙　2］中島權中判事ヨリ司法卿へ之再伺書　　明治七年五月五日

〈罫紙〉片面十行「内務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

【本文】

清人處分之儀ニ付再伺

清人處分之儀四月一日ヲ以伺上候處正院へ御上申有之則御指令相成拝承いたし候然ルニ右御指令單ニ刑法上之處分ノミ候得共刑法民法同ク御國法ニ候得共民法之儀も同樣取扱候儀と存候左候得者於當縣是迄訴訟規則等ヲ始メ諸規則類一切清人へ告示致シ置不申候間新ニ御布告布達類都而今般新ニ清人へ告示致し右發令日ヨリ向キ日限ヲ

定メ其當日ゟ御國人同様百般我民法ニ照シ取扱可申更然上ハ縣官へも右等御達有之度右目前差迫候事件ニ候條至急御詳示被下度再應相伺候也

明治七年五月五日　　權中判事中島錫胤

司法卿大木喬任

注：原本ではこの後に「第貳拾七號」文書の「別紙3」と「第貳拾九號」文書が収録され、「第三拾三號」文書へと続いている。

第三拾三號、同卿へ前件處分之儀箇條書問合書面逐條回答之書面　明治七年七月七日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「第百六十二號　七月七日達了」

〈欄外印〉「寫濟」

〈閲覧〉卿：聞濟　本局：太一㊞、鹽田㊞、宮㊞

輔

【本文】　太字は加筆か訂正部分

内務卿大久保利通殿　　外務卿寺島宗則

在留清國人處分之儀ニ付ケ條ヲ以御問合セし趣致承知候右者逐條下ケ札ヲ以（注：波線部分は本文中丸に囲まれている）左ニ及御答候也

一條　**御問合之通修好條規**第九條ニ依據候而已ニ而候**他ニ談判等無之**

二條　彼方ゟ參領事不差越間ハ刑法ニ至り候而ハ其實難下手場合有之條約未結前之習慣ニ而此方於て所斷致來候へ共畢竟確乎たるものニ無之**候得共現場右之通無之而者差支候間我一手ニテ御裁斷致シ居候事ニ候**~~候間何レ共彼方領事淺茶~~~

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙
〈欄外印〉「別紙」「寫濟」
【本文】
清國民へ籍牌規則施行ニ付譯員御選擧云々六百三拾九號封狀ヲ以申入置候處當節御着手ニ際シ甚差支候ニ付在留清國人黄宗祐(アヨン)儀ハ和英語共相應通達候故一時日雇使用致居候得共御爲筋ハ勿論向後ハ別而清國民事務多用ニ可相成ト存候間先回申進置候通早速御選擧御差越相成度若哉其人ヲ得ス未タ御差向ニ不相成儀ニ候ハヽ其間右黄宗祐ヲ試驗旁先兩三月間ノ約定ニテ雇入可申哉尤モ給料等ノ見込ハ凡五拾圓ヨリ百圓迄ニテ取宛度心得ニ御座候儀ニ付否早速御報答有之度存候也

明治七年六月廿七日　　杉浦（誠開拓使）中判官

岡村（貞陽開拓使）少判官殿
調所（広丈開拓使）幹事殿
安田（定則開拓使）幹事殿

//

第三拾五號、同判官ヨリ清國人民籍牌規則不足之分差回シ方之掛合並答書　　明治七年七月二十四日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
注：収録位置に付いては前注参照
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」
〈中央罫線内書き込み〉「七月廿五日　第百三十二號」
〈閲覧〉辨事局：大原㊞
【本文】
第一千三百七十四號
先般御回相成候清國人民籍牌規則清文十部不足ノ趣ニ而尚御廻方函館支廳ヨリ申越候條御差回有之度此段及御掛合候也

七年七月二十四日　　開拓判官
外務丞御中

……

［別紙］外務大少丞ヨリ開拓使　　明治七年七月二十七日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
注：原本では「第三拾四號」文書の後で「第三拾六號」文書の前に収録されている。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「第八十九號　七月廿七日達了　川上㊞」
〈閲覧〉庶務局：大原縱覧
【本文】
開拓使御中　　外務大少丞
清國人民籍牌規則清文十部不足ニ付差廻し方御懸合之趣致承知候則別冊十部差送申候也
七年七月廿七日

//

第三拾六號、東京府知事ヨリ各國公使館並附屬館ニ雇置候清國人籍牌調之儀ニ付各館へ通達方之書面　　明治七年八月四日

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「支第百十八號」「第三拾六號」（注：目録番号）
〈編者附言〉「此原書ハ『外國公使館雇日本人及清國人名籍取調一件』ニ編入シアリ」
〈欄外印〉「寫濟」
【本文】
明治七年八月四日
外務卿寺島宗則殿　　東京府知事大久保一翁
清國人籍牌調之儀ニ付申上

各開港場竝東京開市場ニ在留清國人民籍牌取調御規則被仰出候ニ付而者開市場在留竝公私傭等之清國人ハ當府支廳ニ呼出し籍牌相渡候ニ付而者各國公使館竝附屬館ニ雇置候同國人も同樣處分候間本月十五日迄ニ清國人所持罷在候籍牌持參當府築地支廳江罷出候樣其筋江御達被下度猶右取調として爾後掛り官員各同館江罷越同件取調之爲メ清國人江引合候儀も可有之候間其段も同樣御達置被下度此段申上置候也

明治七年八月四日

猶以御省御雇清國人竝外國人之内同國人雇置候ものも有之候ハヽ本文之趣是又御達置被下度候也

第三拾七號、静岡縣ヨリ各港居住清國人犯罪之者處分之儀ニ付伺書

竝答書　明治七年九月八日

〈罫紙〉片面十行「静岡縣」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」「要領記濟」

〈中央罫線内書き込み〉「九月十三日　第五百十七號」

【本文】

甲第一號

從來日本各港江居住之支那人取扱之儀ハ御條約以前之通相心得可然哉假令ハ長崎居留地之者横濱居留地江赴カントシテ免狀ヲ所持セス通行スルトキハ不問ニ置キ差支無之哉將タ甲之居留地居住之者乙居留地江赴クトキハ其甲地該廳ヨリ免狀ヲ附與スル儀ニ候哉且通行中惡事等有之節ハ無論内國人民同樣逮捕致儀ト被存候是等追テ其筋江伺出ル筈候得共前條之件々至急御指令有之度此段相伺候也

明治七年九月八日　静岡縣權令大迫貞清㊞

外務卿寺島宗則殿

［別紙］山口外務少輔より静岡縣權令大迫貞清答書素案　明治七年九月

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「第二百四十五號　明治七年九月十八日達了　竹内㊞」

〈閲覧〉卿　本　局：靖㊞（野村靖）

輔：山㊞（山口尚芳）

【本文】

静岡縣權令大迫貞清殿　山口外務少輔

九月八日附を以御國在留之清國人民取扱之儀ニ付云々御申出有之候處右ハ本年四月十日第五十壹號を以各使府及五港縣へ對し太政官より御布告之旨を以相心得可然候就而ハ甲港より乙港ニ赴ク清國人民ハ其都度其縣廳江届ケ出候迄ニテ別ニ轉移之免狀附與候御規則ニハ無之候尤も内地旅行之儀ハ西洋人同樣特別之免狀無之而ハ不差許事ニ候將亦右清國人民海陸共通行之節怨事等有之候節ハ御申出之通り本邦人民同樣御處置有之可然候此段回答候也

明治七年九月

第三拾八號、開拓判官ヨリ箱館港居留之清國人籍牌授與之儀拒命之者處分之儀ニ付別紙添掛書　明治七年九月廿二日

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

〈中央罫線内書き込み〉「九月廿四日　百七十三號」

【本文】

第一千六百四十七號

當使管下函館港居留之清國人籍牌換與之儀同港清國人ハ從來歐米人ニ隷從致居商法上悉皆右各國人ノ名義ヲ以取引致シ來自ラ右等之利益ニ管シ候間今般籍牌施行ニ付テハ各國人之鼓動モ有之哉ニテ清國人不服之樣子ニ相見ヘ候間漸次差手之目的ヲ以取計方別紙之通杉浦中判官より申越候ニ付差向清國人黄宗祐ナル者雇入之儀者其運ヒニ相決候得共漸次説喩ヲ盡シ候テモ籍牌換與相拒候者本國へ放逐之儀

者到底歐米人へも管シ候筋ニ付右處分之儀詳細御報知有之度別紙寫添此段及御懸合候也

明治七年九月廿二日　　開拓判官

外務大少丞御中

……

［別紙］杉浦中判官より野村少判官、調所幹事　　明治七年八月十五日

〈罫紙〉片面十行「開拓使」罫紙

【本文】

九百三號

當港在留清國人籍牌授與之儀去ル五月中政府御達相成候御規則不取敢布告致シ候間疾ニ籍牌授與之運ヒニ可相成筈之處兼テ事情申入置候通當港清國人之儀ハ是迄他ノ外國人ニ隷從致シ居諸取引共悉皆外國人之名義ニテ商法何割ヲ外國人江供與シ甘服營業致シ外國人モ多分之利益ニ相成候事故彼我馴合今日ニ至リ然ルニ今般俄ニ籍牌規則施行ニ付而者傍ラ竊ニ外國人之鼓動無之トモ難申場合旁ニ而兎角同國人共不服ノ樣子殊ニ因襲之久シキ一朝嚴重取計候而者或ハ不測之妨害可相生ト存シ漸次ニ着手之目的ニテ六月中重立候清國人五六名呼寄セ（此者共ハ清國ゟ出店之支配人等ニテ主人タルモノハ在留無之候）今般籍牌規則御施行相成候御主意又ハ修好條規第九條之文面及ヒ自今獨立營業之權利自由等懇ニ及説諭候處粗落意之樣子然ル上ハ御規則之通惣代人選擧可申立旨相達置候處荏苒何之申出も無之ニ付猶亦七月中右人員呼立候處是人ゟ外出頭無之何等之譯ト申事モ無之頑情株守致シ候儀ト相見ヘ殆ント當節措置ニ困惑左候迚追々時日も相過キ何分難捨置場合ニ付左之順序ヲ以處分いたし度候

一、先般伺置候清人黄宗祐儀皇英語共出來至極便利ニ付先ツ三四ケ月之間官廳ニて雇入百事通辨等之用ニ供シ傍ラ同國人之方輩ヲも審知致シ彼我之情實貫通候樣致度候事

一、清國人惣代ハ在留同國人共ニテ選擧可申立筈ニ候得共前文之次第迚も昨今是等之説諭迚も可行届見推無之勿論給料等可取立譯ニ運ヒ兼候間當分是又黄宗祐へ官廳ゟ惣代心得申付清國人民ゟ可申立庶務等取扱申度候事

一、此度之御回答ニ寄リ日限聢ト相定メ居留人之届出方相達其後籍牌授與之日限是亦相達候樣可致尤故障無之爲メ各國領事江も前以懸議之上取計候樣可仕事

一、前文之手續ヲ以相達候テも不服之節ハ猶再應懇諭可致然シ强テ拒命候ハヽ本國へ放逐歟送致之取計ニ及ヒ可申哉

一、彌本國へ戻シ候ニハ何等之手續ヲ以可取計哉家財取片付本人へ隨身可爲致ハ勿論ニ候得共其節ハ外務省へ報し同省ゟ同國官吏江引渡し都合相成可申事ニ候哉

右者方今日清兩國關係之儀も有之候へハ可成丈穩便取計申度ハ萬々心頭ニ相掛候得共到底之處分方相伺置不申候而者終ニ虚唱ニ流入兎角威信を難相立次第付而ハ前文之次第具ニ長官殿へ御申立何ニ分ニモ第壹條黄宗祐雇入之御許可ト第三第四條處置方決裁相伺置申度否哉早速御回報有之度存候也

明治七年八月十五日　　杉浦中判官

野村少判官殿

調所幹事殿

//

第三拾九號、神奈川縣へ同港於テ居留清國人籍牌授與類例或ハ拒命之者本國へ送還之手續問合之書面竝返書　　明治七年十月七日寫

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「濟」「庶務局　第貳百貳號　十月七日達了　竹内㊞」

〈閲覧〉庶務局：（花押）

【本文】太字は加筆部分

神奈川縣令中島信行殿　　外務大少丞

函館港居留之清國人籍牌授與之儀何之仔細も無之不服之者多分有之樣ナ付或ハ呼出シ候而も出頭せさる者等處分方開拓使より問合有

之候處其港於而ハ是迄籍牌被行居候儀ニ付定而右等處分被致候類例
竝到底不服ゟ本國へ送還致し候節之手續等例規も可有之候間兩三條
御申越有之度若し右類例も無之候ハヽ御見込御申越有之度此段及御
懸合候也
七年十月七日寫
……
［追補］外務卿寺島宗則より各國公使宛書翰　明治七年十月九日
〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「追補」
「（編者附言）此原稿ハ『外國公使館雇日本人及清國人名籍取調一件』ニ編入シアリ」
〈欄外印〉「校了」
【本文】
校了
明治七年十月九日
一、各國公使ヘノ書翰
英　百六十號　佛　六十六號　獨　八十一號　蘭　六十號
伊　六十二號　丁　三十六號　魯　五十二號　西　三十八號
澳　二十五號　白　四十三號　米　八十一號　希　十一號
以手紙致啓上候然ハ我國ニ在留スル清國人民之儀同國政府ヨリ管理
官員派出不致間ハ我政府へ保護ヲ依賴致シ度旨之約束ニ基キ別紙規
則設立候ニ付貴公使館竝附屬諸官員へ被雇候同國人民之名籍外務省
へ御差出相成度且向後新雇辟傭之節々トモ御報知有之候樣致シ度候
右得貴意度如斯候敬具
明治七年十月九日　外務卿寺嶋宗則
各國公使　姓名　閣下
右同文言　外務大丞鹽田三郎

蘭　二十五號　瑞西　三十六號　秘魯　九號
各國領事　姓名　貴下
○別紙清國人民籍牌規則前出ニ付略ス
……
［別紙］中島神奈川縣令より外務大少丞御中　明治七年十月九日
〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙
〈欄外印〉「寫済」「濟」
〈中央罫線内書き込み〉「十月十日　第二百三十五號」
【本文】
外第九六四號
函館港居留之清人籍牌授與不服之者有之儀ニ付御掛合之趣承知致候
然るニ當港ニ於てハ籍牌授與を拒ミ候者者未タ一人も無之尤竊ニ入
籍ニ漏レ居候者を發出候時者籍牌規則ニ據リ處分致更ニ之を授與候
故不服之者を本國へ送還致候事ハ一度も無之候乍去我國ニ來る清人
ハ之を佩帶するを證據として政府より保護を加ふる爲に授與する籍
牌を受るを拒ミ候者者速ニ自費を以歸國すへき事ニ可有之且呼出し
候節出頭せざりし者ハ一人も無之候若シ右樣之者於有之者御國民同
樣之處分致候而可然事ニ存候此段及回答候也
明治七年十月九日　中島神奈川縣令
外務大少丞御中
////////////////////////////////
第四拾號、開拓判官へ箱館港居留之清國人籍牌授與之者處分方之答
書　明治七年十月十七日
〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「第百二十八號　十月十八日達了　川上㊞」
〈閲覧〉卿：寺島宗則〈花押〉　庶務局：宮㊞
輔：山口㊞
【本文】

開拓判官御中　　外務大少丞

御使管下函館港居留之清國人籍牌授與不服之輩有之儀ニ付杉浦中判官ゟ之別紙添御掛合之趣致承知候右着手御都合ニ依り通辨竝同國人事情審知等之爲メ黄宗祐雇入られ候儀ハ至極可然存候尤籍牌付與ニ付拒命之者本國へ送致之儀ハ素より保護を與ふる證據として授與候籍牌を受る事を拒ミ候上ハ國地退去を命すへき筋ニ有之候乍去呼出し出頭不致候樣之儀も候ハヽ其居處ニ付テ懇諭を加へ尚拒命候ハヽ前文之處分ニ及可然候尤神奈川縣へも振合承合候處同縣ニ而者年久敷右方法取行居候得共誰壹人拒命候者無之由ニ候畢竟箱館港者積習之餘弊より不服之念を生し候儀ニ可有之可成説諭を以心服奉戴候樣御取計有之度存候尤至急之處分ニ難及御布告之期月外ニ出候儀ニ候ハヽ其段正院へ御上申可被成候此段回答申進候也

七年十月十七日寫

//

第四拾壹號、内務省上申各港在留清國人へ諸規則等示方之儀ニ付御布達　　明治七年十一月十二日

附別紙

一、開港開市場有之各廳へ御布達

一、各港在留清國人民へ公布規則等示方之儀ニ付内務省伺書　但朱書御指令

一、外務省七廳へ之御達案

一、司法大少丞ヨリ内務省へ問合書

一、清國人處分之儀ニ付中島權判事ヨリ司法省へ之伺

〈罫紙〉片面八行「太政官」罫紙

【本文】

別紙内務省伺在留清國人へ諸規則等示方之儀朱書之通及指令竝開港開市場有之各廳へ別紙之通相達候條此旨可相心得尤向後專ラ同國人ノ爲ニ被設候規則等ハ於其省翻譯之上右廳へ可相達事

明治七年十一月十二日　　太政大臣三條實美

……

［別紙　1］開港開市場有之各廳へ御布達　　明治七年十一月十二日

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

開拓使　東京府

大阪府　神奈川縣

各通　兵庫縣　長崎縣

新潟縣

在留清國人へ遵守セシムヘキ諸規則等可布告旨本年四月相達置候處右ハ全ク同國人ノ爲メニ設ラレ候諸規則等ニ限候儀ニ付右譯文其時々外務省ヨリ可差廻候條夫々達方可取計尤既往將來共一般諸規則ノ内彼等請求候分ハ其管轄廳ニ於テ告示可致此旨相達候事

明治七年十一月十二日　　太政大臣三條實美

……

［別紙　2］各港在留清國人民へ公布規則等示方之儀ニ付内務省伺書　　明治七年七月廿九日

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

各港在留清國人民江公布規則等示方之儀ニ付伺

本年四月中各開港場へ御達有之候在留清國人民籍牌規則中清國ゟ我開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在留ノ清國人民ハ男女ヲ問ハス其管轄廳ヨリ相當ノ保護ヲ加ヘ遵守セシムヘキ諸規則等ヲ布達スヘク云々ト有之且同國條約第九條兩國ノ開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置サ（「ル」欠か・編者注）時ハ其人民貿易何レモ地方官ヨリ取締リ世話スヘシ若シ罪科ヲ犯サハ本人ヲ捕テ吟味ヲ遂ケ其事情ヲ最寄開港

場ノ理事官へ掛合律ヲ照シテ裁斷スヘシ云々ト有之右兩條ニ基キ彼等遵守スヘキ所ノ諸規則ニ布達可仕ハ勿論之處是迄一定之法則モ無之ニ付清譯布達方法取調中別紙之通司法省ヨリ照會有之候間彼是比考勘辨仕候處居留之清國人御國法ヲ以テ御所分可相成候得共全ク御國民と同視難致場合モ有之因テハ内地人民へ普達スルノ條件悉皆彼等へ布達致候儀も有之間敷凡ソ租税及ヒ不動物等ニ而彼等ニ關係無之筋ヲ布達仕候テハ却テ混淆誤認モ難計ニ付凡ソ彼等居留之安寧保護上ニ屬スル條件及ヒ金穀貸借等ノ如キ御國民ト交渉スル條規ニ限り布達いたし候方ニ可有之其辨理スル方法ニ至テハ多端可有之候得共概シテ煩冗贅費ニ係リ文理之差違各廳不齋之弊ヲ來し可申元來外交ノ事務ヲ管理スルハ外務省ノ責任ニ候間於同省管掌辨理いたし諸公布規則ヲ始メ官省使ノ布達ニ至ル迄布告スヘキ否トヲ分理翻譯之上開港市七廳へ頒布致候得者差違不齋之恐レモ無之管辨ニ可有之と奉存候篤と御審案御允裁之上ハ別紙之趣外務省竝開港市七廳へ御達其段爲心得司法省へも御達相成候樣仕度因テ御達振相添此段相伺候也

明治七年七月廿九日　　内務卿大久保利通

太政大臣三條實美殿

【朱書御指令】

伺之趣内地一般之布告等ハ別紙在留清國人へ告示ニ不及候尤右ニ付外務省竝各開港開市場有之地方廳へ別紙之通相達候條此旨可相心得事

明治七年十一月十二日

……

［別紙　4］司法大少丞ヨリ内務省へ問合書　　明治七年五月十五日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：原本では「別紙3」と「別紙4」の順序が目録とは逆に収録されている。ここでは原本に従う

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

清國人處分之儀ニ付長崎裁判所長中島權中判事別紙之通申出候右ハ元來條約未濟之國ハ一般御國法ヲ以取扱來候處先般清國ト御條約濟相成候分尚又處分之儀正院へ相伺候處理事官差置候迄ハ御國法ヲ以處分致候樣可相心得旨御指令ニ候左候得ハ諸告示等取扱ハ各地方官ニ於テも一般御國人同樣ニ致居候儀ニ可有之然ルヲ今般別紙申出之趣ニ而ハ是迄地方官ヨリ告示等不致樣相聞へ候間從前右取扱振如何之御規則ニ候哉一應承知致度此段御問合ニ及候也

明治七年五月十五日　　司法大少丞

内務省御中

……

［別紙　3］外務省　七廳へ之御達案

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：原本の収録位置に付いては前注参照

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

外務省へ之御達振

清國政府ヨリ我各開港場へ理事官差置候迄ハ各港在留之清國人民御國法ヲ以テ處置致し是ニ付而ハ諸布告規則等不差示候而ハ不都合ニ付凡彼等保護上ニ關スルノ條規及ヒ内地人民交渉スルノ事件ハ於其省分理翻譯之上各開港市七廳へ相達可申此旨相達候事

七廳へ之御達振

別紙之通外務省へ相達候間同省ヨリ譯文傳達次第在留清國人民江普達可致此旨相達候事

……

［別紙　5］清國人處分之儀ニ付中島權判事ヨリ司法省へ之伺

明治七年五月五日

〈罫紙〉片面十行「太政官」罫紙

【本文】

清人處分之儀ニ付再伺

清人處分之儀四月一日ヲ以伺上候處正院へ御上申有之則御指令相成拝承致し候然ルニ右御指令單ニ刑法上ニ處分ノミ候得共刑法民法同ク御國法ニ候得共民法之儀も同様取扱候儀ト存候左候得者於當縣是迄訴訟規則等ヲ始メ諸規則類一切清人へ告示致シ置不申候間前ニ御布告布達類都而今般新ニ清人へ告示致シ右發令日ヨリ向キ日限ヲ定メ其當日ヨリ御國人同様百般我民法ニ照シ取扱可申乎然上ハ縣官へも右等御達有之度右目前差廻候事件ニ候條至急御詳示被下度再應相伺候也

明治七年五月五日　　權中判事中島錫胤

司法卿大木喬任殿

//

第四拾貳號、開拓長官へ清國人籍牌巡回檢査之儀相達候書面

第四拾三號、東京警視長官同府知事大阪府知事兵庫長崎新潟三縣前

同斷之達書　　明治七年十一月十八日

第四拾四號、神奈川縣令へ前同斷

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：「第四拾貳號」から「第四拾四號」までの三つの文書は原本目録では別々な史料として記載されているが、実際上は一括文書として収録されている

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「寫濟」

「庶務局 第五十六號　十一月廿日達了　竹内㊞」

〈閲覧〉卿：寺島宗則㊞　庶務局：鹽田㊞（鹽田三郎）

輔：山㊞（山口尚芳）

【本文】

開拓長官殿　　東京警視長官殿（東京警視長官殿は朱書）

東京府　　大坂府知事殿

神奈川縣　　兵庫縣

長崎縣　　新潟縣　令殿

山口外務少輔

本年四月中御布達相成候清國人籍牌規則中第九條ニ籍牌檢査之爲メ其筋之役員ハ時々清國人之宿所巡廻云々と有之候處右ハ獨立開店之清國人を檢査する儀ニ而各國人民ニ附屬し或ハ雇役を受居候清國人之籍牌を檢査○（「○スルハ本條所載ニアラス若右ノ如キ外國雇使召ノ清民ヲ檢査△」注：太字部分は文中○印と△印にて書き込み）△せざるを得ざる時ハ其雇主へ無沙汰其家屋へ可立入筋ニ無之其段必す其國領事江申入領事ゟ其雇主へ通達之後檢査すへき筈ニ有之候間其旨巡査へ及申渡置可被成候尤清國人之内兇悪之所業有之捕縛せざるを得ざる時ハ雇主平民ニ候ハヽ日本人を召捕候同様途中等於而取押其雇主へハ訟ゟ速ニ斷申入候而差支無之候此段申達候也

明治七年十一月十八日寫

//

第四拾五號、清國人民取締方之儀ニ付別紙開拓使ヨリ之届書添御布達　　明治八年十月十二日

付別紙：開拓使ヨリ之上申

〈罫紙〉片面八行「太政官」罫紙

【本文】

外務省

清國人取締方ノ儀ニ付別紙開拓使届出ノ趣聞置候條此旨爲心得相達候事

明治八年十月十二日　　太政大臣三條實美

……

［別紙］開拓使ヨリ之上申書：清國人取締方ノ儀御届

〈罫紙〉片面十三行「開拓使」罫紙
〈欄外印〉「別紙」
〈中央罫線内書き込み〉「九十二」
【本文】
乙第九十二號
清國人取締方ノ儀御届
當使管下函館港在留清國人民籍牌授與相濟候以上ハ同國人之内ニテ總代撰立可致ハ勿論ニ候處同港之儀ハ清國人多ク外國人ニ付屬營業仕來リ候弊習有之他港同様一時整粛之場合ニ至リ兼左候迚右總代不相立候テハ取締向差支候間當分適宜之處分ヲ以在留同國人之内兩名相撰尤無給ニテ右籍牌手數料之内ヨリ筆紙墨料ヲ給シ取締方申付總代事務爲取扱置尤漸次御主意貫通之上彼ニ於テ總代取設候場合ニ立至リ候ハヽ右取締方ハ直ニ相廃止可申候條此段豫テ御届仕置候也
明治八年九月三十日　開拓長官黒田清隆代理
開拓少判官安田定則
太政大臣三條實美殿

第四拾六號、神奈川縣令ヨリ新舊籍牌改換ノ儀董事ヘノ諭示案添實施差支ノ有無伺出ノ書　明治十一年一月十日
附別紙
一、清國會舘董事ヘノ諭示案
〈罫紙〉片面十三行「神奈川縣」罫紙
〈欄外印〉「謄寫濟」「寫濟」
〈中央罫線内書き込み〉「一月十一日　七號」
【本文】
外第十九號
横濱在留清國人民等本月ニ於テ新舊籍牌改換可致規則之處今日ニ至ル迄改換出願セシ者壹名モ無之右ハ惟フニ清國人民等ニ於テハ今般同國ノ欽差大臣竝理事官派遣相成リ候ヨリ最早我保護ノ籍牌受クルニ及間布トノ想像説ヲ爲ス者不少ニ基キ候事哉ニ相聞得候故別紙之通リ董事共江諭示可致ト存候得共該件ニ就テハ既ニ御省ヨリ欽差大臣ヘ何等御照會被及候事有之候哉右之段一應爲心得相伺候間至急何分之儀御示達被下度候也
明治十一年一月十日　神奈川縣權令野村靖㊞
外務卿寺島宗則殿
……
［別紙］神奈川縣より清國會舘董事ヘノ諭示案　明治十年一月
〈罫紙〉片面十三行「神奈川縣」罫紙
【本文】
清國會舘董事
在口清國人民等毎年一月四日ヲ約ト爲シ限ルニ二十個日ヲ以テ地方官廳ニ赴キ籍牌ヲ改換ス可キ事ハ載セテ該規則第八條ニ在リ然レトモ今月今日ニ至迄籍牌改換ヲ願出シ者未タ壹名モ無之候條在口人民等江諭達シテ漫然規則ヲ犯ス者無之様注意可致此旨相達候事
明治十一年一月　日　神奈川縣

第四拾七號、同縣令ヘ董事ヘノ達案中改冊ノ儀令達書　明治十年一月十一日
〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「復第七号、十一年一月十一日出ス」
〈欄外印〉「謄寫濟」
〈閲覧〉卿：　書記官：（花押）
輔：鮫島㊞（鮫島尚信）
【本文】
神奈川縣權令宛　寺島外務卿
本月十日附ヲ以其港在留清國人本月新舊籍牌改換可致筈之處今日ニ至る迄其儀出頭候者無之ニ付董事共ヘ諭達案添申出相成候處未タ同

國政府及欽差大臣より我國ニ領事官ヲ置クノ旨公報無之ニ付我政府ニテ認可セル領事館設置相成候迄ハ是迄之通り我政府管内之者たるニ付右董事等へ之諭達案中籍牌改換ヲ願出候者未タ壹名モ無之候條之下へ（清國政府より領事館ヲ置カレザル間者）之文ヲ可相書入此段申入候也

明治十一年一月十一日

第四拾八號、神奈川縣權令へ籍牌其他清民ニ關スル事務ハ清國領事へ交付スベキ旨令達書　明治十一年一月廿二日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」

〈欄外印〉「第四拾八號」「校了」

〈閲覧〉印寺島卿　印宮本大書記官稿

【本文】

明治十一年一月廿二日

神奈川縣權令野村靖殿　外務卿寺島宗則

往第四號

清國公使ヨリ同國人范錫明氏ヲシテ在横浜之理事官タラシムル旨公書ヲ以報知シ來リ候ニ付爾後同人ヲ清國領事ト認メ我ヨリハ領事ト稱シ各國領事ト對等ノ格ヲ以接遇可有之候且從前籍牌其外彼人民ヲ管束スル事務ハ右領事ヲ任候以來ハ彼ヘ引渡シ縣廳ニテ處分スルニ及ハス且ツ彼ヘ右等之事務引継方及當分之内右領事ト往復スル事件之始末報知可有之候也

明治十一年一月廿二日

第四拾九號、開拓長官竝ニ二府三縣知事令へ清國人犯罪ノ時ハ在横濱同國領事へ知照スベク籍牌取調等ノ儀ハ如舊處分スベキ旨令達書　明治十年一月廿二日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『清國領事官渡來ニ付我各港在留同國人犯罪其外取扱振雑件』ニ編入シアリ」

〈欄外印〉「第四拾九號」「校了」

〈閲覧〉印寺島卿　印宮本大書記官稿

【本文】

明治十一年一月廿二日

開拓長官　黒田清隆殿

東京府知事楠本正隆殿

大坂府知事渡邊　昇殿

兵庫県權令森岡昌純殿

長崎県權令内海忠勝殿

新潟縣令　永山盛輝殿

各通　外務卿寺島宗則

報第壹號

今度清國公使ヨリ同國人范錫明氏ヲシテ在横濱之領事タラシムル旨通知有之候就テハ同港之外他之貿易場ニハ未タ領事之設無之候得共日清條約書第九條ニ據リ若清民各貿易港ニ居留之罪名ヲ犯ス時其地ニ領事官無之時ハ附近之港ニ在留スル領事ヘ知照シテ科斷セシムル旨ノ約束ニ付既ニ横濱ヘ領事差置候上ハ嗣後其貿易場ニ在留スル清民日本人民ニ對シ刑事ニ係ル所業有之時ハ右之第九條末文ニ隨處分スベシ民法ニ關係スル諸事則籍牌取調等之諸務ハ貿易港ニ現任之領事無之間ハ從前之成規ニ從ヒ同國民ヲ處分シテ差支無之其他ハ惣テ右九條之文意ヲ照シ取扱候テ不苦候依テ此段申進候也

明治十一年一月廿二日

第五拾號、東京府知事ヘ清國人ノ處罰又ハ戸籍調査ノ事務ハ在横濱同國領事へ交付スベキ旨ノ令達書

明治十一年一月廿九日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」
〈欄外印〉「第五拾號」「校了　堀㊞」「記録局編纂課　尾崎」
〈閲覧〉卿　寺島　宮本大書記官

【本文】

明治十一年一月廿九日

東京府知事楠本正隆殿

外務卿寺島宗則

往第十號

今般清國公使ヨリ同國人范錫明ヲシテ在横濱理事官タラシメ東京ヲモ兼轄セシムル旨同公使ヨリ通知有之候右理事官者乃領事官ニシテ同國人民ヲ管理候者ニ付東京在留同國人ヲ處罰シ又ハ戸籍ヲ調査スル事ハ以來彼ヘ引渡シ府廳ニテ處分スルニ及ハス候且彼ヘ右等之事務引繼方及當分之内右理事官ト往復スル事件始末當省ヘ報知可有之候也

明治十一年一月廿九日

追而右理事官范錫明者横濱ニ居住候也

《参考》

外務省記録『在本邦各國領事任免雜件』「支那之部」第一部

（六―一―八―三―一七）

往第六號（罫紙：片面八行「外務省」罫紙添削行八行付）

卿　局　關口
輔　本局
局

川路大警視殿

寺島外務卿書記官

今度清國公使ヨリ同國人范錫明氏ヲシテ在横濱ノ領事タラシメ東京在留同國人民モ兼管セシムル旨通知有之候就テハ嗣後東京在留ノ清民ハ該領事ノ管轄ニ歸シ候條此段申達候也

十一年二月七日

//

第五拾壹號、兵庫縣令ヘ在神戸清國領事ヘノ認可狀寫添同國人戸籍調査ノ事務ノミ同領事ヘ交付スベキ旨令達書

明治十一年六月十九日

附別紙

一、在神戸清國領事ヘノ認可狀寫

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」
〈欄外印〉「第五拾一號」「校了　堀㊞」「記録局編纂課　尾崎」
〈閲覧〉卿　寺島　宮本大書記官

【本文】

明治十一年六月十九日

兵庫縣令森岡昌純殿

外務卿寺島宗則

往第十九號

今般其港在留清國領事トシテ劉壽鑑氏ヲ差遣シ其港竝大坂ニ在ル同國人ヲ管理セシムル旨同國公使ヨリ申出相成別紙之通り認可狀付與致候間同氏赴任之上ハ領事本官ヲ以接遇可有之尤是迄其縣於テ取扱來候同國人戸籍調査之儀ハ彼ヘ引渡シ其他同國人民ニ付テノ事務引繼ヘキ事ハ追テ當省ヨリ可申入候間夫迄相見合可然若シ至急引繼方ヲ要スル件アラハ其旨當省ヘ申出可有之且當分之内都テ同領事官ト往復スル事件始末當省ヘ報知可有之候也

明治十一年六月十九日

……

［別紙］在神戸清國領事ヘノ認可狀寫　明治十一年六月十九日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

【本文】
別紙　　認可狀寫
大日本國外務卿寺島宗則
大清國皇帝陛下劉壽鑑氏ヲ神戸ニ在ル領事ニ命セラレタル旨ヲ述タル光緒四年五月十七日附公書ヲ以我國在留大清國特命全權公使何如璋閣下ヨリノ報知ヲ悉セリ因テ劉壽鑑氏ヲ在神戸ノ大清國領事タル旨ヲ認可シ其職ヲ奉スル權利ヲ與フルタメニ干係アル諸官廳ニ通スルニ職掌上至當ノ補助アラン事ヲ以ス
　神武天皇即位紀元二千五百三十八年
　明治十一年六月十九日東京外務省ニ於テ
　外務卿寺島宗則　印

外務省印

＼＼

第五拾貳號、大阪府知事へ清國人戸籍調査ノ事務ノミ在神戸同國領事へ交付スベキ旨令達書　明治十一年六月十九日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

原本では「第五拾貳號」の「別紙乙號譯文」と「別紙　3」との間に「第五拾三號」・「第五拾四號」両文書が挿入され収録されているが、ここでは「別紙3」から「別紙4」までの各文書を「第五拾貳號」文書の中に収録し、「第五拾三號」・「第五拾四號」両文書は「別紙4」文書の後に収録した。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」
〈欄外印〉「第五拾貳號」「校了　堀㊞」
〈閲覧〉卿寺島　宮本　記録局編輯課　尾崎
【本文】
明治十一年六月十九日
大阪府知事渡邉昇殿　外務卿寺島宗則
往第十九號
今般神戸港在留清國領事トシテ劉壽鑑氏ヲ差遣シ其府下竝ニ神戸ニ在ル同國人ヲ管理セシムル旨同國公使ヨリ申出相成認可狀附與致候間同氏赴任之上ハ領事本官ヲ以接遇可有之尤モ是迄其府於テ取扱來候同國人戸籍調査之儀者彼ヘ引渡シ其他同國人民ニ付而事務引繼方之儀者追而當省ヨリ可申入候間夫迄相見合セ可然若シ至急引繼方ヲ要スル件アラハ其旨當省ヘ申出可有之且當分之内都而同領事官ト往復スル事件始末當省ヘ報知可有之候也
　明治十一年六月十九日

……

［別紙　1］清國人民籍牌規則第拾一條之儀ニ付伺　明治十一年七月四日
〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈中央罫線内書き込み〉「七月九日　第四十一號」
〈閲覧〉卿：　本　局：
　輔：
【本文】
第一千五百十二號
　清國人民籍牌規則第拾一條之儀ニ付伺
本年六月十九日附第拾九號ヲ以テ神戸在留清國領事江事務引繼方之儀ニ付御達之趣致承知候然ル處御達ニ從ヒ同國人戸籍調査之儀彼江引渡候上者明治七年四月十日太政官公達清國人民籍牌規則第拾一條家屋地所貸借約定書檢印手數料之儀者取立ルニ不及他之外國人同樣取扱方相心得可然候哉此段相伺候條至急御指令被降度候也
　明治十一年七月四日　大阪府知事渡邉昇㊞

外務卿寺島宗則殿

【下札1】原文不見尚可取調　無之
【下札2】該伺書ニ對スル大阪府へ往復ナシ　無之

……

［別紙　2］清國領事へ事務引繼方之儀ニ付御届

明治十一年七月十一日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈中央罫線内書き込み〉「七月十六日　第四十六號」
〈閲覧〉卿：寺島宗則㊞　本　局：（花押）
輔：

【本文】

第一千五百七十号

清國領事へ事務引繼方之儀ニ付御届

本年六月十九日附第十九號ヲ以テ神戸港在留清國領事トシテ劉壽鑑氏派出相成候ニ付テハ當港在留同國人戸籍調査之儀者彼へ引渡可申旨等云々御達し之趣ニ從ヒ今般別紙甲號之通り人籍引渡方申進候處別紙乙號之通り公館未定云々廻答有之候間書類三通相添此段及御届候也

明治十一年七月十一日　大阪府知事渡邊昇㊞

外務卿寺島宗則殿

……

［別紙甲號］清國領事へ事務引繼方之儀ニ付御届

明治十一年七月四日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「甲號」

【本文】

以書翰致啓上候然ハ今般貴下神戸大坂兩港ノ領事官トシテ御派出相成候ニ付而ハ是迄當港在留貴國人民戸籍之儀可及御引渡旨其筋ヨリ申越候就而ハ御都合次第何時ニ而モ可及御引渡候條右様御承知有之度此段申進候謹言

明治十一年七月四日　大阪府知事渡邊昇

清國領事
劉壽鑑　貴下

……

［別紙乙號］清國領事へ事務引継方之儀

明治十一年七月四日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「乙號」

【本文】　太字は加筆部分

啓者昨接到
貴府照會一函内開敵國商民所關事務竝籍牌等件應歸本正理事収管等因但現在公署未定遲日**涖任**再行照會貴府移交可也特此奉覆順請勛安

名正粛

中歴六月初七日

・　・　・　・

［別紙］別紙乙號譯文

以書簡致啓上候陳者昨日我國人民ニ關渉之事務竝籍牌等之件トモ當正理事ニ御引繼可相成旨云々御照會之趣致了承候然ルニ當公館之儀未タ確定致サス就テ者暫時御猶豫相成度何レトモ當館於テ再ヒ遂照會候上速ニ御引繼ヲ請ケ可申候御回答旁此段得貴意候敬具

清歴六月七日　正粛

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

原本ではこの後に「第五拾三號」と「第五拾四號」両文書文書が収録されている

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

……

［別紙　3］清國正理事へ事務引繼方之儀ニ付上申旁伺

明治十一年九月廿五日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈中央罫線内書き込み〉「九月三十日　第六十號」
【本文】
第二千百四十壹號
清國正理事へ事務引繼方之儀ニ付上申旁伺
當港在留清國人戸籍調査竝ニ一切之事務引繼方之儀ニ付清國正理事ヨリ別紙甲號之通り申越候處本年六月十九日附第十九號御達之趣有之候間乙號之通り戸籍調査之儀而已及引渡候條右樣御承知有之度候尤も今后再應事務引継方之儀催促申越候節者御省御達之趣ヲ以テ引繼方相致候而可然哉且ツ同國人ヨリ之願伺届等總而新規相生候事件ト雖モ尚從前之通り相心得取扱ヒ候而可然哉上申旁此段併而相伺候條至急御指揮被下度候也
明治十一年九月廿五日　知事渡邊昇代理
大阪府大書記官宍戸昌㊞
外務卿寺島宗則殿
【下札】「原文不見尚可取調」
……
［別紙甲號］清國理事官より大阪府知事
光緒四年八月十六日
〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「甲號」
【本文】
大清駐劄神戸兼大坂正理事劉　爲
照會事照得本正理事前經我
欽差大臣
奏派駐劄神戸辨理神坂兩港已國商民一切事宜於中曆五月念四日特
奉專札飭令莅任竝發交
貴外務省認可狀一通奉此本正理事謹擇本月十六日開用印信起辨一
切事宜相應通知
貴府以便將敝國商民所有交渉未結各案卷竝籍牌等件移交敝署俾得
照規按律覈辨可也爲此照會希即査照
賜覆是荷須至照會者
右　照　會
大日本國大坂府渡邊
光緒四年八月　十六　日照會
……
［別紙甲號譯文］
〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
【本文】
譯
大清駐劄神戸兼辨大坂正理事劉
御照會ニ及ヒ候當正理事ノ儀ハ先般已ニ我欽差大臣ヨリ神戸ニ差向ケ神戸竝大坂兩港ノ我國人民ニ關スル一切ノ事務爲取計度旨申立ニ相成リ清曆五月廿四日右ニ付其筋清國政府ヲ云フヨリ達ノ趣ニ依リ赴任致スベキ旨被申付竝貴國外務省ノ認可狀壹通交付相成候右達ヲ承リ候ニ付テハ當正理事謹テ本月十六日ヨリ廳ヲ開キ一切ノ事務取扱ヒ可申ニ付此旨貴廳ニ及御通知候條從來御扱ニ相成居候我國人民關係ノ事件未タ結尾ニ不到廉竝籍牌等ノ事務都テ當廳ニ御引渡相成候樣致シ度然ル上ハ規則ニ據リ律ヲ見合セ公明ニ取計ヒ可申候右樣御承知至急御回答被下度此段及御掛合候也
右
大日本國大坂府渡邊ニ照會ス
光緒四年八月十六日
……
［別紙乙號］大阪府知事渡邊昇より清國正理事
明治十一年九月十九日
〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「乙號」
【本文】

第四拾貳號

貴國光緒四年八月十六日附貴翰ヲ以而今般貴下ニ於而神戸大坂兩港正理事之事務御擔任相成右同日ヨリ御開廳ニ付當府ニ於而是迄取扱來リ候貴國人民ニ關スル一切之事務可及御引渡旨御申越之趣致承知候依之先ツ貴國人民戸籍調別冊人名書ヲ以及御引渡候條兼而當府ヨリ下ケ渡有之候籍牌ハ夫々御引揚御返却被下度候別冊相添へ回答旁此段申進候謹言

明治十一年九月十九日　　大阪府知事渡邊昇

清國正理事

劉壽鑑　貴下

……

［別紙　4］外務書記官ヨリ宍戸大坂府大書記官　十一年九月三十日

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「往第二十六號」

〈欄外印〉「謄寫濟」

〈閲覧〉卿：　本局：（花押）　關口㊞

輔：

【本文】　太字は加筆部分

知事代理　　外務書記官

宍戸大坂府大書記官殿

其港在留清國人戸籍調査竝一切ノ事務引繼方同國領事ヨリ申越候處過ル六月本省第十九號ノ達面モ有之候間戸籍調査ノ儀而已及引渡候得共今後他事務引継方催促申出候節ハ相斷候テ可然哉云々第二千百四十一號附ヲ以外務卿ヘ御伺出候處該國領事ヘ可引繼事務ハ右戸籍調査ノ外何等ノ事件ニ候哉其廉々致承知度且又同國人ヨリノ願伺届等ハ從來何樣ノ事柄ニ候權限ヲ以御取扱相成儀ヤ併セテ御回答有之度此段及御照會候也

十一年九月三十日出

【下札】大坂府回答書ナシ

＼＼＼

〈欄外書き込み〉「甲號」「乙號」「電信」

【本文甲號・同上電文】

外務省　　函館開拓使

横濱在留清國理事官ノ籍牌ヲ所持シテ當港ヘ來着セシ同國人ヨリ右籍牌書替之儀願出タリ是ハ無手數（「料」欠か：編者注）ニテヨキモノ哉又ハ新來着人ト認メ更ニ手數料ヲ取立籍牌ヲ與ルモノカ此區別至急御確答アリタシ

九月五日

【本文乙號】

回答書ハ函館開拓使支廳宛十一年九月六日付往第二十六號也

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第五拾四號、時任開拓權大書記官ヘ更ニ籍牌相渡手數料取立可然旨

前件回答書　　明治十一年九月六日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注：収録位置については前注参照

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「往第二十六號」「乙」

〈欄外印〉「謄寫濟」

〈閲覧〉卿：　　本局：

輔：森㊞（森有礼）

【本文】　太字は加筆部分

函館開拓使支廳長　　外務省

時任權大書記官殿　　~~井上馨外務卿~~

横濱在留清國理事官ヨリ與ヘタル籍牌ヲ所持シ其港ヘ到着セシ同國人ヨリ右籍牌書替之儀願出候處無手數料ニテ書替可然哉又ハ新渡人ト見做シ手數料ヲ取立籍牌可附與モノカノ旨昨五日附電信ヲ以御回答之趣了承右清國人ハ~~非ス~~其港在留ノ見込ニテ渡航~~セシ者ノ~~候~~~

十一年九月三十日　　開拓書記官

外務書記官御中

……

［別紙］清國人民取締兼總代事務取扱黄宗祐ヨリ時任ヘノ來書

〈罫紙〉片面十三行「開拓使」罫紙

【本文】太字は加筆部分

當港在留ノ清國人民取締上ニ於テ不都合ノ廉左ニ

本港ヘ來港ノ清國人民籍牌授與交換ノ事籍牌規則第四條ニ依レハ甲港官廳ヨリ籍牌ヲ受ケ乙港ニ移住スル時ハ甲港ノ籍牌（〇印にて加筆「**ヲ乙港之籍牌ニ交換スルニ無手數料**」）タルベキ事ト有之然ルニ方今神奈川縣下ノ如キ既ニ清國ヨリ領事派遣相成該縣下在留清民ハ專ラ同領事ノ取扱保護ヲ受ルモノニシテ日本政府ヨリ從前授與セラレシ處ノ籍牌ハ更ニ廢止セラレタリ左スレハ一時同縣下ニ在留シテ渡來港ニ移住スル時ハ該領事ヨリ授與セシ籍牌ヲ本港ニ於テ日本政府ノ籍牌ト交換スヘキモノ歟將該領事ノ權限ト當地方官ノ權限ト自ラ差同モ可有之ト雖未タ籍牌交換授與ノ御成規御更正相成候御達モ更ニ心得不申去迚其儘交換不致候テハ當在留人ト難見做姿ニテ取締上モ敢テ不都合ナシトセズ又ハ甲港ニ於テ授與スル處ノモノニ不拘本港ヘ來港スルモノニ更ニ交付スルモノトセハ甲乙港ノ間ニ手數料ノ倍スルニ似タリ依テ爾後神奈川縣其他清國領事在留アル開港市ヨリ來港スル該國人民其領事ヨリ請取タル籍牌ヲ携帶シ當廳ヨリ交換授與方如何心得可然哉

明治十一年七月廿九日　　清國人民取締兼惣代事務取扱　黄宗祐

開拓權大書記官時任爲基殿

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第五拾六號、開拓書記官ヘ甲乙號別紙添前件回答書　　明治十一年十月二日

附別紙一、開拓使ヨリ外務省ヘノ電信寫竝ニ右對スル回答書

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「復第八十五號」

「編者附言：別紙甲號ハ十一年九月五日發函館開拓使來電報ニシテ乙號ハ同月六日付同使宛往第二十六號ナリ共ニ前出ニ付茲ニ略之」

（注：「第五拾三號」文書參照）

〈欄外印〉「謄寫濟」　　本局：來　　關口㊞

〈閲覧〉卿：　　輔：

【本文】太字は加筆部分

開拓書記官御中　　外務書記官

貴使管下函館在留清國人民取締兼總代事務取扱黄宗祐ヨリ籍牌授與之儀ニ付云々申出候旨ヲ以別紙相添第千八百二十二號付御照會之趣致了承候該件ニ付テハ去月五日函館支廳ヨリ電信ヲ以別紙甲號之通申越候ニ付同六日乙號ノ通書面ニテ及回答置候條委細右ニテ御承知有之度候此段及回答候也

十一年十月二日出

追而黄宗祐ナル者清國人民取締兼惣代事務取扱ト稱シ候得共是ハ固ヨリ清國公使ヨリ申立候役名ニアラス清國公使ヨリ領事不在ノ地ニハ人民ノ撰擧シタル董事ナル者有之**趣申越有之**我政府ニテ聞届置候得共右黄宗祐ノ如キ肩書ハ不都合ニ付以後公文ニ不認加樣御申付被下度△（△印にて欄外に加筆「**△黄宗祐ナル者右董事ニ候て董事ト稱シ候儀ハ不苦候尤官吏ニハ無之人民申合之世話取扱ト御心得可被下候也**」）

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第五拾七號、新潟縣令ヨリ人民雇入ノ清國人縣下ニ住居中ハ籍牌規則第四條ニ準據スベキ哉ノ旨伺竝ニ指令　　明治十五年六月二十日

〈罫紙〉片面十三行「新潟縣」罫紙
〈欄外印〉「記録局寫了」「要類輯」「六月廿八日編輯渡」
「六月廿四日接受」
〈中央罫線内書き込み〉「六月二十八日　記録局」
〈閲覧〉卿：　書記課：
輔：閲覧㊞

【本文】

第十七號

清國人籍牌之儀ニ付伺

現今東京府下居住清國人ヲ當縣人民ニ於テ雇入其傭使中當縣下ヘ居住爲致候節籍牌之儀ハ該規則第四條ニ準據スヘキモノニ候哉不明瞭ニ付何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

明治十五年六月廿日　新潟縣令永山盛輝

外務卿井上馨殿

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第五拾八號、同縣令ヘ前件指令ノ趣意説明往書

明治十五年六月二十八日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「記録局寫了」「要類輯」「六月廿八日編輯渡」
「六月廿八日達濟」
〈中央罫線内書き込み〉「六月二十八日　記録局」
〈閲覧〉卿：代理㊞　書記課：石橋㊞
輔：上野㊞

【本文】　太字は加筆部分

出往第四號

新潟縣令永山盛輝殿　外務書記官

清國人籍牌ノ儀ニ付本月廿日付第十七號ヲ以外務卿ヘ御伺出之處右者明治七年太政官達該規則ノ儀ハ清國人其縣ヘ居留シ又ハ他ノ開港場ゟ移住候者ヘ施行候規則ニテ我人民ニテ雇入傭使中其縣下雇主自宅或ハ**雇主於テ**他ノ家屋**ヲ借受ケ**假居**爲致**候者迄モ該規則第四條ニ準據スベキモノニ無之候間別紙之通指令相成候儀ニ有之候間此旨御了承有之度候也

明治十五年六月廿八日

……

［別紙］新潟縣ヘ御指令案

明治十五年六月廿八日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「六月廿八日編輯渡」「六月廿八日達濟」
〈閲覧〉卿：代理㊞　書記課：石橋㊞
輔：上野㊞

【本文】

新潟縣ヘ御指令案

書面雇ノ清國人ヘハ籍牌下付スルニ不及候事

明治十五年六月廿八日印

六月二十日第十七號附伺書ニ對ス指令

六月廿七日第十八號

旅券手續料

書記官　關

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第五拾九號、清國公使ヨリ在新潟夷港兩口同國人ヘノ籍牌ハ在横濱同國領事ヨリ發給シ該牌費ハ終年新潟縣令ヘ交付ノコトニ取極度旨照會

光緒十年二月十六日付
明治十七年三月十三日

參考：函館港ニ清國領事官ヲ不置件ニ關スル書類ノ所在索引

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「別紙：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清

國之部』ニ編入シアリ：編者附言」

〈欄外印〉「第五十九號」「類輯」「校了　市義㊞」

「記録局編輯課」

【本文】

公信局　近藤

光緒十年二月十六日
我明治十七年三月十三日

一、清國公使ヨリノ書翰

大清欽差大臣黎　　爲

照會事照得我國横濱理事兼轄築地箱館今又再兼新潟夷港兩口業經照會

貴外務卿該准示復我理事定期開辨唯是該二口相距横濱甚遠現時尚未派員專駐擬仍暫照

前任何大臣光緒四年六月二十八日所商箱館成案三條之法辨理

惟商民執照應統由我理事發給有願前往貿易者隨時知照新潟縣令至年終通計人數若干名時所収牌費移交該縣令查収免與箱館兩岐相應照會

貴外務卿請煩一竝飭知該地方官查照可也

須至照會者

右　照　會

大日本國外務卿井上

光緒十年二月十六日

○理事官兼轄認可ニ關スル件ハ別冊明治十七年分「官職部類」領事館ノ部中清國ノ部ニアル「横濱在留清國領事ニ於テ新潟夷港両口兼轄ノ件」ト題スル書中ニ具ス

……

〔參考〕函館港ニ清國領事官ヲ不置件ニ關スル書類ノ所在索引

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

【本文】

參考

清公使來書ニ云ヘル箱館成案云々ノ件ハ別冊明治十一年分「官職部類」中清國ノ部ニ載スル所ノ

「清國領事官ヲ函館港ニ不置ノ件」ニ付テノ參考書又ハ

「清國領事官渡來ニ付我各港在留同國人犯罪其外取扱振雜件」ト題スル冊子中乾ノ巻

「函館港ニ清國領事官ヲ不置之件ニ付同國公使ヘ往復書類」參観スベシ

明治十七年六月　　記録局

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

第六拾號、新潟縣ヘ現今在留ノ清國人人數竝ニ籍牌ハ從來附與セシ哉問合セ電信　　明治十七年三月十八日

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外印〉「記録局編輯課」「三月十八日編輯」「謄寫濟」「目録付了　合」

〈中央罫線内書き込み〉「三月十八日記録局編輯課接受」

〈前文〉

明治十七年三月十八日　起草

同　年同月　同日　發遣

卿：　　主任

輔：　亞細亞部長　近藤㊞

【本文】

電報案

新潟縣　　外務省

現今其港ニ支那人幾名在留スルヤ又籍牌ハ從來附與致候ヤ折返シ返事アレ

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

第六拾一號、同縣ヨリ前件ノ回答電信　　明治十七年三月十九日

〈形式〉電報用紙
〈欄外印〉「不要類輯」「記録局寫了」
【本文】

官報		
發局	第九十三號	
	ニイガタ分局	
	三月十九日	
	午三時五五分	
	字數百二字	

着局	第一號	
	〃月〃日	分局
技師	阿	
届出	ガイムセイ	ニイガタケン
	一月十六日編輯渡	明治十七年三月二十一日公信局接受

【本文】
トヲコヲノシナジンハツゴフロクメイアリウチシヤトヒニシテキヨグウシヨウヒヨウヲワタシセキハイハフヨセザルモノイチメイソノタハイチジノユウレキニシテハタゴヤシシクセキハイフヨセシモノゴメイナリ
……
［別紙］上記普通文
明治十七年三月十九日
〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「記録局寫了」「一月十六日接受」「不要類輯」
「近藤㊞」「明治十七年三月二十一日交信局接受」
「目録付了　合」
〈中央罫線内書き込み〉「十八年一月十六日記録局編輯課接受」
【本文】
明治十七年三月十九日午後三時五十五分發
外務省　新潟縣
電報
當港ノ支那人ハ都合六名アリ内私雇ニシテ居寓證表ヲ渡シ籍牌ハ附與セザルモノ壹名其他ハ一時ノ遊歴ニシテ旅籠屋止宿籍牌附與セシモノ五名ナリ
＼＼＼

外務卿井上馨殿

……明治十七年四月七日

［別紙］公第七號

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

【本文】

公第七號

伺之趣自今清國理事官ヨリ送付スル手數料ハ領収セサル方ト心得ベシ

明治十七年四月七日

……

［參考］函館縣令ノ伺出デタル籍牌料ハ領収セザル方至當ノ旨省議指令案竝ニ清國公使ヘ照復ノ件　明治十七年三月廿二日

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「參考」

〈前段〉

明治十七年　三月　廿二日　起草

同　年　月　日　發遣

卿：馨㊞（井上）　交信局長：浅田徳則（花押）　主任：

輔：吉田㊞　亞細亞部長

〈書き込み〉「此訴決定之上ハ清公使ヘハ同様之旨趣之回答可致候　徳則」

【本文】　太字は加筆部分

省　議

今般在横濱清國**領事**ニ於テ新潟**夷兩**港ヲモ兼轄スルニ依リ向後貿易之爲メ同港ヘ前往スル同國人ヘハ同**領事**ヨリ執照ヲ附與シ其牌費ハ函館港同様年終ニ人員ヲ總計ハシ同**領事**ヨリ新潟縣令ヘ移受可致旨別紙甲號之通同國公使ヨリ照會有之候ニ付函館縣實際之取扱振取調候處明治十二年後ハ同縣於テ籍牌ヲ付與セス在横濱ノ理事ヨリ之ヲ與ヘ手數料ハ矢張理事ヨリ年末ニ束ネテ同縣ヘ差廻候趣ニテ別紙乙號之通右籍牌料ヲ収納候ハ不穩當ナルニ付自今領収不致方ナルヤ訓示ヲ仰キ度旨函館縣ヨリ申出候依テ該件ヲ審査スルニ元同國ヨリ理事派出前我地方官ニ於テ清民ヲ管轄スル内ハ籍牌ヲ附與スルヨリ該牌費ヲ領収シ來シモ今日同國理事ヨリ執照ヲ給與スルニ該牌費ヲ同理事ヨリ送附候迚依然之ヲ領収スルハ不都合ニ付右ハ収納セザル方可然因テ函館縣ヘハ左之通御指令相成又同國公使ヘハ別紙丙號之如ク御照復相成候方ト存候

……

［參考追加］

〈罫紙〉前參考の後部に記載

〈欄外印〉「記録局編寫了」「四月七日」

〈中央罫線内書き込み〉「五月十六日記録局編輯課接受」

【本文】　太字は加筆部分

公第七號

函館縣ヘ御指令案

書面請訓之趣伺之趣自今清國領事官ヨリ送附スル手數料ハ領収セサル方ト心得ベシ

十七年四月七日附

別紙

甲號ハ光緒十年二月十六日附清國公使來翰
乙號ハ明治十七年三月廿一日附函館縣來書京第四十五號
丙號ハ明治十七年四月一日附清國公使往書公第十號

第六拾三號、清國公使ヘ新潟夷港兩口在留清國人ニ在横濱同國領事ヨリ籍牌發給ノ儀承諾竝ニ自今函館及新潟共該牌費ヲ我縣廳ヘ交付ニ及バザル旨照復（漢譯文添）

明治十七年四月一日付

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」

〈欄外印〉「第六十三號」「校了　中根㊞」「記録局編輯課」

〈閲覧〉卿：井上　　交信局：長浅田、近藤、中田
輔：吉田

【本文】

明治十七年四月一日

一　清國公使ヘノ返翰

公第十號

光緒十年二月十六日貴簡致披見候陳レハ横濱在留貴國理事官新潟夷兩港兼轄相成候ヘトモ唯是該二口距横濱甚遠現時尚未派員專駐擬仍暫照貴前任何大臣光緒四年六月所商箱館成案三條之法辨理商民執照應統由貴理事發洽前往貿易者隨時知照該縣令至年終通計人數若干名將所収牌費移交該縣令免與箱館兩岐云々御申越之趣致承知候然ルニ右牌費之儀ハ是迄貴國理事官ヨリ箱館縣令ヘ交付被致候得共自今ハ収受ヲ要セザル旨今般同縣ヘ訓達致候就テハ新潟縣ヘモ同様牌費御交付ニ不及候此他ハ御申越之通同縣ヘモ申達候間此段貴理事官ヘ御轉知有之度候右回答方々得貴意候敬具

明治十七年四月一日　　外務卿井上　馨

大清國特命全權公使黎庶昌　閣下

譯漢文

爲照復事照得頃准

貴大臣光緒十年二月十六日來文内開駐横濱

貴國理事兼轄新潟夷港兩口唯是該二口距横濱

甚遠現時尚未派員專駐擬仍暫照

貴前任何大臣光緒四年六月所商箱館成案三條

之法辨理商民執照應統由

貴理事發給前往貿易者隨時知照該縣令至年終

通計人數若干名將所牌費移交該縣令免與箱館

兩岐等因前來均經閲悉查向例該牌費統由

貴國理事移交箱館縣令在案現行飭該縣令今後

無庸収領即至新潟縣亦不必交納牌費除其他各

事當照

來因飭知該地方官遵照施行外相應照復

貴大臣請煩轉飭

貴理事査照可也須至照復者

明治十七年四月一日　　外務卿井上　馨

大清國特命全權公使黎庶昌　閣下

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾四號、新潟縣令ヘ新潟及夷港在留清國人ヘノ籍牌ハ自今在横濱同國領事ヨリ附與スルニ付從來附與ノ分返納セシムベキ旨令達書

明治十七年四月十四日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」

〈欄外印〉「第六十四號」「類輯」「校了　辻本㊞」

「記録局編輯課　清田

〈閲覧〉輔：吉田　　交信局長：浅田、近藤

【本文】

明治十七年四月十四日

新潟縣令永山盛輝殿　　外務卿井上　馨

公第壹號

横濱駐在清國理事官陳允頤ヲシテ新潟及夷港理事ノ事務ヲ兼轄セシメ候旨同國公使ヨリ通知有之候義ハ本年二月十五日附ヲ以テ申達置候處猶又同公使ヨリ該兩港ヘハ當分理事ノ官員不差置候ニ付清國人民處分方ハ箱館縣同様ノ辨法ニ照シ處分シ内國商民ヘノ籍牌ハ該兼轄理事ヨリ附與シ貿易ノ爲メ同港ヘ前往スル者有之候ヘハ隨時其縣ヘ通知シ尚年末ニ至リ人數ヲ通計シテ報知シ總テ箱館縣同様取扱候様致シ度旨申越候ニ付其縣ニ於テモ右様被相心得向後該理事ヨリ彼ノ商民ヘ籍牌附與有之次第是迄相渡有之分ハ返納セシメ候様可被取

計候此段申達候也

明治十七年四月十四日

追テ本文辨法ノ義ハ司法省ゟ其地裁判所へ達示可有之筈候此段御心得迄申添候也

○二月十五日附往書ハ別冊明治十七年分「官職部類」ノ中清國ノ部ニ就テ見ルベシ

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾五號、同縣令ヨリ前件令達承知ノ回答書

明治十七年四月廿二日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外書き込み〉「編者附言：此原書ハ『外國領事就職解任通知一件清國之部』ニ編入シアリ」

〈欄外印〉「第六十五號」「校了　谷口㊞」「記録局編輯課」

〈閲覧〉　交信局長長：浅田

近藤

【本文】

明治十七年四月廿二日

外務卿井上　馨殿

新潟縣令永山盛輝

第九號

横濱駐在清國理事官陳允頤ヲシテ新潟及夷港理事ノ事務ヲ兼轄セシメ候旨同國公使ヨリ通知有之候儀ハ本年二月十五日附ヲ以テ御達相成候處猶又同公使ヨリ該兩港ヘハ當分理事ノ官員不差置候ニ付清國人民處分方ハ函館縣同様之辨法ニ照シ處分シ内國商民ヘノ籍牌ハ該兼轄理事官ヨリ附與シ貿易ノ爲メ同港ヘ前往スル者有之候得ハ隨時當縣ヘ通知シ尚年末ニ至リ人數ヲ通計シテ報知シ總テ箱館縣同様取扱候様致度旨申越ニ付當縣ニ於テモ右様相心得向後該理事官ヨリ彼ノ商民ヘ籍牌附與有之次第是迄相渡置候分ハ返納セシメ候様可取計旨御達之趣致承知候也

明治十七年四月廿二日

追テ御追書ノ趣致承知候也

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾六號、内閣書記官ヨリ清國人籍牌手數料ノ儀新潟縣令申出ノ儀當省ヨリ可及指令旨照會　明治十七年六月廿日

附別紙　新潟縣令ヨリ伺電信文　明治十七年六月十七日

〈罫紙〉片面十三行「太政官」罫紙

〈欄外印〉「記録局編寫了」「類輯濟」「處分濟」「浅田㊞」

「明治十七年六月二十一日交信局接受」

「六月二十一日接受」「目録付了　合」

〈中央罫線内書き込み〉「七月廿一日記録局編輯課接受」

【本文】

内閣書記官局送第五六號

清國人籍牌手數料之儀ニ付別紙之通新潟縣令ヨリ照會有之候處右ハ御省ヨリ御回電御取計有之度此段及御照會候也

明治十七年六月廿日　内閣書記官

外務書記官御中

……

［別紙］新潟縣令ヨリ伺電信文　明治十七年六月十七日

〈形式〉電報用紙

〈欄外印〉「別紙」

【本文】

官報	第七十五號	新潟分局	六月十七日	午後三時　分	字數 九十四字
發局					

第四十二號	宮内省分局	六月十七日	技師古手	ナイカクショキカン	ニイカタケンレイ
着局				届出	

【本文】

セイコクジンセキハイキソクダイニシヨウニジヨウトフニエンカトフコジツセントアリイマチウトフノモノモウシイデタルニツキセキハイリヨウナニホドヲサムベキヤシキウゴホヲチヲコフ

【電文内書き込み】

「清國人籍牌規則第二條ニ上等貳圓下等五拾錢トアリ今中等ノ者申出タルニツキセキハイ料何程納ベキヤ至急御報知ヲ乞」

丙一四

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾七號、同件ニ付省議竝ニ新潟縣令ヘノ電報案

明治十七年六月廿一日起草

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「記録局編寫了」「參考」

「編者附言：別紙電報ハ明治十七年六月廿日附送第五六號内閣書記官ヨリノ照會書ノ附屬ニシテ前出ニ付略之」

〈前段〉

明治十七年　六月廿一日　起草

同　年　月　日　發遣

卿：　　交信局長：浅田　　主任：㊞

輔：大輔閲覧㊞　亞細亞部長

【本文】　太字は加筆部分

清國人へ籍牌附與竝ニ手數料領収ノ義ニ付テハ本年三月中清國公使ゟノ照會竝ニ函館縣ヨリノ請訓之趣モ有之省議ノ末函館新潟夷港へ前往スル**清國人ヘノ**籍牌ハ在横濱理事官ヨリ發給シ手數料ハ収納セサル事ニ議定シ四月中其趣該兩縣へ申達シ新潟縣ゟハ達示ノ趣承知候旨申出有之候ニ付別紙新潟縣ヨリノ電報ニ對シテハ不取敢左之趣意電信ヲ以テ申達シ尚委曲ハ書面ヲ以テ申送リ可然ト存候

電報案

（「十八年五月七日記録局編輯課接受　目録附了　合」の挿入㊞有）

新潟縣令永山盛輝殿　　外務省卿井上馨

清國人籍牌給與ノ義申出タル者アラバ本年四月十四日公第一號ヲ以テ申達シ置候趣ニ據リ**清國理事官ヨリ附與スベキモノトス其□了**ハ附與スルニ不及尚委細ハ郵書ニテ承知スベシ**便ニテ達スベシ**

（「五月七日編輯渡」の挿入㊞有）

十七年六月廿一日附

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾八號、新潟縣令へ清國人籍牌ハ理事官ヨリ付與スヘキ者ニシテ縣令ヨリ付與スルニ及ハサル旨ノ電報

明治十七年六月廿一日

（該当文書無し。但し電報内容は前史料參照）

＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼

第六拾九號、新潟縣令へ前文ノ意ヲ詳述シ然ルニ斯ク御問合セアルハ何カ行違ヒアリシニヤ問合　明治十七年六月廿四日

〈罫紙〉片面八行添削行付「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「記録局編寫了」「目録付了合」

〈前段〉

明治十七年　六月　廿三日　起草

同　　年　六月　廿四日　發遣

卿：　　交信局長：浅田　　主任：㊞

輔：吉田（尚芳）㊞　亞細亞部長

【本文】　太字は加筆部分

公第四號

新潟縣令永山盛輝殿　　公信局長外務大書記官浅田徳則

清國人籍牌手數料ノ義ニ付本月十七日附電報ヲ以テ内閣書記官江御問合ノ處右ハ當省回答取計候様同書記官ゟ照會有之候ニ付事務局ゟ當省ニ於テ同廿一日不取敢電報差立置候ヘ共元來右籍牌附與ノ義ニ付テハ本年四月十四日附公第一號ヲ以テ外務卿ゟ被達置候通清國商民ヘノ籍牌ハ同國理事ゟ發給候筈ニ付若シ彼商民ニシテ籍牌給與ノ儀申出タル者有之候ハヽ右御達ノ旨趣ニ據リ御縣ゟ附與スルニ不及ハ勿論ニシテ既ニ御縣ゟ籍牌附與セザル以上ハ今般ノ如キ手數料ノ儀ニ係ル御問合ハ要セラルヽニ不及儀ト存ジ候**此段セラレ候然ルニ右様御伺相達候ハ何れ行違ノコトハ無之哉之御問合方**爲念申達候也

第七拾號、新潟縣令ヨリ今般理事官ノ添書ヲ携帯來着スル清國人籍牌下附ヲ願出ニ因リ御問合セ及ヒシ義ナル旨回答

明治十七年七月一日

別紙：清國理事官ヨリ縣令宛照會書三通

〈罫紙〉片面十三行「新潟縣」罫紙

〈欄外印〉「記録局編寫了」「類輯濟」「八月四日編輯局」

「交信局長　閲了」「交信局」「近藤㊞」

「七月四日接受」「明治十七年七月四日交信局接受」

「目録付了合」「大輔閲覧」

〈中央罫線内書き込み〉「八月四日記録局編輯課接受」

【本文】

第二十四號

清國人籍牌之儀ニ付客月廿四日公第四號ヲ以テ御申越之趣了承該件ニ付テハ本年四月外務卿ヨリ御達之趣ニ依リ理事官ヨリ籍牌附與次第地方廳ヨリ下附セシ分返納候様取計置候得共今以テ理事官ヨリ縣令宛之添書携帯來着スル同國商民ニシテ籍牌下附方ヲ地方廳ヘ出願スルモノ有之殊ニ右添書中ニ上等商民何某中等商民何某ト區別シ記載有之然ルニ籍牌規則ニハ上等下等而已ニテ中等無之處ヨリ内閣書記官ヘ問合候儀ニ有之尤今般之御申越ニテ一切下附ニ不及儀ト存候得共昨今東京横濱函館等ヨリ來着シ理事官ヨリ籍牌附與無之又地方廳ヨリモ下附セス無籍ト相成候テ差支無之候哉此段爲念及御問合候也

明治十七年七月一日　　新潟縣令永山盛輝㊞

公信局長

外務大書記官浅田徳則殿

追テ理事官ヨリ縣令宛ノ添書寫別紙之通ニ付御參考マテ及御送付候也

……

［別紙　1］清國領事官ヨリ縣令宛照會書　　光緒十年四月二十七日

〈罫紙〉片面十三行「新潟縣」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「別紙」

【本文】

大清駐箚横濱兼管築地箱館新潟夷港正理事官陳㊞爲照會事據敝民魏學勤請赴新潟夷港經商除由本署給發執照飭向貴縣呈驗外例合備文行知務希就近照料至其牌費應俟年終統計一並移交須至照會者

計開

上等商民一名魏學勤

右　照會
大日本國新潟縣令永山
光緒十年四月二十七日

……

［別紙　2］清國領事官ヨリ縣令宛照會書　光緒十年四月二十七日

〈罫紙〉片面十三行「新潟縣」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「別紙」
【本文】
大清駐箚横濱兼管築地箱館新潟夷港正理事官陳㊞爲照會事據敝民陳承文請赴新潟夷港販賣貨物除由本署給發執照飭向貴縣呈驗外例合備文行知務希就近照料至其牌費應俟年終統計一並移交須至照會者
計開
中等商民一名陳承文
右　照　會
大日本國新潟縣令永山
光緒十年四月二十七日

……

［別紙　3］清國領事官ヨリ縣令宛照會書　光緒十年四月二十六日

〈罫紙〉片面十三行「新潟縣」罫紙
〈欄外印〉「類輯濟」「別紙」
【本文】
大清駐箚横濱兼管築地箱館新潟夷港正理事官陳㊞爲照會事據敝民楊瓊生楊本利兩名請赴新潟夷港販賣貨物除由本署給發執照外例合行知貴縣務希
就近照料至其牌費應俟年終統計一並移交已蒙我
欽差大臣與
貴外務省卿商定飭遵在案想
貴縣亦經譽悉矣須至照會者
計開
中等商民楊瓊生
楊本利
右　照　會
大日本國新潟縣令永山
光緒十年四月二十六日

／／／

へ來宿之御國人身元貴縣ニ於テ認定方ハ理事官發給之執照携帶有無御取糺相成其携帶せさる者ハ當人へ執照取敷方被命候哉又ハ貴縣ゟ直ニ理事へ照會相成候哉時宜ニ依り御取計相成可然致候將又理事官書面末文上中下等商民之區別竝ニ手數料云々之儀も有之候へとも右者既ニ此方ゟ籍牌發給せさる上ハ手數料拝納候譯も無之即チ本年四月外務卿ゟ被相達候通リ**彼國公使ヘモ其趣ハ既ニ相通シ候儀ニ付**拝納不相成方と御心得有之度此段回答申進候也

追而御差廻之理事官書面ハ執照給付之旨通知之書面ニ而籍牌請求之許書ニハ無之様被存候依而爲念翻譯之上等別刷是又申進候也

……

［別紙］清國領事官ヨリ縣令宛照會書譯文　　光緒十年四月二十七日

〈罫紙〉片面十三行「外務省」罫紙

〈欄外印〉「類輯濟」「別紙」

【本文】

以書翰致啓上候然者我國人魏學勤なる者商業之爲新潟夷港へ罷越度旨願出候ニ付本署ヨリ執照下渡者貴縣之御認めを受る様申付置候因而此段及御通知候條其最寄於而相應之保護を與へられ度希望候尤籍牌手數料之儀者年末ニ至リ計算之上一度ニ差出可申候右及照會候敬具

記

上等籍牌ヲ領受シタル商人壹名魏學勤

光緒十年四月二十七日　　大清正理事官陳允頤

新潟縣令永山盛輝殿

〈追記〉

本稿、並びに「幕末・明治初期の在留清国人取締関係史料について―外務省記録『条約未済国人及清国人取締方参考書』―」（『神奈川県立博物館研究報告（人文科学）』第十五号　一八九八年三月）は、昭和六三年度および平成元年度文部省科学研究「近代日本の対清政策と居留清国人取扱問題―刑事民事訴訟問題を中心に―」（一般研究C，課題番号６３５１０１９４）の研究調査の一部である。